

東京都国分寺市

恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅴ

(本文編)

2008.3

国分寺市教育委員会

序

国分寺市内における縄文時代の遺跡は、市内を流れる野川流域に沿った通称「ハケ」とよばれる崖線上の武蔵野台地に集中している。武蔵野台地は「恋ヶ窪谷」「さんや谷」「殿ヶ谷戸谷」「本多谷」などの谷戸により分割されており、恋ヶ窪遺跡・恋ヶ窪南遺跡・羽根尺遺跡などはこうした谷に面した台地の縁辺部で発見され、崖線下には多くの湧水があり、先史時代の人々の生活を支えていたことをうかがわせる。これら遺跡群の中でも恋ヶ窪遺跡は古くから知られている遺跡で、昭和12年に後藤守一先生が調査されて以来過去に幾度も調査が行われてきた。

市教育委員会では昭和52年に恋ヶ窪遺跡調査会を組織し、昭和61年からは国分寺市遺跡調査会として再編成し、遺跡の保存と活用を目的として開発に伴う緊急調査を行い、畑地においては遺跡の内容と範囲を把握するために確認調査を実施してきた。

調査の多くは開発に伴う緊急調査や下水道管埋設に伴う調査である。決められた範囲を限られた時間で数多くの情報を記録せねばならない調査であり、こうした調査の成果から縄文時代中期の集落が中央部に土坑群を有する馬蹄形の集落を形成していることが明らかになってきた。本報告は、開発に伴う緊急発掘と異なり、遺跡の範囲確認調査として学術発掘を行ったものである。調査の対象とした地或は西恋ヶ窪1丁目22番地他で、鈴木三郎氏の畑地であり、昭和55年度の第14次調査より16・17・18・19・21次調査を経て昭和61年度第26次調査まで継続して調査が行われた。その結果、恋ヶ窪遺跡の中心部分の住居が密集する様子が明らかにされた。

ここにその調査成果を報告書として公にする運びとなったことは、調査団各位の御尽力の賜物である。本報告書が広く埋蔵文化財の保護・普及に役立つとともに、調査により得られた資料が国分寺市の古代文化や歴史の解明に少しでも供することができれば幸いである。

最後に、調査の主旨を理解され多大な御協力と御援助をいただいた土地所有者の鈴木三郎氏に感謝し厚く御礼申し上げる所である。

平成20年3月31日

国分寺市遺跡調査会会長

坂 皓 秀 一

例 言

1. 本書は、東京都国分寺市西恋ヶ窪1丁目に所在する恋ヶ窪遺跡において昭和52年以来実施されている調査の内、第14・16・17・18・19・21・26次調査の成果をまとめたものである。
2. 本報告は、1991年度に刊行された「恋ヶ窪遺跡調V」（図面・図版）の本文編である。
3. 本調査は、恋ヶ窪遺跡範囲確認調査として国分寺市教育委員会から委託されたものである。なお、これらの調査は国庫補助金対象事業である。
4. 調査は、第14次調査は昭和55年10月22日から56年1月14日、第16次調査は昭和57年2月1日から同年3月31日、第17次調査は昭和57年6月2日から同年9月13日、第18次調査は昭和58年6月15日から同年10月28日、第19次調査は昭和59年7月9日から同年11月30日、第21次調査は昭和60年6月5日から同年11月5日、第26次調査は昭和61年10月29日から62年2月27日まで行った。また、整理および図面・写真図版編の報告書作成は平成3年3月31日まで国分寺市遺跡調査会恋ヶ窪事務所で行い、本文編の報告書作成は平成20年3月31日まで国分寺市遺跡調査会で行った。
5. 発掘調査は広瀬昭弘が専従した。
6. 本書の執筆・編集は、坂詰秀一・吉田格・滝口宏・永峯光一・大川清の監修のもとに上敷領久が担当し、上村昌男がこれを助けた。
7. 執筆担当はI～Vまでを上敷領が担当し、VIの小結を中山真治氏と黒毛和久氏より玉稿をいただいた。
8. 発掘調査から報告書の作成に至る過程で、次の方々から御教示、御協力をいただいた。
(敬称略、順不同)
早川泉、河内公夫、秋山道生、山崎和巳、砂田佳弘、中山真治、黒尾和久
9. 発掘および整理参加者（敬称略、五十音順）
発掘作業
秋池勝利、阿部聖昭、新井哲人、荒井一哉、市蘭勝志、入江涉二、岩崎洋、上野安春、大沼典剛、大元進太郎、刑部康雄、鍛冶孝明、桂弘美、加藤淳也、桑原茂、塩田光司、斉藤康夫、斉藤裕文、佐々木稔明、佐藤敏郎、品田圭二、志村良一、進藤岳史、末岡隆宏、菅野光一郎、関博文、関美男、

関原剛、宗川享一、高頭健太、竹内正則、田中祥介、土屋貢、中丸幸男、那知上清、西山和成、野村勝也、長谷川昌生、畑山豊、林真一、馬場勝、平川徹、広瀬桂、広田豊、福井健二、藤井香、堀苑孝志、町田義徳、松見幸美、松本丈夫、丸山徹、三島正博、宮久保貴史、森本伊知郎、山室文彦、湯瀬禎彦、吉岡哲、吉原誠、渡辺一美、武蔵野女子大学考古学同好会

整理作業

天野光子、飯塚奈津子、石川朗、石田恵美子、井村みゆき、内田勝巳、遠藤佐、大羽正子、岡島チヅエ、絹川一徳、木村初江、小菅将夫、小林たづ子、小松真名、小松明美、斉藤さだ子、佐藤恵美子、佐野蒨代、志摩明子、庄司由美子、助川剛栄、鈴木麻弥、鈴木雪江、関欣子、関口博幸、外谷悦子、千葉則子、塚田典枝、富山正明、中村宣弘、榎岡ゆう子、中山真治、長谷川光子、原俊二、原田瑞枝、東清子、深瀬恵津子、藤崎努、真室幸仁、三宅良明、緑川泰弘、皆川洋一、村井ユキ子、村山資子、森安敦子、山岸加寿子、渡辺かおる、若林雅子

凡 例

1. 国分寺市内の武蔵国分寺跡を除いた遺跡は、頭に「K」を冠し次に遺跡の番号と調査次数を記入する。本文中において「K 2-18」は、恋ヶ窪遺跡の18次調査を意味する。
2. 遺構は各遺構毎に発見順に連続番号を付したが、整理工程の事由により必ずしも調査次数順とはなっていない。その番号は本遺跡全体における登録番号であり、本調査地区のみで完結しない。
3. 遺物の記述は全て一覧表によった。表記方法は下記の通りである。
 - ① 出土遺物の番号は図面番号を用いた。例えば「100-1」とあれば「図面100-1」を指す。
 - ② 出土位置の内、「26号住」は26号住居址、「52号土」は52号土壌、「包含層」は遺物包含層を示す。
 - ③ 計測値のうち、記号なしは完形数値、(())は復原数値、()は残存数値、- は計測不可を表す。

本文目次

序	
例言	
凡例	
I 調査に至る経過	1
II 調査地区の概観	2
1. 調査地区の位置・立地	2
2. 層序	2
III 発掘経過	5
IV 検出遺構	10
1. 勝坂式期住居址	10
2. 加曽利E式期住居址	18
3. 土壇	24
V 出土遺物	27
VI 小結	128
1. 勝坂式期	128
2. 加曽利E式期	130
VII 結語	133

参考文献

国分寺市遺跡調査会組織

報告書抄録

挿 図 目 次

第1図	恋ヶ窪遺跡と周辺の遺跡 (1/25000)	3
第2図	基本層序	4
第3図	調査地区の位置 (1/1500)	6

表 目 次

第1表	調査工程表	7
第2表	調査工程表	8
第3表	調査工程表	9
第4表	出土土器集計表	32
第5表	出土石器集計表	33
第6表	土製品・石製品集計表	34
第7表	出土土器一覧表	35
第68表	出土土器一覧表	96
第69表	出土石器一覧表	97
第95表	出土土器一覧表	123
第96表	土製品・石製品一覧表	124
第99表	土製品・石製品一覧表	127

I 調査に至る経過

恋ヶ窪遺跡は、近年の住宅化の進捗に伴い調査可能地が少なくなって来ている。本調査地は西恋ヶ窪1丁目225・226番地に所在する畑地で、恋ヶ窪遺跡に残された数少ない調査可能地である。

調査地周辺では、南へ80m以内の地点での数次にわたる調査により20軒程の住居址が検出され、西側における個人宅造に伴う調査及び過去の調査によって住居址の存在が確認されている。

本調査地はこの中間に位置し集落の北東域に当たるものと考えられ、恋ヶ窪遺跡の集落における遺構・遺物の状況を明らかにし、集落の構造を解明することを目的とした範囲確認調査を行うこととなった。

以下、調査方法について記述する。

- ①発掘深度は縄文時代の遺構確認面であるローム層上面（地表より1m）を基本とする。それ以下に包蔵されている先土器時代の遺物については確認調査にとどめる。
- ②発掘調査に伴う敷地の仮囲い・調査事務所などの仮設工事および表土除去・残土処分・調査終了後の埋め戻しなどの土木工事は、工事請負費として調査費に組み込み実施する。
- ③調査作業の内、遺物の実測・取り上げ作業についてはトータルステーションを使用し効率的に行う。
- ④現地調査終了後、調査会恋ヶ窪事務所・武蔵事務所において整理作業を行う。
- ⑤整理作業は、発掘調査報告書の刊行まで行う。

Ⅱ 調査地区の概観

1. 調査地区の位置・立地

恋ヶ窪遺跡は、国分寺市西恋ヶ窪1丁目と東恋ヶ窪1丁目日立中央研究所構内の一部に所在し、多摩川の支流である野川最上流部に位置する縄文時代中期の集落址である。標高76mの武蔵野台地上に立地し、眼下には崖線からの湧水を集めつつ流れとなる野川の源泉を見下ろすことができる。

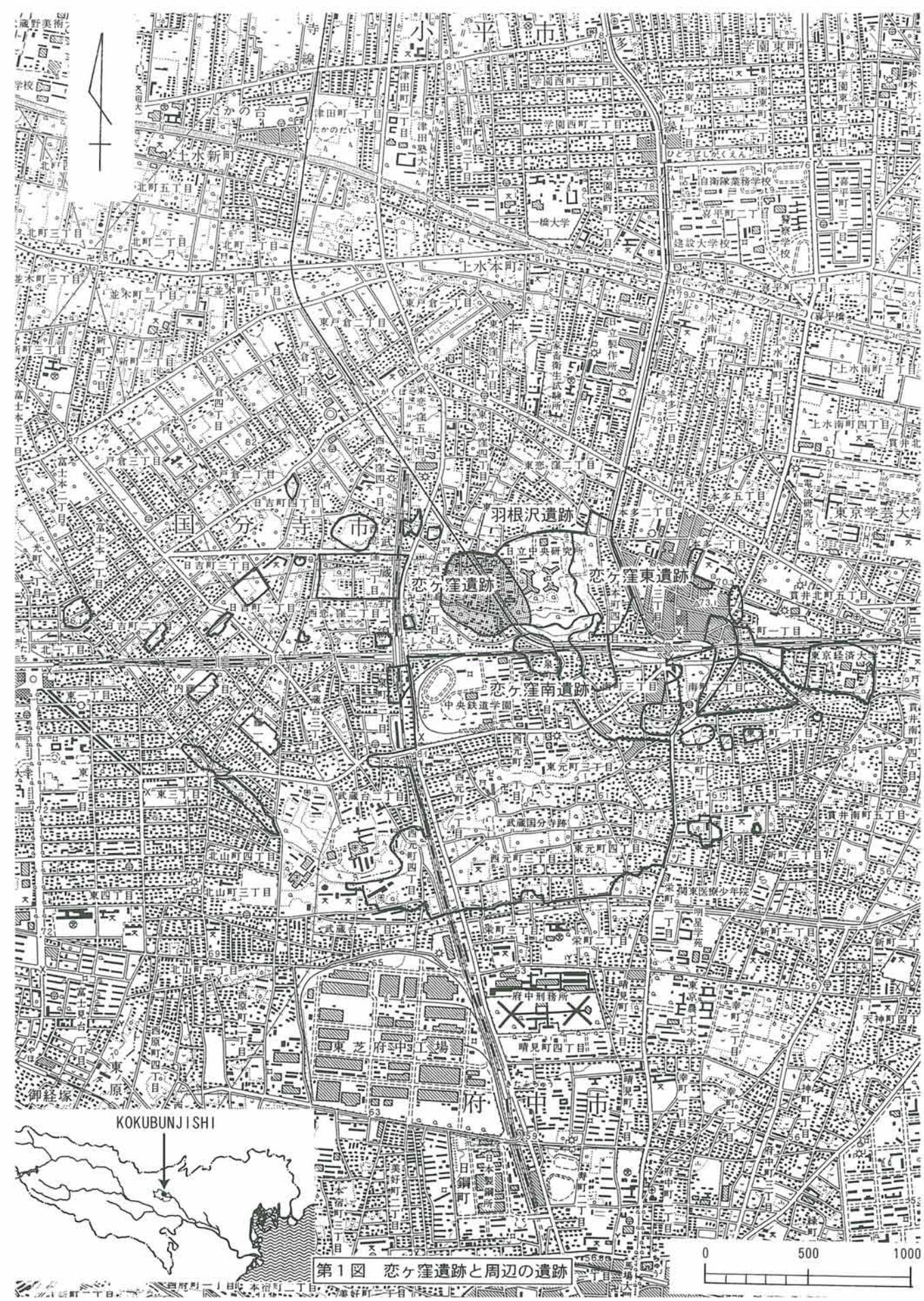
市内を流れる野川流域には小支谷や湧水地が数多くあり、その近辺には遺跡が点在している。それらの多くは縄文時代中期の遺跡として捉えられており、本遺跡は其中でも代表的な遺跡といえよう。遺跡は、北側を除く三方向を野川の開析谷に囲まれた舌状台地の南西側に広がっており、同台地の南東部には羽根沢遺跡が立地している。また、谷をはさんだ南側の台地には日影山遺跡・恋ヶ窪南遺跡・多喜窪遺跡などが立地する。

恋ヶ窪遺跡の立地する台地は東西600m、南北400mの広さを持ち、標高76mで崖線下の低地部分との比高差は12m前後である。台地を刻む谷は南側から西に延びる恋ヶ窪谷とさんや谷の二つの谷で、台地南東部で合わさり湧水を集めて野川となり南流する。恋ヶ窪谷は比較的幅広のU字状の谷で、その傾斜は緩やかである。さんや谷は台地の東側では急傾斜で幅の狭いV字状を呈するが、北側に廻ると浅いU字状の谷となり台地の奥まで連なる。これらの谷筋には埋没・枯渇したものを含めると10箇所以上の湧水地点が確認され、水利に恵まれた集落を営むに優れた地形であったことがうかがわれる。

2. 層 序

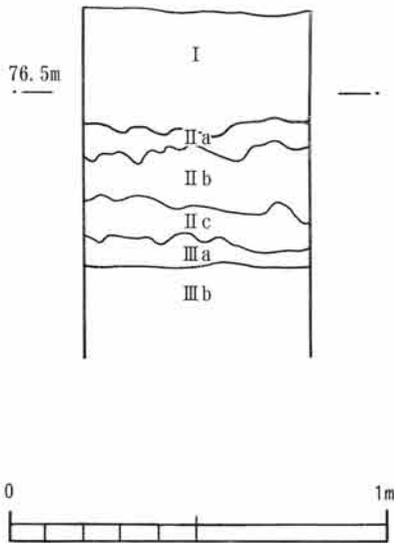
今回の調査は、西恋ヶ窪1丁目地内の武蔵野台地上に位置する。基本層序は調査地における土層の断面図を使用した。

- I 層 黒色土 畑耕作土で、平均して30~40cmの層厚をもつ。本層下部より遺物が出土しはじめる。
- II a層 黒色土 粒子粗く、締まりのない、黄色スコリアを少量含む。10cm前後の層厚をもつが、I層の攪乱により本層の認められない部分もある。
- II b層 暗茶褐色土 粒子細かく、堅く締まり粘性をもつ。赤色スコリア・ローム粒子、部分的に炭化物を含み、20cm程の層厚をもつ縄文時代の遺物包含層で、遺構は本層中より掘り込まれている。



第1図 恋ヶ窪遺跡と周辺の遺跡

- Ⅱ c 層 暗茶褐色土 Ⅱ b 層に酷似するが、赤色スコリアの量が増し、色調もやや明るくなる。Ⅱ b 層に比べ遺物は稀薄となる。
- Ⅲ a 層 茶褐色土 ローム漸移層。Ⅱ b・Ⅱ c 層とは漸移的に変化している。本層上部において縄文時代の遺構確認を行った。
- Ⅲ b 層 黄褐色土 軟質ローム層。立川ローム最上部で、いわゆるソフトローム層である。



第2図 基本層序

Ⅲ 発掘経過

本調査は、昭和55年度に試掘調査（第14次調査）を実施し、その後、調査期間や調査費用などから調査地を6つに区分し、6年度にわたって調査を行った。

以下、調査の概略を記することとする。

K 2-14次調査

試掘調査期間 昭和55年10月22日～昭和56年1月14日 実働日数49日間

試掘調査面積 366m²

試掘調査は遺構・遺物の確認調査にとどめ、本調査計画作成のために地表面から遺物包含層の深さや遺構確認面までの深さについて記録作業を行った。

K 2-16次調査

本調査期間 昭和57年2月1日～同年3月31日 実働日数39日間

本調査面積 163m²

K 2-17次調査

本調査期間 昭和57年6月2日～同年9月13日 実働日数65日間

本調査面積 220m²

K 2-18次調査

本調査期間 昭和58年6月15日～同年10月28日 実働日数90日間

本調査面積 315m²

K 2-19次調査

本調査期間 昭和59年7月9日～同年11月30日 実働日数94日間

本調査面積 240m²

K 2-21次調査

本調査期間 昭和60年6月5日～同年11月5日 実働日数88日間

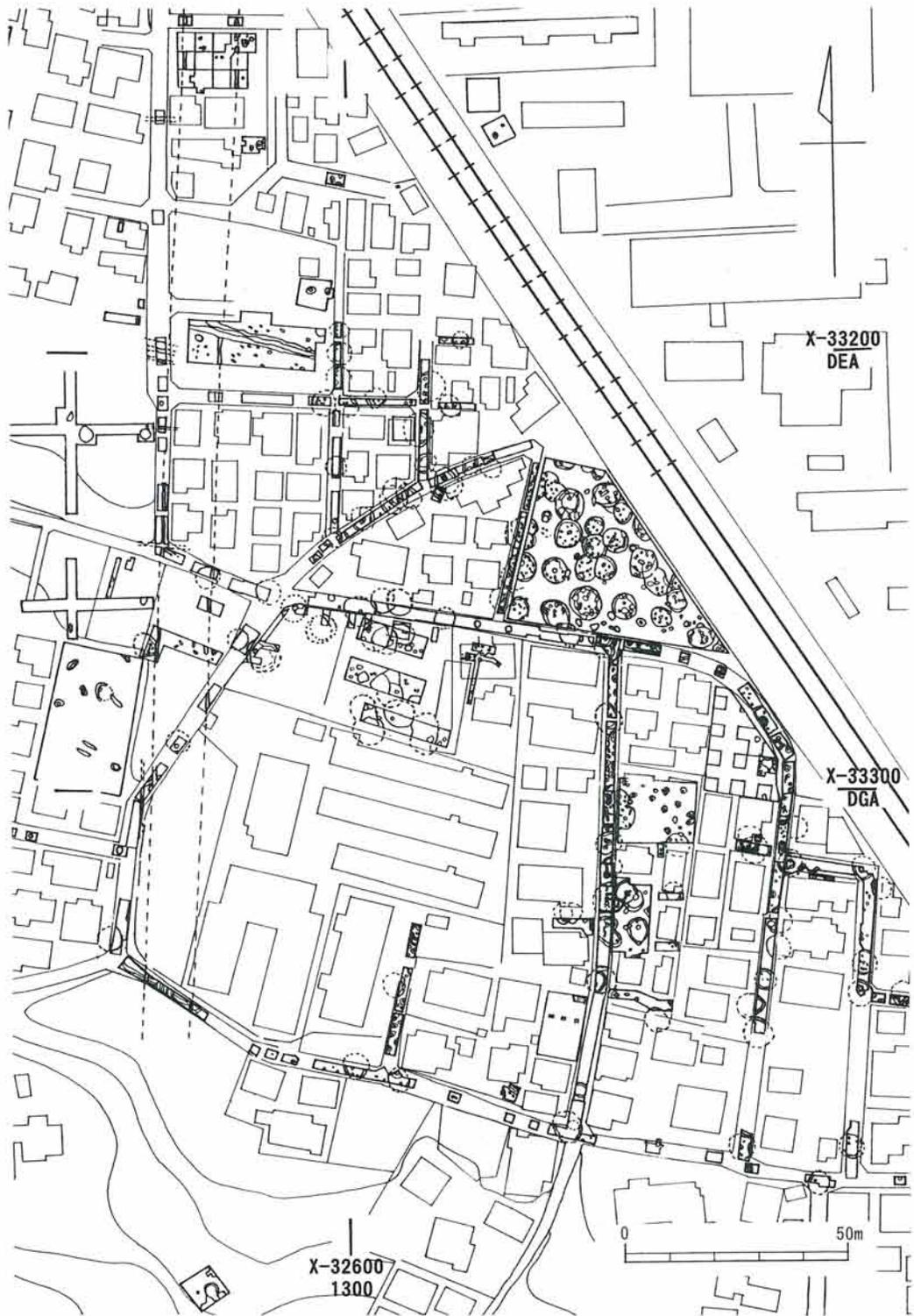
本調査面積 243.5m²

K 2-26次調査

本調査期間 昭和61年10月29日～昭和62年2月27日 実働日数73日間

本調査面積 222m²

各調査地点の進行状況については、次表にまとめてあるので参照されたい。



第3図 調査地の位置

第1表 調査工程表

K2-14

年月日	1980年			1981年			1982年													
	10月			11月			12月			1月										
項目	25	30		5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	30	5	10	15	20	25	30
土・日・祝・祭日他	<input type="checkbox"/>																			
雨天作業中止																				
実作業累計	5			10	15	20	25	25	30	35	40	45	45	49						
調査区全域	<input type="checkbox"/>																			
遺物包含層	<input type="checkbox"/>																			
遺講確認	<input type="checkbox"/>																			
備考	(22日) 調査開始												(14日) 調査終了							

K2-16

年月日	1982年						1983年								
	2月						3月								
項目	5	10	15	20	25		5	10	15	20	25	30	35	39	
土・日・祝・祭日他	<input type="checkbox"/>														
雨天作業中止															
実作業累計	5						10	15	20	20	25	30	35	39	
調査区全域	<input type="checkbox"/>														
住居址	<input type="checkbox"/>														
ピット	<input type="checkbox"/>														
備考	(1日) 調査開始												(31日) 調査終了		

K2-17

年月日	1982年						1983年																							
	6月						7月						8月						9月											
項目	5	10	15	20	25		5	10	15	20	25	30	5	10	15	20	25	30	5	10	15	20	25	30	5	10	15	20	25	30
土・日・祝・祭日他	<input type="checkbox"/>																													
雨天作業中止																														
実作業累計	5						10	15	20	20	25	30	35	40	45	50	55	60	65	70	75	80	85	90	95	100	105	110	115	120
調査区全域	<input type="checkbox"/>																													
住居址	<input type="checkbox"/>																													
土 墳	<input type="checkbox"/>																													
ピット	<input type="checkbox"/>																													
備考	(2日) 調査開始																		(13日) 調査終了											

第2表 調査工程表

K2-18

年月日 項目	1983年 6月					7月					8月					9月					10月									
	15	20	25	30		5	10	15	20	25	30	5	10	15	20	25	30	5	10	15	20	25	30	5	10	15	20	25	30	
土・日・祝・祭日他																														
雨天作業中止																														
実作業累計																														
調査区全域																														
住居址																														
土 塚																														
ビット																														
備 考	(15日) 調査開始															(28日) 調査終了														

K2-19

年月日 項目	1984年 7月					8月					9月					10月					11月									
	10	15	20	25	30	5	10	15	20	25	30	5	10	15	20	25	30	5	10	15	20	25	30	5	10	15	20	25	30	
土・日・祝・祭日他																														
雨天作業中止																														
実作業累計																														
調査区全域																														
住居址																														
土 塚																														
ビット																														
備 考	(9日) 調査開始															(30日) 調査終了														

第3表 調査工程表

K2-21

年月日	1985年					1986年					1987年																								
	6月					7月					8月					9月					10月					11月									
項目	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	30	5	10	15	20	25	30	5	10	15	20	25	30	5	10	15	20	25	30	5	10	15	20	25	30
土・日・祝・祭日他	<input type="checkbox"/>																																		
雨天作業中止	<input type="checkbox"/>																																		
実作業累計	5					10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	60	65	70	75	80	85	88													
調査区全域	<input type="checkbox"/>																																		
住居址	<input type="checkbox"/>																																		
土 墳	<input type="checkbox"/>																																		
ビット	<input type="checkbox"/>																																		
備 考	(5日) 調査開始																				(5日) 調査終了														

K2-26

年月日	1986年					1987年					1988年																								
	10月					11月					12月					1月					2月														
項目	25	30				5	10	15	20	25	30	5	10	15	20	25	30	5	10	15	20	25	30	5	10	15	20	25	30	5	10	15	20	25	30
土・日・祝・祭日他	<input type="checkbox"/>																																		
雨天作業中止	<input type="checkbox"/>																																		
実作業累計						5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	60	65	70	75	80	85	90												
調査区全域	<input type="checkbox"/>																																		
住居址	<input type="checkbox"/>																																		
ビット	<input type="checkbox"/>																																		
備 考	(29日) 調査開始																				(27日) 調査終了														

IV 検出遺構

恋ヶ窪遺跡集落居住域中心地域の範囲確認調査を実施した。本調査で検出された遺構は以下のとおりである。

1. 勝坂式期住居址

25号住居址（第2図面 第3図版）

〈位置〉調査区南西隅の(-1・1, -1~2)区に所在する。西側1/3程度は調査区域外の道路に広がり、南側の55号土塋とは重複関係にある。

〈形状〉長径5.0m、短径4.8mの円形を呈し、確認面からの掘り込みは30cmを計る。ローム面を床として使用しており、中央に向かって僅かに傾斜している。壁面は不明瞭で、周溝は廻っていない。

〈覆土〉ローム粒子・スコリア粒子を含む暗茶褐色土が主体に堆積する。

〈炉〉住居址のほぼ中央に石囲炉がある。長径0.6m、短径0.4m、床面からの掘り込みは17cmを計る。炉内には焼土がほとんど認められないが炉床は焼けている。

〈柱穴〉ロームで充填されているものも含め10本以上検出されており、数回の建て替えが想定される。支柱穴は床面からの掘り込みが60~70cmの4本柱と考えられる。

〈時期〉出土している土器片から勝坂Ⅱ~Ⅲ式期の住居址と考えられる。

26号住居址（第3・4図面 第4図版）

〈位置〉調査区南側中央やや西の(2~4, -1~2)区に位置し、52号住居址と重複する。

〈形状〉長径6.4m、短径5.7mの楕円形を呈する大型の住居址で、確認面からの掘り込みは36cmを計る。壁面は比較的明瞭で、床面は中央部がやや凹むがほぼ平坦である。周溝は廻っていない。

〈覆土〉ローム粒子・スコリア粒子・焼土粒子を含む茶褐色土と暗茶褐色土が主体で、中央部分には少量の炭化物がまじる。

〈炉〉住居址のほぼ中央に石囲埋甕炉がある。長径1.0m、短径0.6m、床面からの掘り込みは28cmを計る。埋設土器は4個体あり、使用過程で3~4回の変遷が考えられる。また、この炉址の南側に長径0.6m、短径0.6m程の焼土面が検出された。

〈柱穴〉大小・深浅合わせて70本程検出されているが、その内20本は床面からの深度が50~90cmを計り、支柱穴に関係すると考えられる。住居址奥部に頂点を持つ5本柱で、南側の入口部にはやや小さい柱穴が1対穿たれている。ローム質土層で埋め戻された柱穴もあり、数回にわたる建て替えが行われたと考えられるが、炉の変遷と柱穴移動による住居址の建て替えの関係

については不明である。

〈時期〉炉体土器及び覆土中より出土した土器から、勝坂Ⅲ式期の住居址と考えられる。

27号住居址（第5・6図面 第5図版）

〈位置〉調査区南側ほぼ中央の(4～6，1～4)区に位置する。

〈形状〉長径7.4m、短径6.6mの楕円形を呈する大型の住居址で、確認面からの掘り込みは30～40cmを計る。床面はほぼ平坦で、全体に堅緻である。壁面は明瞭で、周溝は2本検出され、1本は壁下を全周している。

〈覆土〉ローム粒子・スコリア粒子を多量に含む暗茶褐色土が主体であるが、壁面にはロームブロックも認められる。

〈炉〉住居址中央やや北側に位置し、深鉢形土器の口縁部を用いた埋甕炉である。規模は長径0.9m、短径0.8m、床面からの掘り込みは28cmを計る。

〈柱穴〉7本柱で、直径0.8m前後、床面からの掘り込みは80～90cmを計る大規模な柱穴である。この柱穴の内側及び一部重複してローム質土層で埋め戻された柱穴が検出されており、住居の建て替え（拡張）が明らかとなった。

〈時期〉炉体土器及び覆土中より出土した土器から、勝坂Ⅲ式期の住居址と考えられる。

28号住居址（第7～9図面 第6図版）

〈位置〉調査区南東隅の(13～15，1・2)に位置する。

〈形状〉長径6.0m、短径4.6mの不整楕円形を呈し、確認面からの掘り込みは20cmを計る。周囲には土壌・ピットが重複し、住居内にも土壌が重複している。壁面は不明瞭で、周溝は廻っていない。

〈覆土〉ローム粒子・スコリア粒子を含む暗茶褐色～暗黄褐色土である。

〈炉〉長径0.6m、短径0.5mの地床炉で、床面からの掘り込みは12cmを計る。

〈柱穴〉周囲には土壌・小穴が重複し、住居址内にも土壌が重複している。そのため支柱穴の特定はできないが、柱穴の状況から加曾利E式期後半の住居址との重複関係が想定される。

〈時期〉遺物が少ないため特定は難しいが、勝坂Ⅱ式期の住居址と考えられる。

29号住居址（第10図面 第7図版）

〈位置〉調査区西側の(-1・1，3～5)区に位置する。住居址の西側半分は調査区域外の道路に広がる。

〈形状〉規模は推定によるものであるが、径6.5mのほぼ円形を呈し、確認面からの掘り込みは60cmと深い。床面は全体に堅緻で、中央に向かいやや傾斜している。壁面は明瞭で、周溝は

廻っていない。

〈覆土〉暗茶褐色土が主体で、全体に細かいローム粒子を多量に含む。

〈炉〉住居址の中央やや北寄りに長径1.2m、短径1.0m、深さ20cmの地床炉が検出された。また、炉址の南東側に長径0.6m、短径0.4m、深さ2cmの焼土面が検出されている。

〈柱穴〉壁柱穴と深度の浅いものを除くと、16本検出された。柱穴には住居址覆土と類似した土層で覆われたものと、ローム質土層で覆われたものがある。これは住居の建て替えによるものと考えられる。これらの柱穴はいずれも床面の深度が60～90cmと深い。また、壁下には壁柱穴が1m前後の間隔で穿たれている。

〈時期〉出土遺物は比較的少ないが、床面に密着した状態で出土した土器などから考えて、勝坂Ⅲ式期の住居址であろう。

30号住居址（第11・12図面 第8図版）

〈位置〉調査区中央やや南西の(2～4, 3～5)区に位置し、57号土壇と重複する。

〈形状〉長径5.6m、短径5.4mの円形を呈し、確認面からの掘り込みは30～40cmを計る。床面はほぼ平坦でさほど堅緻ではない。壁面はやや不明瞭で、深さ10cm程の周溝が全周している。

〈覆土〉細かいローム粒子・スコリア粒子を含む茶褐色土が主体で、壁際にはよごれたロームブロックを含む暗黄褐色土が堆積する。

〈炉〉住居址の中央に埋甕炉があり、長径1.3m、短径0.8m、床面からの掘り込みは32cmを計る。埋設土器の南側には広い範囲に焼土が検出された。

〈柱穴〉床面からの深度が60cm前後のものが10本検出されているが、基本的な柱穴配置は5本柱と考えられ、建て替えの可能性もある。

〈時期〉炉体土器及び覆土中より出土した土器から、勝坂Ⅲ式期の住居址であろう。

32号住居址（第13・14図面 第9図版）

〈位置〉調査区中央南側の(7～9, 2～4)区に位置する。

〈形状〉長径6.0m、短径5.2mの楕円形を呈し、確認面からの掘り込みは50cmを計る。壁面は明瞭な部分と判然としない部分とがある。周溝は廻っていない。

〈覆土〉中央部はやや黒みの強い茶褐色土で、ローム粒子・スコリア粒子・炭化物などを含む。覆土の特色としては小礫の混入があげられる。住居址中央部床面よりやや上部に混入しており、弱いながらも被熱しているものが多い。

〈炉〉長径0.7m、短径0.6mのほぼ円形を呈する地床炉で、床面からの掘り込みは10cmを計る。

〈住居址内土壇〉北西部位に位置する土壇は、床面からの深さが60cmで、直径90cmの円形を呈する。覆土上部は暗茶褐色土で、下部はロームブロックを含む黄褐色土となっている。東壁際

の土壌は、長径1.6m、短径1.2mの楕円形を呈し、床面からの掘り込みは75cmを計る。覆土はローム粒子・スコリア粒子を多量に含む暗茶褐色土で充填されており、部分的に炭化物が集中する。

〈柱穴〉柱穴は5本で、床面からの深度は60～75cmと深く、東側の柱穴は建て替えが行われている。

〈時期〉勝坂Ⅱ～Ⅲ式期の遺物が大半を占めており、該期の住居址と考えられる。

35号住居址（第15図面 第10図版）

〈位置〉調査区中央北側の(4～6，7～9)区に位置する。

〈形状〉長径4.4m、短径3.8mの楕円形を呈する比較的小型の住居址で、確認面からの掘り込みは40cmを計る。壁面は明瞭で、床面は平坦であるがさほど堅緻ではない。周溝は廻っていない。

〈覆土〉細かいローム粒子・スコリア粒子を含む茶褐色土～暗茶褐色土が主体に堆積し、部分的に炭化物が少量まじる。

〈炉〉住居址のほぼ中央に位置する長径0.6m、短径0.6mの地床炉で、床面からの掘り込みは17cmを計る。中央部が深く掘り込まれているが、覆土に焼土粒子は少ない。

〈柱穴〉床面からの深度が50～70cmの4本柱である。

〈時期〉出土遺物からみて、勝坂Ⅲ式期の住居址と考えられる。

37号住居址（第16図面 第11図版）

〈位置〉調査区ほぼ中央の(6～8，7・8)区に位置し、36b号住居址と重複する。

〈形状〉長径6.0m、短径5.3mの楕円形を呈し、確認面からの掘り込みは20cmを計る。床面は平坦であるが堅緻ではない。周溝は2本検出された。外側の周溝はほぼ全周し、内側の周溝は南東部で途切れている。

〈覆土〉細かいローム粒子・スコリア粒子・炭化物を少量含む茶褐色土～暗茶褐色土が主体で、壁際にはロームブロックを主体とする土層が堆積する。

〈炉〉長径0.8m、短径0.7mの地床炉で、床面からの掘り込みは10cmを計る。覆土中に焼土粒子は少なく、炉床も弱い被熱である。

〈柱穴〉5本柱と考えられる。ローム質土層で充填された柱穴もあり、周溝が2本検出されたことを合わせると住居の建て替えが想定される。

〈時期〉床面直上から出土した土器やその他の土器片から、勝坂Ⅲ式期の住居址と考えられる。

40号住居址（第17図面 第12図版）

〈位置〉調査区北西の(2~4, 8~10)区に位置し、南壁の一部は34号住居址に切られ、北西では39号住居址と重複する。

〈形状〉長径7.0m、短径6.0mの楕円形を呈する大型の住居址で、確認面からの掘り込みは18cmと浅い。壁面は比較的明瞭で、床面は概ね堅緻である。周溝が3本検出され、住居の建て替え・拡張が行われたことが知れる。外側の周溝は20cm程の深さで壁下を全周し、南壁部ではこの周溝の内側にも周溝が検出されている。更に、内側には深さ20~25cmの周溝が全周している。

〈覆土〉ローム粒子・スコリア粒子を含み炭化物がまじる茶褐色土が主体に堆積する。

〈炉〉長径1.2m、短径1.0mの楕円形を呈する地床炉で、床面からの掘り込みは10cmを計る。炉床は中央部の40cm四方が顕著に焼けており、ボロボロのローム層となっている。

〈柱穴〉支柱穴は径40~50cmの4本柱で、床面からの深度は60cm前後を計る。外側の周溝に対応する支柱穴は6本で、径70~80cmで深度80cmを計る。2本の柱穴が重複した状態で、内側のもはローム質土層で充填されており、住居を南側に拡張する際に柱穴も建て替えたのであろう。

〈時期〉出土遺物は比較的少なく細片が多いが、勝坂Ⅲ式期の住居址であろう。

42号住居址 (第18図面 第13図版)

〈位置〉調査区北東の(6~8, 9・10)区に位置し、41号住居址と重複する。

〈形状〉長径5.0m、短径4.4mの楕円形を呈し、確認面からの掘り込みは40cmと比較的深い。周溝は廻っていない。

〈覆土〉細かいローム粒子・スコリア粒子を含み部分的に炭化物がまじる暗茶褐色土が主体に堆積し、中央部分では炭化物が多量に含まれる。床面上には、よごれたローム粒子・ロームブロックを含む暗黄褐色土が堆積する。

〈炉〉住居址のほぼ中央に位置する浅鉢を用いた埋甕炉で、長径0.5m、短径0.4m、床面からの掘り込みは18cmを計る。

〈住居址内土壙〉住居址中央やや北側に位置し、長径1.2m、短径0.8mの楕円形を呈し、床面からの掘り込みは60cmを計る。土壙内からは磨石1点が出土した他に遺物は認められないが、住居に伴うものと考えられる。

〈柱穴〉支柱穴の特定はできないが、壁面の内側に7個の小穴が廻る。

〈時期〉出土遺物からみて、勝坂Ⅲ式期の住居址と考えられる。

45号住居址 (第19図面 第14図版)

〈位置〉調査区南東隅の(15・16, -1・1)区に位置する。

〈形状〉住居址の1/6程度しか確認できず、詳細は不明である。

〈炉〉住居址西側に炉址と思われる掘り込みが確認された。

〈柱穴〉調査面積が少ないため不明である。

〈時期〉柱穴中より勝坂Ⅰ～Ⅱ式期の土器片が出土しており、該期の住居址と思われる。

50号住居址（第19図面 第14図版）

〈位置〉調査区東側の(11～13, 4～6)区に位置する。北東部の1/3程度は調査区域外に広が
り、南側の47号住居址とは重複関係にある。

〈形状〉規模は推定であるが、径4.0mのほぼ円形を呈すると思われる。確認面からの掘り込
みは30cmを計り、ローム面を床面として使用している。床面は比較的堅緻で、周溝は廻って
いない。

〈覆土〉細かいローム粒子を含む茶褐色土が主体に堆積する。

〈炉〉長径0.5m、短径0.3mの地床炉で、床面からの掘り込みは10cmを計る。

〈柱穴〉4本柱で、北東部の1本は調査区域外の部分に存在したと思われる。

〈時期〉勝坂Ⅱ～Ⅲ式期の住居址と考えられるが、出土遺物が少なく、小片のため明らかで
ない。

48号住居址（第20図面 第15図版）

〈位置〉調査区東側の(11～13, 3・4)区に位置し、47号住居址と重複する。

〈形状〉長径5.2m、短径4.0mの楕円形を呈し、確認面からの掘り込みは20cmを計る。壁面は
不明瞭な部分が多く、周溝は廻っていない。

〈覆土〉中央部では小礫が混入する黒褐色土で、壁に近づくにつれて明るい色調の茶褐色土と
なる。

〈炉〉長径0.8m、短径0.5mの地床炉で、床面からの掘り込みは20cmを計る。

〈柱穴〉4本柱と思われる。

〈時期〉床面よりやや浮いた状態で勝坂Ⅲ式期の土器片が2個体分検出されており、該期の住
居址と考えられる。

49号住居址（第21・22図面 第16図版）

〈位置〉調査区中央やや東側の(8～10, 5～7)区に位置し、33号住居址と重複する。

〈形状〉長径6.5m、短径5.7mの楕円形を呈し、確認面からの掘り込みは40cmを計る。周溝は
廻っていない。

〈覆土〉ローム粒子・スコリア粒子を含み部分的に炭化物がまじる暗茶褐色土が主体に堆積し
ている。

〈炉〉住居址のほぼ中央に位置する深鉢2点を用いた埋甕炉で、長径1.6m、短径0.6m、床面からの掘り込みは30cmを計る。

〈柱穴〉大小・深浅合わせて75本が検出されたが、大型で深度のある5本が支柱穴と思われる。この他にローム質土層で充填されたものもあり、住居址の建て替えが推測される。

〈時期〉炉体土器及び覆土中より出土した土器片から、勝坂Ⅲ式期の住居址であろう。

51号住居址（第23・24図面 第17図版）

〈位置〉調査区中央の(5～7, 4～6)区に位置し、36b・53号住居址と重複する。

〈形状〉長径6.0m、短径5.0mの楕円形を呈し、確認面からの掘り込みは40～45cmと深い。壁面は明瞭で、床面は堅く踏み固められている。周溝は廻っていない。

〈覆土〉中央部では細かいローム粒子・スコリア粒子・炭化物を含む暗茶褐色土が主体に堆積し、壁際ではローム粒子を多く含む茶褐色土となっている。

〈炉〉住居址中央のやや北側に2個つながって検出された。どちらも土器の口縁部・胴部を用いた埋甕炉で、長径1.4m、短径0.6m、床面からの掘り込みは15～20cmを計る。

〈柱穴〉床面からの深度が60cm以上のものが15本以上検出され、ローム質土層で充填されたものもあり、数回の建て替えが想定される。支柱穴は住居址奥部を頂点とする5本柱と考えられる。

〈時期〉炉体土器及び覆土中より出土した土器片から、勝坂Ⅲ式期の住居址であろう。

52号住居址（第25図面 第18図版）

〈位置〉調査区南側の(4・5, -1・1)区に位置し、住居址の南側半分は調査区域外の道路に広がっている。北側の26号住居址と東側の56号土壙とは重複関係にある。

〈形状〉規模は推定によるものであるが、径4.5mのほぼ円形を呈し、確認面からの掘り込みは46cmを計る。床面は比較的堅緻で、周溝は廻っていない。

〈覆土〉ローム粒子・スコリア粒子を含む暗茶褐色土が主体に堆積している。

〈炉〉長径0.7m、短径0.4mの石囲埋甕炉で、床面からの掘り込みは15cmを計る。

〈柱穴〉2本検出されたが、全体の配置は明らかでない。床面からの深度は90～100cmを計り、かなり深い柱穴である。

〈時期〉炉体土器及び覆土中より出土した土器片から、勝坂Ⅱ～Ⅲ式期の住居址と考えられる。

53号住居址（第26図面 第19図版）

〈位置〉調査区ほぼ中央の(4～6, 4～6)区に位置し、36b・51号住居址と重複する。

〈形状〉立ち上りが他の住居址に切られているため不明瞭であるが、長径6.0m、短径5.2mの

楕円形を呈すると思われる。確認面からの掘り込みは15cm前後と浅く、ローム面を床面として使用している。床面はやや軟弱で、周溝は廻っていない。

〈覆土〉中央では焼土粒子を含み、その周りにはローム粒子・スコリア粒子を含む暗茶褐色土が堆積し、壁際ではよごれたロームブロックを含む黄暗褐色土となっている。

〈炉〉長径1.0m、短径0.7mの地床炉で、床面からの掘り込みは15cmを計る。

〈柱穴〉床面からの深度が50～80cmを計るものが10本程検出されたが、主柱穴の配置については明らかでない。

〈時期〉出土遺物が非常に少なく時期の特定は難しいが、51号住居址に切られていることを考えると勝坂Ⅱ式期の住居址であろう。

54号住居址（第27・28図面 第20図版）

〈位置〉調査区西側の(-1・1, 5～7)区に位置し、55号住居址と重複する。住居址の西側半分以上は調査区域外の道路に広がっている。

〈形状〉住居址の規模は不明で、確認面からの掘り込みは40cm程度である。壁面は判然とせず、床面も軟弱である。周溝は廻っていない。

〈覆土〉ローム粒子・スコリア粒子を含む暗茶褐色土が主体に堆積し、床面上ではロームブロックを含み炭化物・焼土粒子が少量まじる。

〈柱穴〉7個の小穴が確認されたが、柱穴に関係するものかは不明である。

〈時期〉出土遺物が少なく時期の特定は難しいが、勝坂Ⅲ式期の住居址と考えられる。

55号住居址（第27・28図面 第20図版）

〈位置〉調査区西側の(-1・1, 7・8)区に位置し、54号住居址と重複する。住居址の西側半分以上は調査区域外の道路に広がっている。

〈形状〉住居址の規模は不明で、確認面からの掘り込みは40cm程度である。床面は西に緩く傾斜し軟弱で、壁面は判然としない。周溝は廻っていない。

〈覆土〉ローム粒子・ロームブロック・スコリア粒子を含む暗茶褐色土が主体に堆積する。

〈柱穴〉床面からの深度が50～60cmを計るものが3本検出された。

〈時期〉出土遺物は少ないが勝坂Ⅲ式期の土器が1個体出土しており、該期の住居址であろう。

62号住居址（第29図面 第21図版）

〈位置〉調査区東側の(10・11, 7・8)区に位置する。住居址の東側半分以上は調査区域外に広がっている。

〈形状〉住居址の規模は不明で、確認面からの掘り込みは46cm程度である。壁から40～80cm内側で床面に10cm程の段差があり、2軒の住居址の可能性もある。

〈覆土〉ローム粒子を含む暗茶褐色土が主体に堆積し、部分的にスコリア粒子・焼土粒子・炭化物が含まれ、壁面近くではロームブロックも含まれる。

〈時期〉出土遺物は少ないが勝坂式期の住居址と考えられる。

2. 加曾利E式期住居址

33号住居址（第30～32図面 第22図版）

〈位置〉調査区中央やや東の(9～11, 4～6)区に位置し、49号住居址と重複する。

〈形状〉長径6.3m、短径5.1mの不整楕円形を呈す。床面はロームとほぼ同じため確認面からの掘り込みは10cm前後と浅い。壁面は大半が判然とせず、周溝は廻っていない。

〈炉〉2箇所検出され、どちらも地床炉である。住居址の中央に位置するものは、長径0.8m、短径0.7m、床面からの掘り込みは40cmを計る。住居址の南よりに位置するものは、長径0.8m、短径0.7m、床面からの掘り込みは10cmを計る。南側の炉は掘り込みが浅く、炉壁・炉床とも顕著な焼成は認められない。これに対し、中央の炉は掘り込みも深く、炉床もかなりの焼成を受けている。

〈埋甕〉住居址南壁部に位置し、住居址内・外を合わせて2基3個体が検出された。住居址内の埋甕は、底部を欠失する深鉢形土器が逆位の状態で埋設され、10cm程が床面より飛び出ている。床面を40cm程掘り窪め埋設した後ローム質土で充填したものであるが、明瞭な掘り方は確認されなかった。住居外の埋甕は住居内埋甕の南側に位置し、住居址の立ち上がりと重複する小穴内で2個体の一部が重なった状態で検出された。住居址側の埋甕は深鉢形土器の胴部で、全周の約半分が現存する。外側の埋甕も深鉢形土器の胴部で、胴下半部を欠失している。この住居址外の埋甕は、住居址の立ち上がりに重なって検出されており、更に壁にかかる埋甕の小穴が存在することから、住居址の入口部に埋設された埋甕といえよう。

〈伏甕〉住居址のほぼ中央に位置し、底部を欠失した鉢形土器が口縁部を床面に密着させた状態で検出された。また、この伏甕内から深鉢形土器の胴下半部が、床面より5cm程浮いた状態で検出されている。

〈住居址内土壇〉住居址の西壁寄りに位置し、小穴2個と重複する。長径1.1m、短径0.9mの楕円形を呈し、確認面からの掘り込みは55cmを計る。覆土は、上部は暗茶褐色土層で、中部から下部にかけては焼土粒子・ローム粒子を含む茶褐色土層に覆われている。

〈柱穴〉大小・深浅さまざまなのが30本程検出されたが、支柱穴の配置については明らかでない。

〈時期〉伏甕や3個体の埋甕などの出土遺物から、加曾利E式期第V段階の住居址であろう。

34号住居址（第33～35図面 第23図版）

〈位置〉調査区中央よりやや北西寄りの(2～4, 6～8)区に位置し、34 a・40号住居址と重複する。

〈形状〉長径6.7m、短径5.9mの楕円形を呈する大型の住居址で、確認面からの掘り込みは30cmを計る。壁面は概ね明瞭であるが、北側の一部は40号住居址と重複するため判然としない。周溝は、西壁下及び東壁から南壁にかけて断続的に廻る。

〈覆土〉中央部ではローム粒子を多く含む暗茶褐色土で、外側に向かい明るい色調となる。

〈炉〉住居址のほぼ中央に位置する石囲炉で、長径1.1m、短径0.9m、床面からの掘り込みは17cmを計る。炉石は奥の部分で4個検出されたが、他の部分は抜き取られた可能性が高い。

〈埋甕〉住居址の南西壁下に位置し、胴上半を欠失する深鉢形土器が埋設されている。

〈柱穴〉ローム質土で充填されているものもあり建て替えが想定されるが、柱穴配置は明らかでない。

〈時期〉埋甕や住居址中央部から出土している完形土器・土器片より、加曾利E式期第V段階の住居址と考えられる。

34 a号住居址（第33～35図面 第23図版）

〈位置〉調査区中央よりやや北西寄りの(3～5, 6・7)区に位置し、34号住居址と重複する。

〈形状〉34 a号住居址を壊して34号住居址が構築されているため、規模は推定によるものである。径5.5mのほぼ円形を呈し、確認面からの掘り込みは不明である。

〈炉〉胴下半部を欠く土器を用いた埋甕炉で、径0.4mの円形を呈し、床面からの掘り込みは9cmを計る。

〈時期〉炉体土器より勝坂Ⅲ式期の住居址と考えられる。

36号住居址（第36・37図面 第24図版）

〈位置〉調査区ほぼ中央の(4～6, 6・7)区に位置し、36 b号住居址の内側で検出された。

〈形状〉長径4.1m、短径4.0mのほぼ円形を呈する。立ち上がりが認められなかったため、確認面からの掘り込みは不明だが、床面は36 b号住居址とほぼ同一面である。周溝は幅20～30cm、深さ10～20cmで全周している。

〈覆土〉細かいローム粒子・スコリア粒子・炭化物を含む暗茶褐色土が主体に堆積する。

〈炉〉土器の口縁部から頸部を用いた埋甕炉で、長径0.4m、短径0.3m、床面からの掘り込みは20cmを計る。

〈柱穴〉36 b号住居址との重複があり定かではないが、4本柱と想定される。

〈時期〉加曾利E式期第I段階の住居址であろう。

36b号住居址（第36・37図面 第24図版）

〈位置〉調査区ほぼ中央の(4～6, 6・7)区に位置し、37・51・53号住居址と重複する。

〈形状〉住居址のほとんどが36号住居址と重複するため、規模は推定によるものである。径5.8mのほぼ円形を呈し、確認面からの掘り込みは20cmを計る。立ち上がりは北壁と西壁の一部を検出したのみである。床面はローム層上面を使用しており、平坦であるがやや軟弱である。

〈炉〉長径0.7m、短径0.4mの地床炉で、床面からの掘り込みは15cmを計る。

〈時期〉加曾利E式期第V段階の完形土器を含む大型土器片が出土しており、該期の住居址と考えられる。

38号住居址（第38～40図面 第25図版）

〈位置〉調査区西側の(1, 9～11)区に位置する。住居址の西側半分は調査区域外の道路に広がり、東側の39号住居址・北側の57号住居址と重複する。新旧関係は39→57→38号住居址と考えられる。

〈形状〉規模は推定によるものであるが、径4.0～4.5mの楕円形を呈すると思われる。確認面からの掘り込みは30cmで、炉周辺の床面は平坦で比較的堅緻であるが、壁際に向かい高くなり堅緻でなくなる。壁面は不明瞭で、東側の一部に幅20cm、深さ4cm程の周溝が確認されている。

〈覆土〉ローム粒子・スコリア粒子・炭化物を含む暗黒褐色土が主体に堆積し、南壁に向かい明るい色調となる。

〈炉〉長径0.5m、短径0.4mの石囲埋甕炉で、床面からの掘り込みは23cmを計る。北側を除く三方向に細長い礫を廻らし、その間に口縁部と胴下半部を欠失する深鉢形土器が密接して埋設されている。北側の炉石は、炉床の被熱硬化面が他に比べて北に広がっていることからみて、当初から設置されていなかった可能性がある。

〈柱穴〉大小・深浅さまざまなのが検出されており、住居の重複により判然としないが、その内2本が支柱穴と思われる。

〈時期〉炉体土器及び覆土からの出土遺物より、加曾利E式期第II段階の住居址であろう。

39号住居址（第38～40図面 第25図版）

〈位置〉調査区北西の(1・2, 9～11)区に位置し、38・40・57号住居址と重複する。

〈形状〉住居址のほとんどが他の住居址に切られているため、規模は推定によるものである。長径4.5m、短径4.0mのほぼ円形を呈し、確認面からの掘り込みは15cmと浅い。壁面は明瞭で、床面はほぼ平坦であるが不明瞭となっている。周溝は北壁部と西壁の一部が確認され、おそら

く全周していたものと考えられる。

〈炉〉長径0.6m、短径0.5mの地床炉で、床面からの掘り込みは2cmときわめて浅い。

〈柱穴〉住居の重複により判然としないが、主柱穴は4本と思われる。その内3本は床面からの深度が60cm前後と深い、他の1本は30cmと浅い。

〈時期〉重複関係からみて、加曾利E式期第Ⅱ段階より古い住居址と考えられる。

57号住居址（第38～40図面 第25図版）

〈位置〉調査区北西の(1・2, 10・11)区に位置し、西側の一部は調査区域外に広がり、南側は38・39号住居址と重複する。

〈形状〉規模は推定によるものであるが、径4.6mの円形を呈し、確認面からの掘り込みは25cmを計る。床面は平坦で堅く踏み固められている。壁面は比較的明瞭で、周溝は廻っていない。

〈覆土〉中央部には焼土粒子を多く含む黒褐色土～暗茶褐色土が堆積し、周縁部には茶褐色土や暗黄褐色土が堆積している。

〈炉〉長径0.5m、短径0.4mの石囲炉で、床面からの掘り込みは10cmを計る。周縁部には2個の礫が残存しているが、他の部分にも石が設置されていたと思われる。

〈柱穴〉奥壁部を頂点とする5本柱で、床面からの深度は40～60cmを計る。

〈時期〉出土遺物より加曾利E式期第Ⅴ段階の住居址であろう。

41号住居址（第41～43図面 第26図版）

〈位置〉調査区北東寄りの(5～7, 10・11)区に位置し、42・60号住居址と重複する。

〈形状〉住居址のほとんどが60号住居址と重複するため、規模は推定によるものである。長径5.5m、短径4.6mの楕円形を呈し、確認面からの掘り込みは20cmを計る。床面はほぼ平坦で、炉を中心とした部分は堅く踏み固められ硬化したローム面となっているが、周縁部は軟弱である。壁面は不明瞭で、周溝は廻っていない。

〈炉〉周縁部に礫を配した長径0.9m、短径0.7mの石囲炉で、床面からの掘り込みは8cmを計る。北側と東側は抜き取られており、抜き取り痕が看取できた。

〈柱穴〉60号住居址との重複のため判然としないが、主柱穴は5本ではないかと思われる。

〈時期〉出土土器は加曾利E式期第Ⅴ段階のものが主体で、該期の住居址と考えられる。

60号住居址（第41～43図面 第26図版）

〈位置〉調査区北東寄りの(5・6, 10・11)区に位置する。住居址のほとんどが41号住居址と重複し、周溝の一部が60号土壙と重複している。

〈形状〉長径5.2m、短径4.6mの楕円形を呈し、確認面からの掘り込みは20cmを計る。壁面は

明瞭で、壁下に幅20～30cm、深さ15～25cmの周溝が廻っている。床面は41号住居址と同レベルで、全体に堅緻である。

〈覆土〉細かいローム粒子・スコリア粒子・炭化物を含む暗茶褐色土が主体に堆積する。

〈炉〉炉の1/3程度は攪乱を受けているため不明であるが、長径0.9mほどの地床炉で、床面からの掘り込みは20cmを計る。

〈柱穴〉41号住居址との重複で判然としないが、深度70～80cmの6本柱と思われる。主柱穴と想定した柱穴以外にも、深度が60cmを超えるものがあり、41号住居址も含めて建て替えの可能性はある。

〈時期〉炉址覆土及び住居址覆土からの出土遺物より、勝坂Ⅲ式期の住居址と考えられる。

46号住居址（第44図面 第27図版）

〈位置〉調査区東南よりの(10～12，2・3)区に位置する。

〈形状〉長径4.4m、短径4.2mの円形を呈し、確認面からの掘り込みは25cmを計る。壁面は一部明瞭であるが、大半は判然としない。周溝は廻っていない。

〈覆土〉中央部ではローム粒子・スコリア粒子・焼土粒子・炭化物を含む茶黒褐色土が堆積し、壁に近づくにつれ明るい色調となる。

〈炉〉径0.5mのほぼ円形を呈する地床炉で、床面からの掘り込みは10cmを計る。

〈柱穴〉4本柱と思われる。

〈時期〉出土遺物は加曽利E式期のものが目立つが、詳細な時期は小片のため決められない。

47号住居址（第44図面 第27図版）

〈位置〉調査区東側の(12・13，4・5)区に位置する。住居址の東側半分は調査区域外に広がり、西側の48号住居址・北側の50号住居址と重複する。

〈形状〉規模は推定によるものであるが、径4.0m、確認面からの掘り込みは25cmを計る。壁は不明瞭で、床面は堅緻でない。周溝は確認できなかった。

〈炉〉発掘区内では検出されなかった。

〈柱穴〉住居址の東側半分が調査区域外に及ぶため、主柱穴の配置などについては明らかでない。

〈時期〉出土遺物は大半が小片で量も少ないが、加曽利E式期後半のものが目立ち、該期の住居址と思われる。

56号住居址（第45図面 第28図版）

〈位置〉調査区北側の(2・3，12・13)区に位置し、北側半分は調査区域外に広がっている。

〈形状〉規模は推定によるものであるが、長径4.4mの楕円形を呈すると思われる。確認面からの掘り込みは18cmを計る。床面はほぼ平坦であるが堅緻ではない。周溝は廻っていない。

〈覆土〉ローム粒子・スコリア粒子を含む暗茶褐色土が堆積する。

〈炉〉住居址の西よりに位置し、土器の口縁部・胴部を用いた埋甕炉である。長径0.5m、短径0.4m、床面からの掘り込みは13cmを計る。

〈柱穴〉3本検出されたがいずれも浅い。

〈時期〉炉体土器以外の出土遺物は少ないが、炉体土器からみて加曾利E式期第Ⅳ段階の住居址であろう。

58号住居址（第45図面 第29図版）

〈位置〉調査区北側の(5, 12)区に位置し、北側半分は調査区域外に広がっている。

〈形状〉規模は推定によるものであるが、長径2.6m程度の小型の住居址で、確認面からの掘り込みも10cm前後と浅く、壁面は明瞭でない。床面はほぼ平坦であるが比較的軟弱で、周溝は廻っていない。

〈柱穴〉1本のみを検出である。

〈時期〉出土遺物はほとんどなく、時期は不明である。

59号住居址（第45図面 第29図版）

〈位置〉調査区北東隅の(6・7, 11・12)区に位置し、東側1/2以上は調査区域外に広がっている。

〈形状〉規模は推定によるものであるが、径4.1m、確認面からの掘り込みは20cmを計る。壁面は不明瞭で、南壁下の一部に幅25cm、深さ10cm程の周溝が確認された。

〈炉〉発掘区内では検出されなかった。

〈柱穴〉床面からの深度が60～70cmを計るものが4本検出された。ローム質土で充填されているものもあり、建て替えの可能性もある。

〈時期〉出土遺物は少量だが加曾利E式期第Ⅱ段階の破片がやや多く、該期の住居址の可能性はある。

61号住居址（第46・47図面 第30図版）

〈位置〉調査区東側の(8～10, 8～10)区に位置し、東側半分は調査区域外に広がっている。

〈形状〉規模は推定によるものであるが、長径6.3mの楕円形を呈すると思われる。確認面からの掘り込みは35cmを計り、壁下に周溝が廻る。

〈覆土〉ローム粒子・スコリア粒子を含む暗茶褐色土が主体に堆積する。床面の広い範囲に焼

土粒子・炭化物粒子が認められ、床面のローム層も被熱している。更に、柱穴中に大型の炭化材が認められる点から、焼失住居の可能性がある。

〈炉〉長径1.3m、短径1.0mを呈する石囲炉で、床面からの掘り込みは22cmを計る。石皿・磨石・大型の礫などを炉縁に廻らせている。

〈埋甕〉南壁下に口縁部・胴下半部を火災により欠失した土器が埋設されている。

〈柱穴〉住居址の東側半分が調査区域外に及ぶと同時に、小穴も不規則に点在しているため、主柱穴の配置については明らかでない。

〈時期〉出土遺物からみて加曾利E式期第V段階の住居址であろう。

3. 土 壙

52号土壙（第48図面 第31図版）

〈位置〉調査区南寄りの(9・10, 1・2)区に位置する。

〈形状〉長径2.0m、短径1.7mのほぼ円形を呈し、確認面からの掘り込みは28cmを計る。断面形は皿状で、壁は緩やかに立ち上がる。床面はほぼ平坦である。

〈時期〉土壙北壁部から、床面よりやや浮いた状態で倒立した加曾利E式期第II段階の完形土器が出土しており、該期の土壙と考えられる。

53号土壙（第48図面 第31図版）

〈位置〉調査区中央南側の(7・8, 2)区に位置し、南側に2個の小穴が重複する。

〈形状〉長径1.5m、短径1.1mの楕円形を呈する。確認面からの掘り込みは40cmを計り、断面形は鍋底状を呈する。

〈時期〉土壙覆土中より加曾利E式期第V段階の土器片がまとまって出土しており、該期の土壙と思われる。

54号土壙（第48図面 第31図版）

〈位置〉調査区中央南側の(7, 1)区に位置する。

〈形状〉長径1.5m、短径1.1mの不整楕円形を呈し、確認面からの掘り込みは20cmを計る。

〈覆土〉細かいローム粒子・スコリア粒子を少量含む暗茶褐色土が主体に堆積する。

〈時期〉土壙北東隅から、加曾利E式期第V段階の土器が全周の1/2を押し潰された状態で出土しており、該期の土壙と思われる。また、この土器は土壙墓における被覆土器とも考えられる。

55号土壙（第48図面 第31図版）

〈位置〉調査区南西隅の(-1・1, -1)区に位置する。南側は調査区域外の道路に広がり、北側の25号住居址とは重複関係にある。

〈形状〉1/2程度しか確認できなかったため規模・形状は定かではないが、径1.3~1.5m程の楕円形を呈すると思われる。

〈時期〉土壙北西隅から、全周の1/2が現存する勝坂Ⅲ式期の土器が正位状態で出土しており、該期の土壙と考えられる。

56号土壙 (第48図面 第31図版)

〈位置〉調査区南西隅の(5, -1)区に位置する。南側は調査区域外の道路に広がり、西側の52号住居址とは重複関係にある。

〈形状〉1/2程度しか確認できなかったため規模・形状は定かではないが、長径1.8m、短径0.9m程の楕円形を呈すると思われる。確認面からの掘り込みは28cmを計る。

〈覆土〉細かいローム粒子・スコリア粒子を少量含む暗茶褐色土が主体に堆積する。

〈時期〉床面よりやや浮いた状態で、加曽利E式期後半の浅鉢形土器と有孔鏝付土器の大型破片が出土しており、該期の土壙であろう。

57号土壙 (第48図面 第31図版)

〈位置〉調査区中央やや南西の(4, 4・5)区に位置し、30号住居址と重複する。

〈形状〉長径1.8m、短径0.9mの隅丸長方形を呈し、確認面からの掘り込みは38cmを計る。

〈覆土〉細かいローム粒子・スコリア粒子を少量含む暗茶褐色土が主体に堆積し、下層に行くにつれロームブロックを含み明るい色調となる。

〈時期〉土壙内からは遺物がほとんど出土しておらず、時期は不明である。

58号土壙 (第49図面 第31図版)

〈位置〉調査区北西寄りの(1・2, 8)区に位置する。

〈形状〉径1.4m程の円形を呈し、確認面からの掘り込みは100cmを計る。北側に径1.0m、深さ40cm程の土壙が重複している。

〈覆土〉大きく上下2層に分けられ、上層は細かいローム粒子・スコリア粒子を少量含む暗茶褐色土が堆積し、下層はローム質土層である。

〈時期〉南側の土壙からは、加曽利E式期の土器片が少量出土しただけで、時期の決定は困難である。北側の土壙からも出土遺物がほとんど無く時期は不明であるが、南側の土壙より新しい。

59号土壙（第49図面 第31図版）

〈位置〉調査区北寄りの(4 , 11)区に位置する。

〈形状〉長径1.2m、短径1.0mのはほぼ円形を呈し、確認面からの掘り込みは60cmを計る。

〈覆土〉上部には暗茶褐色土が堆積し、中央部に暗黒褐色土、壁際にはローム質土や茶褐色土が堆積している。

〈時期〉土壙内からは遺物がほとんど出土しておらず、時期は不明である。

60号土壙（第49図面 第32図版）

〈位置〉調査区北寄りの(5 , 10)区に位置し、60号住居址と重複する。

〈形状〉上面長2.5m、上面幅0.5m、底面幅0.2mの陥穴状土壙で、確認面からの掘り込みは90cmを計る。

〈覆土〉細かいローム粒子やスコリア粒子を含む茶褐色土で、間にロームブロックを主体とした層をはさむ。

〈時期〉土壙内からは遺物が出土せず時期は明らかではないが、60号住居址に切られていることから勝坂Ⅲ式期より古い段階の土壙と考えられる。

V 出土遺物

今回の調査による出土遺物には、縄文時代の土器・石器・土製品などがある。総量はコンテナ325箱と多く、そのほとんどが縄文時代の土器・石器などで、それらの遺物の多くは住居址や土壌から出土している。

遺物の記述はすべて一覧表によったが、分類の項目については以下の基準にのっとり表記した。なお、分類不可能な項目については一で表す。

縄文土器の分類

I 早期

II 中期初頭

III 中期前半 勝坂式土器

文様・施文手法	A. I群 角押文	時期	a. 第I・II様式
	B. II群 抽象文		b. 第III・IV様式
	C. III群 パネル文		c. 第V・VI様式
	D. IV群 パネル文崩れ		
	E. V群 楕円横帯文		
	F. VI群 顔面把手		
	G. VII群 円筒土器		
	H. VIII群 大型把手・櫛形文		

IV 中期前半 阿玉台式土器

V 中期後半 加曾利E式土器

時期	a. I段階
	b. II段階
	c. III段階
	d. IV段階
	e. 連弧文
	f. V段階
	g. VI段階
	h. VII段階

VI 中期後半 曾利式土器

文様・施文方法	A. 口縁部が無文か1～4個の把手又は縦方向の文様	時期	a. Ia・Ib 段階
	B. 口縁部を条線や隆線で装飾		b. IIa・IIb 段階
			c. III段階

- | | |
|-----------------|---------|
| C. 口縁部に文様帯のあるもの | d. IV段階 |
| D. 口縁部文様帯が消失 | e. V段階 |

Ⅶ その他の中期

Ⅷ 後 期

縄文石器の分類

打製石斧

- | | | |
|----|---------|--------------|
| 形状 | I 短冊型 | |
| | II 短冊型 | 基部側縁に抉り込みをもつ |
| | III 分銅型 | |
| | IV 揆 型 | |
| | V その他 | 打製石斧素材剥片を含む |

- | | | | | |
|------|-------|-----------|-----|-------------|
| 刃の種類 | A. 円刃 | a. 両凸刃 | 遺存度 | 1. 完形 |
| | B. 直刃 | b. 両平刃 | | 2. 刃部付近欠 |
| | C. 偏刃 | c. 片平刃 | | 3. 基部付近欠 |
| | D. 尖刃 | d. 片凸刃 | | 4. 刃部・基部付近欠 |
| | | e. 弱凸強凸片刃 | | 5. 胴部付近欠 |
| | | f. 弱凸強平片刃 | | 6. 刃部付近斜位欠 |
| | | g. 弱平強平片刃 | | |
| | | h. 弱平強凸片刃 | | |
| | | i. 凸凹片刃 | | |
| | | j. 長平短平片刃 | | |

磨製石斧

- | | | |
|----|--------|--------------------|
| 形状 | I 乳棒状 | *刃の種類・遺存度は打製石斧に準ずる |
| | II 定角式 | |
| | III 小型 | |

石 鏃

- | | | |
|----|-----|--------------------------------------|
| 側縁 | I | 両側縁が心もち外側に向かって弧を描き尖頭部を形成する |
| | II | 両側縁が若干内側（個体）に向かって弧を描き尖頭部を形成する |
| | III | 両側縁が若干開き気味に直線状を成し、それをつなく形で刃縁も直線状を呈する |
| 基縁 | a. | 器体に向かってやや内彎し、脚部が若干認められる |
| | b. | 器体に向かって内彎し、脚部が明確に作出される |
| | c. | 器体に向かってやや尖角状に抉入し、脚部が若干認められる |
| | d. | 器体に向かって尖角状に抉入し、脚部が若干認められる |

- e. 外側に向かって心持ち弧を描き、舌部を形成する
- f. 器体に向かって若干弧を描き、舌部を形成する

- 破損部位
- 1. 完形
 - 2. 基先欠
 - 3. 基部欠
 - 4. 脚部欠

磨石・叩き石

- | | | |
|------|---------------------|--------------------------|
| 形状 I | 平面形態が楕円形もしくは長円形を呈する | a. 磨面のみを有する |
| | | b. 敲打痕を併せもつもの |
| II | 細長の柱状を呈する | a. 磨面のみを有する |
| III | 全面が磨滅し、球形あるいは卵形を呈する | b. 上下端あるいは側縁の一部に敲打痕をもつもの |
| IV | 上記以外 | |

ピエス・エスキーユ

- | | |
|------|----------------------------|
| 形状 I | 上下両縁が先細り、長幅比2対1の紡錘形を呈する |
| II | 上下両縁が先細るか、直線状で三角形を呈する |
| III | 上下両縁ともに直線状で、四辺形を呈する |
| IV | 上下両縁が先細り、I類に比較し幅のある紡錘形を呈する |

石 皿

- | | |
|------|------------------------|
| 形状 I | 片面あるいは両面に磨滅による凹みを有するもの |
| II | 磨面を有する扁平礫 |
| III | 上記以外の形態で磨面をもつ大型礫 |

スタンプ

- | | | | |
|------|-------|-----------------------|-----------|
| 形状 I | 棒状礫使用 | A. 礫の周縁部に全く加工のないもの | a. 敲打痕 |
| II | 扁平礫使用 | B. 礫の周縁部片側に打痕・加工のあるもの | b. 剥離痕 |
| | | C. 礫の周縁部両側に打痕・加工のあるもの | c. 打痕と剥離痕 |

石 錐

- | | | |
|------|------------------|--|
| 形状 I | 棒状をなすもの | <ul style="list-style-type: none"> A. 両端の尖るもの B. 一端のみ尖るもの |
| II | 摘み状の頭部をもち錐部の長いもの | <ul style="list-style-type: none"> A. 頭部全面に調整が施されたもの B. 頭部が素材剥片の形状を留めるもの |

- III 摘み状の頭部をもち
錐部の短かいもの
 - A. 頭部全面に調整が施されたもの
 - B. 頭部が素材剥片の形状を留めるもの
- IV 錐部が太くなり頭部
との区分のないもの
 - A. 両面又は片面全体に調整が施されたもの
 - B. 錐部の両側縁に調整が施されたもの
- V 棒状または長三角形の剥片の先端に微弱な調整を加えたもの

石 槍

- 形状 I 木葉形 A. 周辺調整
- II 有茎 B. 両面調整
- C. 片面調整

石 匙

- 形状 I 横型
 - A. 精製
 - a. 左右非対称 身部
 - 1. 三角形
 - 2. 長方形
 - 3. 楕円形
 - b. 左右対称 身部
 - 1. 扁平二等辺三角形
 - 2. 四角形
 - 3. 凸レンズ形
 - 4. 扇状形
 - B. 粗製- II 縦型
 - A. 精製
 - a. 彎曲鎌形
 - b. 鈍角鎌形
 - c. 厚鎌形
 - B. 粗製

搔 器

- 形状 I 先刃
 - A. 狭基 器形が基部側に狭くなるもの
 - B. 広基 器形が基部側に広がるもの
 - C. 柄基 柄のあるもの
- II 円形
 - A. 片面調整
 - B. 縁部調整
 - C. 片面・縁部調整

削 器

- 形状 I 縦型
 - A. 単刃
 - a. 直線刃
 - b. 凸刃
 - c. 凹刃
 - B. 複刃
- II 横型

以上のように出土遺物について分類を行った。分類するにあたり、土器は縄文土器の6期区分を使用し、さらに各々の期に該当する型式名を明記した。中でも、最も多く出土している勝坂式土器については縄文土器大観2「勝坂式土器様式」を、加曽利E式土器については神奈川考古10「東京・埼玉における縄文中期の編年試案」を用いている。また、復元実測可能な土器については「新地平編年」を用いた。

石器については各々の器種に分け、恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅰ～Ⅳ、考古論集「石斧論Ⅰ－横斧から縦斧へ」、石器入門事典、縄文文化の研究7を参考に、形状・刃の種類などにつき分類記述した。

第4表 出土土器集計表

種別 出土区	深鉢形土器														浅鉢形土器	不明	合計
	早期 中期 初頭	勝坂			阿玉台	加曾利E							曾利	後期			
		I	II	III		I	II	III	IV	V	VI	VII					
25号住		2	138	109	19		6	17	2	29			3		3	640	968
26号住		17	236	336	40		12	13	15	95	5		5		7	2116	2897
27号住		23	332	691	50	3	17	18	15	172	5		12	2	31	3756	5127
28号住		3	73	14	7		6	7	13	121	3		25	1	5	838	1116
29号住		6	153	273	19	1	15	21	12	38	1		18		21	1509	2087
30号住		2	65	130	8		9		4	45			2		11	684	960
32号住		7	493	299	75	1	13	8	11	90	1		4	3	33	2176	3214
33号住		1	62	51	8	1	30	44	27	652	24		41	6	11	1180	2138
34号住		1	158	322	15	2	54	60	43	956	8		36	3	66	4741	6465
35号住		20	106	279	13	2	8	14	2	51			1		8	1155	1659
36号住			56	80	6	2	11	30	24	368	1		10		16	1465	2069
37号住		9	111	190	9		5	12	4	43	1				6	645	1035
38号住			6	23		18	6	1	1	1					2	85	143
39号住			9	16			11			2			4		1	111	154
40号住			43	150	8	9	54	13	2	8			4		20	728	1039
41・60号住			45	170	17	6	133	79	3	78	2		22		19	1408	1982
42号住			77	203	15	2	4	22		22			5		7	834	1191
45号住		13	28	5	7			3		6					7	154	223
46号住		11	83	46	20	2	5	19		55	7		4	3	4	443	702
47号住			11	11	4		1	13	5	114	1		11		1	489	661
48号住		22	218	272	23			23	2	80	4	1	15	2	7	1917	2586
49号住	2	29	185	291	55		8	10	4	55	9		7		11	1066	1732
50号住		4	108	73	12		7	7	6	154	5		4		3	643	1026
51号住	1	27	346	813	60		10	17	20	163			3		96	2925	4481
52号住		10	107	113	18		3	2	1	15	2		3		2	530	806
53号住			50	43	7			2	7	52	3		6	2	1	359	532
54号住			8	28	1		5	2		5			1		4	111	165
55号住			21	71	3		3		3	15					2	294	412
56号住		3	4	4	4		1		11	1			7		2	60	97
57号住			48	146	10	11	190	68	2	38	2		15		6	1338	1874
58号住			1					1		1						16	19
59号住			2	16	2		6	1		2	1		1		1	165	197
61号住			62	72	10		20	25	17	269	6		12		7	1214	1714
62号住			13	6	5								1			27	52
52号土										1							1
53号土				1						4							5
54号土										1							1
55号土				2													2
56号土														1	1		2
57号土				2						1					7		10
58号土			1	2						6					21		30
59号土															2		2
60号土																	0
遺構外		24	548	1356	166	44	273	53	202	1126	191		269	69	34	16599	20954
合計	3	234	4007	6709	716	104	926	605	458	4935	282	1	551	91	456	52452	72530

第5表 出土石器集計表

出土区	種別		打製石斧	磨製石斧	打製石斧素材	石鏃	石槍	搔器	石匙	石錐	楔形石器	石皿	磨石	スタンプ形石器	叩石	砥石	台石	石錘	浮子	小計	石核	剥片	搔器	ナイフ形石器	合計
	完	欠																							
25号住	11	24			1	1					1	4	2							44		65			109
26号住	24	72			4	3		1	3		2	7	1							117		236			353
27号住	36	104	1		3	8		2	3			16	13							186		362			548
28号住	2	12	1		1	1		1			1	10	16							45	1	95			141
29号住	17	52			2	5		1	1			7	4		1					90		117			207
30号住	6	26							1			1	1	1						36		97			133
32号住	18	100	1			7		3			7	25	22							183	1	235			419
33号住	9	55			1	3				2	1	25	23	1	5					125		247			372
34号住	31	98	2		2	11		2			1	28	19	2	2					198		387			585
35号住	8	23				3					1	7	3							45		58			103
36号住	7	48	1		1			1				13	8		1					80		59			139
37号住	4	32			2	1					2	8	2							51		25			76
38号住	4	8										2								14		19			33
39号住	10	15				3	1					1	1							31		34			65
40号住	6	68			5	1					2	5	6		1					94		96			190
41・60号住	14	58				1		1				8	6		3		1			92		136			228
42号住	2	14			1	1		1	1	2	2	3	2							29		45			74
45号住	3	4			2							1	2							12		20			32
46号住	8	20	1			1				2	1	10	2		3					48	1	88			137
47号住	2	3			1	2			1		1	2	3		1				1	17	1	43			61
48号住	9	42				1		1	1		1		12		3				1	71		157			228
49号住	14	47	1		2	2	1				16	2	7	1	2				1	96	2	169			267
50号住	3	24				3					2	7	8	1	1					49		141			190
51号住	43	103	1		12	5			2		8	10	21		3					208	1	249			458
52号住	3	16			1						1	3	4							28		81			109
53号住	5	25	1		1						1	6	2	1						42		33			75
54号住	3	2				1					1	4	1							12		12			24
55号住	6	12			2							2	1		1					24	1	19			44
56号住		2										1								3	1	7			11
57号住	9	21			1	2		1			3	7	8		2					54	1	41			96
58号住																				0					0
59号住	3											1	2							6		2			8
61号住	9	31			1	9				1	8	21	3							83		239			322
62号住	1	3								1		1	1							7		15			22
52号土																				0					0
53号土																				0		2			2
54号土																				0					0
55号土																				0					0
56号土	1																			1					1
57号土														1						1					1
58号土	1	1																		2					2
59号土	2	1																		3		1			4
60号土																				0					0
遺構外	88	377	3		12	14			3		12	7	54	1	6	1	1	1	2	582	2	898			1482
先土器																				0			1	1	2
合計	422	1543	13		58	89	2	15	16	8	75	255	261	8	35	1	2	1	5	2809	12	4530	1	1	7353

第6表 土製品・石製品集計表

出土区 \ 種別	土製 円板	土錘	土偶	耳栓	ミニチュ ア土器	器台	石棒	合計
25号住					1			1
26号住	4			1				5
27号住	7					2		9
28号住	1			1				2
29号住	2		1					3
32号住	4				3			7
33号住	4		1		1			6
34号住	2		2		3	1		8
35号住	2							2
37号住	1					1		2
40号住	1			1				2
41・60号住							1	1
42号住	1							1
45号住	1							1
46号住	1		1					2
47号住			2	1		1		4
49号住						1		1
50号住	1				1			2
51号住	1	1			1	1		4
53号住						1		1
55号住	1							1
57号住	1							1
59号住	1							1
61号住	2		1		1		1	5
遺構外	15	1	2		2	3		23
合計	53	2	10	4	13	11	2	95

第7表 出土土器一覽表

25号 住居址						
図面 図版	出土位置	口径 器高 底径 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
50-1 33	フク土	((20.4)) (8.4)	深鉢 口縁部	口縁部に渦巻状の小突起を付し、頸部は隆帯による楕円区画がなされ、区画内には竹管による縦位の集合沈線が施される。		8 a
50-2 33	フク土	((17.6)) (16.8) -	口縁部 深鉢 胴部	半截竹管の平行沈線文がなされ、沈線による波状文・三叉文が施される。地文はR L縄文の横位施文。		7 b
図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
50-3-1	フク土	8.1	深鉢 口縁部	刻目をもつ渦巻状突起と小突起、隆帯で縦区画、沈線、爪形文、円文	Ⅲ D b	
50-4-1	フク土	3.5	深鉢 口縁部	波状沈線文、横位のR L縄文	Ⅲ B b	
50-5-1	フク土	4.1	深鉢 口縁部	爪形文をもつ隆帯	Ⅲ-1 b	
50-6-1	小穴	4.6	深鉢 胴部	沈線区画、沈線、三角押文、爪形文、刻目文	Ⅲ C b	
50-7-1	フク土	5.9	深鉢 胴部	隆帯で楕円区画、集合沈線	Ⅲ E b	
50-8-1	フク土	4.5	深鉢 胴部	隆帯で楕円区画、爪形文、キャタピラ文、三角押文、刺突による波状文	Ⅲ A b	
50-9-1	フク土	4.5	深鉢 胴部	半隆起線で区画、斜・縦位沈線	Ⅲ C b	
50-10-1	フク土	4.9	深鉢 胴部	隆帯・キャタピラ文・三角押文で楕円文様	Ⅲ B b	
50-11-1	フク土	6.4	深鉢 胴部	隆帯で楕円区画、集合沈線	Ⅲ E b	
50-12-1	フク土	5.3	深鉢 胴部	横位R L縄文、隆帯・キャタピラ文で三角区画、蛇行沈線	Ⅲ A b	
50-13-1	フク土	9.9	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文、半截竹管の刺突による波状文	Ⅲ B b	
50-14-1	フク土	6.3	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文、半截竹管刺突文	Ⅲ B b	
50-15-1	フク土	6.1	深鉢 頸部・胴部	隆帯、爪形文、半截竹管の刺突文	Ⅲ A b	
51-1-1	フク土	7.1	深鉢 胴下部	隆帯で楕円区画、爪形文、波状沈線	Ⅲ E b	
51-2-1	フク土	7.1	深鉢 胴部	隆帯、平行沈線、爪形文、波状沈線、円形貼付文	Ⅲ D b	
51-3-1	フク土	6.2	深鉢 胴部	刻目をもつ貼付隆帯、半隆起線文	Ⅲ C b	
51-4-1	フク土	5.9	深鉢 胴部	隆帯・キャタピラ文で重三角区画、波状沈線	Ⅲ A b	
51-5-1	フク土	6.1	深鉢 胴部	平行沈線、爪形文、半截竹管刺突文	Ⅲ C b	
51-6-1	床上	5.1	深鉢 胴部	隆帯で楕円区画集合沈線、ペン先状工具による刺突文	Ⅲ E b	
51-7-1	フク土	2.1	深鉢 口縁部	角押文	Ⅲ A a	
51-8-1	フク土	3.2	深鉢 胴部	角押文、隆帯	Ⅲ A a	
51-9-1	フク土	5.4	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯で楕円区画、集合沈線	Ⅲ E c	

第8表 出土土器一覧表

図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
51-10・一	フク土	5.3	深鉢 胴上部	刻目文・交互刺突文をもつ小突起、三叉文	Ⅲ H c	
51-11・一	フク土	6.7	深鉢 口縁部	半隆起線、爪形文	Ⅲ - c	
51-12・一	フク土	7.1	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、沈線、三叉文、爪形文	Ⅲ G c	
51-13・一	フク土	6.1	深鉢 胴下部	半隆起線で区画、集合沈線	Ⅲ C c	
51-14・一	フク土	5.3	深鉢 胴部	沈線、爪形文、半截竹管刺突文	Ⅲ - c	
51-15・一	フク土	4.9	深鉢 胴部	斜位沈線、平行沈線で楕円文様、貼付文	Ⅲ D c	
26号 住居址						
図面 図版	出土位置	口径 器高 底径 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
52-1 33	炉	— (20.5) 11.0	胴部 深鉢 底部	隆帯による楕円区画を2段に割り付け、各々45度ずつずらした4単位構成。区画内には集合沈線を施す。		8 b 炉体土器
52-2 33	炉	((44.8)) (13.0) —	口縁部 浅鉢 胴部	沈線により小円モチーフを4単位施し、その間を長円形モチーフでつなぐ。		炉体土器
52-3 33	炉	— (24.0) —	頸部 深鉢 胴部	頸部は貼付による円形隆帯を有す。地文はL縄文の斜位施文。		8 b 炉体土器
52-4 34	炉	— (22.4) —	深鉢 胴部	文様は3単位2段で構成され、わらび手状の連続する意匠を表出し、蓮華文や沈線による三叉文・渦巻文を施す。		8 b 炉体土器
53-1 33	フク土	16.8 29.6 8.8	口縁部 深鉢 胴部 底部	口縁部は透孔を持つ把手を1箇所付す。胴部は爪形文をもつ隆帯で楕円区画を表出し、区画内に集合沈線を施す。文様は推定で4単位2段構成。		8 b
53-2 35	フク土	23.2 (30.8) —	口縁部 深鉢 胴部	楕円と逆三角形・台形の区画を配した帯状の文様を施す。胴下半はRL縄文の横位施文。		8 b
53-3 35	フク土	((21.2)) (14.8) —	口縁部 深鉢 頸部	把手付き小突起1対をもつ4単位構成で、突起より隆帯を垂下し単位区画する。		8 b
53-4 35	フク土	((15.6)) (9.8) —	口縁部 深鉢 胴部	口縁部から連続刺突文、波状の刺突文、矢羽状刺突文、キャタピラ文の順に施し、その下にはRL縄文が横位に施文され波状沈線が施される。		8 b

第9表 出土土器一覧表

図面 図版	出土位置	口径 器高 底径 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
53-5 —	フク土	((16.8)) (12.0) —	口縁部 深鉢 胴部	大きく湾曲する四重の沈線を連続して描き、キャタピラ文や沈線を施す。		8 b
53-6 35	フク土	— (9.2) —	深鉢 胴部	刻目をもつ貼付隆帯で区画を作出し、区画内に集合沈線を施す。		8 b
53-7 35	フク土	15.0 18.8 8.0	口縁部 深鉢 胴部 底部	頸部屈曲部は有節沈線がめぐる。地文はR Lの縄文を異方向に施文。		8 b
53-8 35	フク土	— (13.2) (9.6)	胴部 深鉢 底部	R L縄文の斜位施文。		8 b
53-9 35	フク土	— (12.8) —	深鉢 胴部	爪形文をもつ貼付隆帯による渦巻文を施す。		8 b
図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
53-10・—	フク土	4.3	深鉢 口縁部	隆帯、三角押文	Ⅲ A a	
53-11・—	フク土	4.3	深鉢 口縁部	隆帯、三角押文	Ⅲ A a	
53-12・—	フク土	3.6	深鉢 口縁部	キャタピラ文、角押文、三角押文	Ⅲ A a	
53-13・—	フク土	3.2	深鉢 口縁部	隆帯で重三角区画、キャタピラ文、三角押文	Ⅲ A a	
54-1・—	フク土	4.3	深鉢 口縁部	隆帯で重三角区画、キャタピラ文、三角押文	Ⅲ A a	
54-2・—	フク土	5.7	深鉢 胴部	三角押文で渦巻文、角押文	Ⅲ B a	
54-3・—	フク土	4.4	深鉢 胴下部	隆帯・三角押文で楕円区画文	Ⅲ A a	
54-4・—	フク土	3.0	深鉢 胴部	隆帯、摘み状突起、大・小の三角押文	Ⅲ A a	
54-5・—	フク土	3.9	深鉢 胴部	爪形文、三角押文	Ⅲ A a	
54-6・—	フク土	4.7	深鉢 口縁部	沈線で渦巻文、三叉文、刻目をもつ隆帯	Ⅲ - c	
54-7・—	フク土	5.2	深鉢 口縁部	集合沈線、三角押文、円文、沈線	Ⅲ G b	
54-8・—	フク土	4.1	深鉢 口縁部	隆帯で区画、キャタピラ文、波状沈線、横位のR L縄文	Ⅲ A b	
54-9・—	フク土	4.2	深鉢 口縁部	刻目をもつ隆帯、集合沈線、刻目文、半截竹管による刺突文	Ⅲ C b	
54-10・—	フク土	4.3	深鉢 胴部	半隆起線、爪形文、波状沈線	Ⅲ C b	
54-11・—	フク土	3.8	深鉢 胴部	隆帯、半隆起線で区画、集合沈線	Ⅲ C b	
54-12・—	フク土	3.9	深鉢 胴部	ヘラ状工具刺突による波状文、三角押文	Ⅲ A b	

第10表 出土土器一覧表

図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
54-13・一	フク土	7.0	深鉢 胴部	キャタピラ文、波状沈線	Ⅲ A b	
54-14・一	フク土	7.3	深鉢 胴部	沈線で楕円区画、爪形文、交互刺突文、刻目をもつ隆帯	Ⅲ E b	
54-15・一	フク土	6.5	深鉢 胴部	半隆起線で区画、集合沈線、矢羽根状刺突文をもつ隆帯	Ⅲ C b	
54-16・一	フク土	4.1	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、沈線	Ⅲ D c	
54-17・一	フク土	8.9	深鉢 胴部	半隆起線で幾何学文様、爪形文、半截竹管刺突文	Ⅲ C b	
54-18・一	フク土	8.6	深鉢 胴部	半隆起線で楕円区画、集合沈線、交互刺突文、爪形文、沈線	Ⅲ E b	
54-19・一	フク土	8.9	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯で楕円区画、沈線、爪形文	Ⅲ E b	
54-20・一	フク土	8.3	深鉢 胴部	隆帯、爪形文をもつ隆帯、集合沈線	Ⅲ D c	
54-21・一	フク土	7.3	深鉢 口縁部	沈線	Ⅲ G c	
54-22・一	フク土	10.0	深鉢 口縁部	沈線	Ⅲ G c	
54-23・一	フク土	4.6	深鉢 口縁部	沈線、爪形文	Ⅲ - c	
54-24・一	フク土	4.0	深鉢 胴部	隆帯で渦巻文、矢羽根状刺突文、爪形文	Ⅲ G c	
55-1・一	フク土	13.2	深鉢 胴部	平行沈線	Ⅲ - c	
55-2・一	フク土	5.6	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、沈線、集合沈線	Ⅲ D c	
55-3・一	フク土	4.9	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、沈線	Ⅲ - c	
55-4・一	フク土	3.1	深鉢 胴部	爪形文をもつ隆帯、沈線、爪形文	Ⅲ - c	
55-5・一	フク土	5.4	深鉢 胴部	隆帯、交互刺突文、縦・斜位の R L 縄文	Ⅲ G c	
55-6・一	フク土	4.2	深鉢 胴部	矢羽根状刺突文をもつ隆帯	Ⅲ D c	
55-7・一	フク土	5.0	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文、三角押文	Ⅲ A b	
55-8・一	フク土	6.1	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯で楕円区画、沈線、爪形文	Ⅲ E c	
55-9・一	フク土	6.8	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯で楕円区画、沈線	Ⅲ E c	
55-10・一	フク土	5.1	深鉢 胴部	爪形文をもつ隆帯、沈線	Ⅲ D c	
55-11・一	フク土	6.9	深鉢 胴上部	刻目をもつ隆帯、沈線、爪形文、三叉文	Ⅲ H c	
55-12・一	床上	8.2	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯で区画、沈線、半截竹管刺突文、爪形文、集合沈線	Ⅲ E c	
55-13・一	フク土	7.7	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、沈線、縦位の R L 縄文	Ⅲ E c	
55-14・一	フク土	11.1	深鉢 胴部	隆帯と粘土紐の貼付による風車文、沈線	Ⅲ G c	
55-15・一	フク土	10.9	深鉢 胴下部	集合沈線	Ⅲ H c	
55-16・一	フク土	6.0	深鉢 胴部	矢羽根状刺突文をもつ隆帯	Ⅲ D c	

第11表 出土土器一覧表

27号 住居址						
図面 図版	出土位置	口径 器高 底径 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
56-1 36	炉	33.4 (18.8) —	口縁部 深鉢 頸部	粘土紐の貼付による突起と渦巻文でミミズク状の意匠を表出し、口唇部に沿って刻目文がめぐる。		9 b 炉体土器
56-2 36	小穴	— (26.4) (9.0)	深鉢 胴部	交互刺突文をもつ貼付隆帯でX字状の文様を作出し、三叉文・角押文を施す。胴部下半部はR L縄文の斜位施文。		9 b
56-3 36	フク土	((14.8)) (12.8) —	深鉢 口縁部	交互刺突文を付した屈曲と直線の貼付隆帯。		9 b
56-4 36	フク土	— (45.6) —	頸部 深鉢 胴部	わらび手状の平行沈線によって区画され、区画内に集合沈線を描く。器体を縦断するように爪形文をもつ隆帯が連鎖状に垂下し、文様帯下端は開放される。		8 a
56-5 36	フク土	((31.2)) (5.7) —	浅鉢 口縁部	隆帯によるW字状・逆U字状弧線をモチーフとし、隆帯間に沈線による三叉文・刺突文を施す。		9 b
56-6 36	フク土	— (9.4) —	深鉢 頸部	交互隆帯によって頸部と胴部を二分する。		9 b
56-7 36	フク土	— (10.4) —	頸部 深鉢 胴部	隆帯と透孔によるミミズク把手を有する。地文はRの捺糸文。		9 b
56-8 36	フク土	((24.0)) 26.6 (8.0)	口縁部 深鉢 胴部	波頂部に楕円文を施す。胴部は沈線間が磨消された2本一組の懸垂文が垂下する。地文はR L縄文の横位施文。		1 2 a
56-9 36	フク土	((11.4)) (12.2) —	口縁部 深鉢 胴部	4単位構成の波状口縁で、波頂下に渦巻文と懸垂文を施す。口縁に沿って3本の沈線を施す。地文はR L縄文。		1 1 c
図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
57-1-1	フク土	6.2	深鉢 口縁部	角押文、角押文で波状文	Ⅲ A a	
57-2-1	小穴	3.9	深鉢 口縁部	隆帯、三角押文、竹管の押しきで波状文	Ⅲ A a	
57-3-1	フク土	3.6	深鉢 胴上部	隆帯、キャタピラ文、三角押文	Ⅲ A a	
57-4-1	小穴	4.1	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文、竹管の押しきで波状文	Ⅲ A a	

第12表 出土土器一覧表

図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
57-5・ー	フク土	3.5	深鉢 胴部	隆帯、キョウビラ文、沈線、三角押文、 凹文	Ⅲ A b	
57-6・ー	フク土	5.1	深鉢 口縁部	爪形文と半截竹管刺突文の組合せ、沈線	Ⅲ - b	
57-7・ー	フク土	5.6	深鉢 胴上部	隆帯、沈線、交互刺突文、刻目文、縄 文、矢羽根状刺突文	Ⅲ C b	
57-8・ー	フク土	4.1	深鉢 口縁部	沈線	Ⅲ G c	
57-9・ー	フク土	3.4	深鉢 口縁部	沈線、渦巻文、爪形文	Ⅲ H c	
57-10・ー	フク土	11.5	深鉢 口縁部	沈線、交互刺突をもつ隆帯、渦巻沈線文 をもつ小突起	Ⅲ G c	
57-11・ー	フク土	8.6	深鉢 口縁部	棒状工具による沈線、押圧状の太い刻目 をもつ隆帯	Ⅲ - c	
57-12・ー	フク土	6.9	深鉢 口縁部	口唇部に交互刺突をもつ隆帯を貼付、沈 線、縦位のR L縄文	Ⅲ H c	
57-13・ー	フク土	6.5	深鉢 口縁部	交互刺突・刻目をもつ隆帯で渦巻文	Ⅲ H c	
57-14・ー	フク土	8.0	深鉢 口縁部	刻目文をもつ隆帯、棒状工具による沈 線・刺突文	Ⅲ G c	
57-15・ー	床上	7.8	深鉢 口縁部	沈線をもつ隆帯を貼付した小突起	Ⅲ H c	
57-16・ー	フク土	6.6	深鉢 口縁部	沈線、円形刺突文	Ⅲ G c	
57-17・ー	フク土	4.8	深鉢 口縁部	隆帯を貼付し、その間をなでつけ	Ⅲ H c	
57-18・ー	フク土	5.3	深鉢 口縁部	竹管状工具による太い沈線	Ⅲ G c	
57-19・ー	フク土	8.2	深鉢 口縁部	沈線、刻目文	Ⅲ D c	
57-20・ー	フク土	5.7	深鉢 口縁部	沈線で渦巻文、貼付隆帯	Ⅲ - c	
58-1・ー	フク土	6.3	深鉢 胴部	沈線、半截竹管押圧文、斜位のR L L縄 文	Ⅲ G c	
58-2・ー	フク土	6.2	深鉢 胴部	爪形文をもつ隆帯で区画	Ⅲ G c	
58-3・ー	フク土	5.9	深鉢 胴部	沈線、交互刺突文、円形刺突文	Ⅲ G c	58-5と同一
58-4・ー	フク土	3.8	深鉢 胴部	沈線をもつ太い隆帯、沈線、Lの燃糸文	Ⅲ - c	
58-5・ー	フク土	7.5	深鉢 胴部	沈線、交互刺突文、三角押文、刻目文、 Lの燃糸文	Ⅲ G c	58-3と同一
58-6・ー	フク土	6.6	深鉢 胴部	矢羽根状刺突・刻目をもつ隆帯、集合沈 線	Ⅲ C b	
58-7・ー	フク土	5.5	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、沈線	Ⅲ D c	
58-8・ー	フク土	4.1	深鉢 胴部	爪形文をもつ隆帯、Lの燃糸文	Ⅲ - c	
58-9・ー	フク土	8.5	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、交互刺突をもつ隆帯、 沈線	Ⅲ G c	
58-10・ー	フク土	8.5	深鉢 胴部	沈線で渦巻文、隆帯、縦位のR L縄文	Ⅲ G c	
58-11・ー	炉	7.1	深鉢 胴部	沈線、刻目文、爪形文	Ⅲ G c	
58-12・ー	フク土	9.9	深鉢 胴部	沈線、刻目文、矢羽根状刺突をもつ隆帯	Ⅲ G c	
58-13・ー	フク土	8.8	深鉢 胴部	隆帯で楕円区画、集合沈線	Ⅲ E c	
58-14・ー	フク土	8.4	深鉢 胴上部	沈線、刻目・矢羽根状刺突文をもつ隆帯	Ⅲ D c	

第13表 出土土器一覽表

図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
58-15-1	フク土	7.8	深鉢 胴下部	縦位・斜位沈線、刻目文をもつ隆帯	Ⅲ D c	
58-16-1	フク土	6.2	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文、三角押文、波状沈線	Ⅳ	
28号 住居址						
図面 図版	出土位置	口径 器高 底径 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
59-1 37	フク土	12.4 24.7 6.6	口縁部 深鉢 胴部 底部	平行沈線による三角形をモチーフとし、区画内にヘラ状工具による蓮華文と玉抱き三叉文を施す。胴下半部はR L縄文。		7 b
59-2 37	フク土	((21.2)) (9.6) —	深鉢 口縁部	やや崩れたミミズク状の把手を有し、貼付隆帯に沿って連続刺突文を施す。		7 b
59-3 37	フク土	12.0 (9.4) —	口縁部 深鉢 胴部	口縁部は内側に向かって貼付される。胴部は部分的に縦位の条線を施す。		
59-4 37	フク土	31.2 (20.0) —	口縁部 深鉢 胴部	口縁部は沈線で渦巻文と楕円区画による文様を8単位描く。胴部は沈線による2本一組の懸垂文を16単位施す。地文はR L R縄文の縦位施文。		1 2 b
図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
59-5-1	フク土	4.6	深鉢 口縁部	口唇部に爪形文、半隆起線文、交互刺突文、刻目文	Ⅲ C b	
59-6-37	フク土	4.9	深鉢 口縁部	隆帯、沈線、爪形文、三叉文	Ⅲ A b	
59-7-37	フク土	5.5	深鉢 口縁部	半隆起線文、爪形文、刻目文、半截竹管刺突文	Ⅲ C b	
59-8-37	フク土	5.8	深鉢 口縁部	刻目文をもつ隆帯、縄文、キャタピラ文、波状沈線	Ⅲ A b	
59-9-1	フク土	5.6	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文、三角押文	Ⅲ A b	
59-10-1	フク土	5.0	深鉢 胴部	キャタピラ文、半截竹管刺突文、半隆起線	Ⅲ C b	
59-11-1	フク土	4.8	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文、波状沈線	Ⅲ A b	
59-12-37	フク土	6.1	深鉢 胴部	爪形文をもつ隆帯、沈線、集合沈線	Ⅲ-c	
59-13-1	フク土	2.7	深鉢 口縁部	沈線、竹管による刺突文	Ⅷ	称名寺
59-14-1	フク土	3.3	深鉢 口縁部	条線	V f	
59-15-1	フク土	4.6	深鉢 口縁部	沈線、条線	V f	
59-16-37	フク土	4.5	深鉢 口縁部	縄文、隆帯による渦巻文	V f	
59-17-37	フク土	5.2	深鉢 口縁部	口唇部に沈線、隆帯、沈線で縦杉文	Ⅵ	

第14表 出土土器一覧表

図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
59-18・37	フク土	6.2	深鉢 口縁部	隆帯で区画、条線	V f	
59-19・ー	フク土	7.2	深鉢 口縁部	隆帯、沈線、縄文	V f	
59-20・37	フク土	6.5	深鉢 口縁部	渦巻文、区画内縄文	V f	
59-21・ー	フク土	8.2	深鉢 胴部	3本単位の沈線で文様	V f	
59-22・ー	フク土	6.1	深鉢 胴部	条線で流水文	V f	
59-23・ー	フク土	5.8	深鉢 胴部	条線、沈線の間を磨消し	V f	
29号 住居址						
図面 図版	出土位置	口径 器高 底径 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
60-1 38	フク土	((14.8)) (14.2) —	口縁部 深鉢 胴部	口縁部は隆帯による楕円区画が4単位なされ、区画内に集合沈線を施す。頸部の屈曲部は連鎖状の貼付隆帯、胴部屈曲部には矢羽根状刺突をもつ隆帯が施される。		8 b
60-2 38	フク土	((23.6)) (9.4) —	口縁部 深鉢 胴部	口唇部には蛇体装飾と考えられる隆帯を有し、その下に1個の刻み目をもつ把手を付す。胴部はR撚糸文の縦位施文。		8 b
60-3 38	フク土	— (13.6) —	深鉢 胴部	R L 縄文を蜜に転がす。		
60-4 38	フク土	((27.6)) (9.2) —	口縁部 深鉢 頸部	交互刺突と刻目をもつ貼付隆帯による渦巻文で文様が描かれ、そこからつながって頸部をめぐる。文様の内側には四角形が施される。		
60-5 38	フク土	((22.0)) (12.6) —	口縁部 深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯で頸部と胴部を区画し、四角形の区画を作出する。		
60-6 38	フク土	— (13.6) (10.4)	胴部 深鉢 底部	胴部に縦位の集合沈線を施し、底部との間に1本の沈線がめぐる。		
60-7 39	床上	— (32.4) 11.6	頸部 深鉢 胴部 底部	口縁部・胴下半部は無文。爪形文をもつ隆帯で人体文状の幾何学文を4単位構成で描き、その間に沈線による三叉文・三角文・円文などを施す。		8 b
60-8 38	フク土	((23.4)) (21.2) —	口縁部 深鉢 胴部	口唇部に爪形文がめぐる。胴部は渦巻文及びその変形で4単位に区画し、沈線により区分した中に集合沈線・三叉文などを施す。		8 b

第15表 出土土器一覧表

図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
61-1-1	フク土	5.7	深鉢 口縁部	爪形文、三角押文で波状文	Ⅲ A a	
61-2-1	フク土	6.1	深鉢 胴部	隆帯、角押文	Ⅲ Aa	
61-3-1	フク土	5.3	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文、竹管状工具押引文、三角押文で波状文	Ⅲ Aa	
61-4-1	フク土	4.1	深鉢 胴部	隆帯、半截竹管押引文、円形竹管押引文	Ⅲ Aa	
61-5-1	フク土	3.9	深鉢 胴部	三角押文による波状文	Ⅲ Aa	
61-6-1	フク土	7.1	深鉢 口縁部	刻目をもつ隆帯、沈線、半截竹管刺突文、爪形文	Ⅲ Ab	
61-7-1	フク土	7.3	深鉢 口縁部	隆帯で重三角区画、キャタピラ文、三叉文	Ⅲ Ab	
61-8-1	フク土	2.8	深鉢 口縁部	キャタピラ文、波状沈線	Ⅲ Ab	
61-9-1	フク土	3.2	深鉢 口縁部	キャタピラ文、縄文、ヘラ状工具刺突文	Ⅲ Ab	
61-10-1	フク土	3.6	深鉢 口縁部	キャタピラ文、波状沈線	Ⅲ Ab	
61-11-1	フク土	3.1	深鉢 口縁部	交互刺突文、爪形文	Ⅲ Gc	
61-12-1	フク土	9.1	深鉢 口縁部	爪形文をもつ隆帯で楕円区画、沈線、交互刺突文、刻目文	Ⅲ Eb	
61-13-1	フク土	4.3	深鉢 胴部	隆帯、半隆起線、爪形文、竹管刺突による波状文、半截竹管刺突文	Ⅲ Cb	
61-14-1	フク土	3.5	深鉢 胴部	半隆起線、爪形文、半截竹管刺突文	Ⅲ Cb	
61-15-1	フク土	3.7	深鉢 胴部	半截竹管刺突文、爪形文	Ⅲ -b	
61-16-1	フク土	4.9	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文、竹管状工具押引による波状文	Ⅲ Ab	
61-17-1	フク土	4.2	深鉢 胴部	半隆起線で区画、爪形文、半截竹管刺突文	Ⅲ Cb	
61-18-1	フク土	5.6	深鉢 胴部	半隆起線で区画、沈線、爪形文、半截竹管刺突文	Ⅲ Cb	
61-19-1	床上	5.7	深鉢 胴部	隆帯・爪形文・波状沈線で毛虫状文	Ⅲ Bb	
61-20-1	フク土	4.8	深鉢 胴部	隆帯、爪形文、波状沈線	Ⅲ Ab	
61-21-1	フク土	4.7	深鉢 胴部	爪形文をもつ隆帯、キャタピラ文、竹管による連続刺突文	Ⅲ Bb	
61-22-1	フク土	5.7	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文、沈線、刻目文	Ⅲ Bb	
61-23-1	フク土	5.2	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文	Ⅲ Ab	
61-24-1	炉	4.4	深鉢 胴部	刻目をもつ渦巻状突起、縄文	Ⅲ Bb	
61-25-1	フク土	4.6	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文、波状沈線	Ⅲ Ab	
61-26-1	フク土	7.7	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯・半隆起線で区画、蓮華文、キャタピラ文、波状沈線	Ⅲ Cb	
61-27-1	フク土	6.5	深鉢 頸部	刻目をもつ隆帯で区画、沈線、爪形文	Ⅲ Eb	
61-28-1	フク土	4.3	深鉢 胴部	爪形文をもつ隆帯、半隆起線、蓮華文、爪形文	Ⅲ Cb	
62-1-1	フク土	6.2	深鉢 口縁部	斜位のRL縄文、円形磨消文	Ⅲ Fe	
62-2-1	フク土	5.4	深鉢 口縁部	刻目をもつ隆帯で楕円区画、沈線、爪形文	Ⅲ Fe	63-2・3と同一

第16表 出土土器一覧表

図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
62-3-1	フク土	4.6	深鉢 口縁部	沈線、三叉文、刻目文、交互刺突文	ⅢGc	
62-4-1	フク土	4.7	深鉢 口縁部	沈線	Ⅲ-c	
62-5-1	床上	5.2	深鉢 口縁部	沈線、櫛歯状文	ⅢGc	
62-6-1	フク土	3.9	深鉢 口縁部	隆帯、交互刺突文、沈線	Ⅲ-c	
62-7-1	フク土	15.5	深鉢 口縁部	矢羽根状刺突文をもつ隆帯、沈線、交互刺突文、爪形文、櫛状工具の刺突文	ⅢGc	
62-8-1	フク土	8.5	深鉢 口縁部	隆帯による渦巻文、刻目をもつ隆帯、沈線	ⅢHc	
62-9-1	フク土	8.6	深鉢 口縁部	刻目をもつ隆帯、沈線で区画、半截竹管押引文、交互刺突文、円形押圧文	ⅢEc	
62-10-1	フク土	9.6	深鉢 口縁部	口唇部に刻目をもつ隆帯、R L 縄文の斜位施文	Ⅲ-c	
62-11-1	床上	6.7	深鉢 把手	刻目をもつ隆帯、沈線、交互刺突文、三叉文、集合沈線	ⅢHc	
62-12-1	フク土	10.6	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、沈線、L 撚糸文	Ⅲ-c	
62-13-1	フク土	9.7	深鉢 胴部	沈線のある小突起、沈線、刻目文、玉抱き三叉文、R L 縄文の縦位施文	ⅢGc	
62-14-1	フク土	7.5	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯で楕円区画、沈線、集合沈線、R の撚糸文	ⅢEc	
62-15-1	フク土	7.6	深鉢 胴部	沈線、爪形文、刻目文、ペン先状工具による刺突文	Ⅲ-c	
62-16-1	フク土	5.8	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯で楕円区画、沈線、集合沈線	ⅢEc	
63-1-1	フク土	6.2	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、沈線、玉抱き三叉文	ⅢGc	
63-2-1	床上	5.4	深鉢 頸部	刻目をもつ隆帯、沈線	ⅢEc	62-2・63-3と同一
63-3-1	フク土	4.5	深鉢 頸部	押圧状の太い刻目をもつ隆帯	ⅢEc	62-2・63-2と同一
63-4-1	フク土	4.2	深鉢 胴部	隆帯、沈線、爪形文	ⅢEc	63-6と同一
63-5-1	フク土	3.8	深鉢 口縁部	沈線、矢羽根状刺突文、交互刺突文、横位のR L L 縄文	Ⅲ-c	
63-6-1	フク土	6.3	深鉢 胴部	沈線、爪形文、交互刺突文	ⅢEc	63-4と同一
63-7-1	フク土	5.1	深鉢 胴部	隆帯、沈線、三角押文、三叉文	ⅢAc	
63-8-1	フク土	4.8	深鉢 胴部	沈線、交互刺突文	ⅢDc	
63-9-1	フク土	5.0	深鉢 胴部	三叉文、爪形文、沈線	ⅢDc	
63-10-1	フク土	4.9	深鉢 胴部	隆帯、沈線、刻目文、集合沈線、半截竹管刺突文	ⅢCc	
63-11-1	フク土	6.6	深鉢 胴部	矢羽根状刺突文をもつ隆帯、沈線、円形刺突文	ⅢGc	
63-12-1	フク土	5.0	深鉢 胴部	矢羽根状刺突文をもつ隆帯、沈線、爪形文	ⅢGc	
63-13-1	フク土	5.7	深鉢 胴部	沈線、刻目文	ⅢEc	
63-14-1	フク土	2.7	深鉢 胴部	竹管の刺突による鎖状隆帯、爪形文	Ⅲ-c	
63-15-1	フク土	5.8	深鉢 胴部	爪形文をもつ隆帯、半隆起線、R の撚糸文	ⅢCc	
63-16-1	フク土	6.6	深鉢 口縁部	爪形文・交互刺突文をもつ隆帯、斜位のR L L 縄文	ⅢHc	

第17表 出土土器一覽表

図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
63-17・-	フク土	3.1	深鉢 頸部	刻目文・矢羽根状刺突文をもつ隆帯、沈線三叉文	Ⅲ C c	
63-18・-	フク土	6.7	深鉢 胴部	沈線による渦巻文、刻目文、ペン先状・ヘラ状工具による刺突文	Ⅲ G c	
63-19・-	床上	5.3	深鉢 胴部	刻目文をもつ隆帯、沈線	Ⅲ G c	
63-20・-	フク土	6.7	深鉢 胴部	沈線・刻目をもつ隆帯、集合沈線	Ⅲ G c	
63-21・-	炉	7.6	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、沈線、交互刺突文	Ⅲ G c	
63-22・-	フク土	12.9	深鉢 胴部	沈線、交互刺突文、櫛状工具による刺突文、棒状工具による刻目をもつ隆帯	Ⅲ G c	
63-23・-	フク土	7.7	深鉢 頸部	刻目をもつ隆帯で楕円区画、沈線、縄文	Ⅲ E c	
63-24・-	床上	4.6	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、縦位のL R縄文	Ⅲ - c	
30号 住 居 址						
図面 図版	出土位置	口径 器高 底径 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
64-1 40	床上	((24.0)) 41.4 10.2	口縁部 深鉢 胴部 底部	矢羽根状刺突文と刺突文をもつ貼付隆帯で三角形に区画し、沈線による三叉文・渦巻文を描く。		9 b
64-2 40	フク土	((32.0)) (13.0) -	口縁部 深鉢 頸部	細い貼付隆帯による曲線的な意匠を描く。		9 b
64-3 40	床上	((44.0)) (12.0) -	口縁部 浅鉢 胴部	無文。内外面ともに丁寧な磨き。		
64-4 40	炉	- (25.2) -	深鉢 胴部	全面にL Rの縄文が施されている。胴部に貼付隆帯による懸垂文が対で一組2本が付されている。		炉体土器
64-5 40	フク土	- (7.0) 9.0	深鉢 胴部 底部	R撚糸文。		
図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
64-6・-	フク土	5.6	深鉢 胴部	隆帯、三角押文、三角押文による波状文	Ⅲ A a	
64-7・-	フク土	4.3	深鉢 胴部	爪形文、三角押文	Ⅲ A a	
64-8・-	フク土	4.2	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文、三角押文、縄文	Ⅲ B b	
64-9・-	フク土	4.7	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、半隆起線、爪形文、沈線	Ⅲ C b	
64-10・-	床上	4.6	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文、波状沈線	Ⅲ A b	

第18表 出土土器一覽表

図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
64-11・ー	フク土	5.4	深鉢 胴部	半隆起線、爪形文、交互刺突文	Ⅲ C b	
64-12・ー	フク土	4.1	深鉢 胴部	半隆起線、沈線、爪形文、波状沈線	Ⅲ C b	
64-13・ー	フク土	3.7	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文、沈線	Ⅲ A b	
64-14・ー	フク土	3.2	深鉢 胴部	沈線、蓮華文	Ⅲ C b	
64-15・ー	フク土	7.1	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文	Ⅲ A b	
64-16・ー	フク土	6.7	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯で楕円区画、沈線、キャ タピラ文、三角押文	Ⅲ E b	
64-17・ー	フク土	4.7	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文、三角押文	Ⅲ A b	
64-18・ー	フク土	4.3	深鉢 胴部	半隆起線、爪形文、蓮華文	Ⅲ C b	
65-1・ー	フク土	6.6	深鉢 口縁部	無文	Ⅲ - c	
65-2・ー	フク土	4.5	深鉢 口縁部	沈線	Ⅲ G c	
65-3・ー	フク土	2.9	深鉢 口縁部	沈線、三叉文	Ⅲ G c	
65-4・ー	フク土	6.6	深鉢 口縁部	刻目をもつ隆帯	Ⅲ G c	
65-5・ー	フク土	5.4	深鉢 口縁部	沈線、交互刺突文、縦位の R L 縄文	Ⅲ G c	
65-6・ー	フク土	4.7	深鉢 口縁部	沈線、横位の R L 縄文	Ⅲ H c	
65-7・ー	フク土	3.8	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯で楕円区画、沈線、三角 押文	Ⅲ E c	
65-8・ー	フク土	3.7	深鉢 胴部	沈線・半截竹管の押圧痕をもつ隆帯で区 画	Ⅲ C c	
65-9・ー	フク土	3.7	深鉢 胴部	隆帯、有節平行線文、集合沈線の地文上 に沈線・三角押文	Ⅲ - c	
65-10・ー	床上	5.7	深鉢 胴部	爪形文をもつ隆帯	Ⅲ - c	
65-11・ー	フク土	5.0	深鉢 胴部	沈線、刻目をもつ隆帯、三角押文	Ⅲ E c	
65-12・ー	フク土	5.2	深鉢 胴部	隆帯、沈線、三角押文	Ⅲ - c	
65-13・ー	小穴	4.0	深鉢 胴部	沈線、集合沈線	Ⅲ D c	
65-14・ー	フク土	6.1	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、沈線	Ⅲ G c	
65-15・ー	フク土	5.7	深鉢 胴部	沈線	Ⅲ D c	
65-16・ー	フク土	5.2	深鉢 胴部	半隆起線、矢羽根状刺突文、半截竹管押 圧痕、三叉文、沈線	Ⅲ G c	
65-17・ー	フク土	3.9	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、沈線	Ⅲ D c	
65-18・ー	フク土	8.8	深鉢 胴部	隆帯、交互刺突による波状隆帯、縦位の R L 縄文	Ⅲ G c	
65-19・40	フク土	8.4	深鉢 胴部	斜位の R L 縄文、沈線、交互・矢羽根状 刺突文をもつ隆帯	Ⅲ G c	
65-20・ー	フク土	8.1	深鉢 胴部	沈線、刻目をもつ隆帯、斜位の R L 縄文	Ⅲ G c	
65-21・ー	フク土	9.8	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、沈線、集合沈線	Ⅲ D c	
65-22・ー	フク土	4.7	浅鉢 口縁部	半截竹管背面による角押文2条	Ⅲ c	

第19表 出土土器一覧表

32号 住居址						
図面 図版	出土位置	口径 器高 底径 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
66-1 41	土壇	23.2 37.9 13.2	口縁部 深鉢 胴部 底部	口唇部に一對の眼鏡状把手を配す。口縁部は隆帯と沈線が平行にめぐり、隆帯による三角区画文を施す。胴部は貼付隆帯によるJ字状の懸垂文が垂下し、RLの縄文が斜位に施文される。		8 a
66-2 42	床上	19.2 30.7 9.6	口縁部 深鉢 胴部 底部	口唇部に有孔の大形突起と直下に把手をもつ小形突起を付し、2個一組の小突起を一對配す。口縁部は重三角区画文内に爪形文・三叉文を施す。胴部は垂下する隆帯により2単位に区分し、胴下半部には楕円区画が施される。		8 a
66-3 43	フク土	— (21.3) 8.6	深鉢 胴部 底部	両脇に連続刺突文をもつ貼付隆帯で三角・四角形に区画する。区画内にはやや蛇行する沈線が垂下する。		8 b
66-4 43	床上	26.8 (27.6) —	口縁部 深鉢 胴部	口縁部は三角区画の崩れで、区画内に集合沈線と爪形文を施す。頸部は縦位の沈線。胴部は2単位に区画し、爪形文と波状沈線を沿わせる。		8 a
67-1 44	フク土	((24.8)) 37.9 ((12.0))	口縁部 深鉢 胴部 底部	1個の有孔把手を付し、口縁部は8単位の楕円区画を施す。胴部には3段の楕円区画が施され、区画内には集合沈線を充填する。		8 a
67-2 44	床上	((21.2)) 30.4 ((9.6))	口縁部 深鉢 胴部 底部	縦位の沈線と円文で4単位区画し、区画内はさらにX字状に区画される。胴下半部はLR縄文の縦位施文。		8 a
67-3 44	フク土	13.6 ((25.0)) ((9.2))	口縁部 深鉢 胴部 底部	口縁に沿って隆帯を付し、そこから隆帯が垂下する。文様は8単位。		
67-4 42	フク土	— (15.8) —	深鉢 胴部	頸部を隆帯によって区画し、胴部に爪形文をもつ短い隆帯を縦位に付す。		
67-5 42	フク土	((12.8)) (7.2) —	深鉢 口縁部	口縁部は沈線と刻目をもつ隆帯により区画される。区画内には3～4本を一組とした沈線を縦位・斜位に施し、その間に三叉文が施される。地文はLR縄文の横位施文。		8 b
67-6 43	フク土	12.0 (14.8) 10.2	深鉢 胴部 底部	刻目をもつ貼付隆帯によって、四角・三角・楕円の区画を施し、内側に集合沈線と列点を充填する。		
67-7 42	床上	((45.2)) (20.2) —	深鉢 口縁部	貼付による波状口縁の波頂部に沿って半截竹管の押引を施す。		阿玉台Ⅲ

第20表 出土土器一覧表

図面 図版	出土位置	口径 器高 底径 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
67-8 43	床上	— (21.4) ((16.2))	胴部 深鉢 底部	爪形を付した屈曲する隆帯によって区画し、区画内に縦位の沈線を施す。		
68-1 43	フク土	— (14.5) ((11.8))	胴部 深鉢 底部	爪形文と交互刺突文をもつ貼付隆帯で曲線と渦巻文を描き、内側に集合沈線を施す。		8 b
68-2 43	フク土	— (14.0) —	深鉢 胴部	隆帯による楕円区画に沿って連続刺突文と波状沈線を施す。		8 a
68-3 43	小穴	— (10.0) —	深鉢 頸部	刻目をもつ貼付隆帯による楕円区画を作出し、区画内に集合沈線を施す。		8 b
68-4 43	フク土	— (9.4) —	深鉢 頸部	貼付隆帯による四角・楕円区画の内側に集合沈線・連続刺突・波状沈線を施す。		
68-5 44	フク土	32.0 44.6 8.8	口縁部 深鉢 胴部 底部	口縁部に横位の隆帯を付す。地文はR L縄文を横位施文。		
68-6 44	フク土	13.2 (15.0) —	口縁部 深鉢 胴部	R L縄文の横位施文。		
68-7 44	フク土	10.8 (15.0) —	口縁部 深鉢 胴部	R L縄文の斜位施文。		
68-8 43	フク土	11.2 (8.1) —	口縁部 深鉢 胴部	口縁部に爪形文をもつ隆帯と無文の隆帯がめぐる。地文はR L縄文を横位施文。		8 a
68-9 45	フク土	— (7.0) 7.4	胴部 深鉢 底部	R L縄文の横位施文。		
68-10 45	フク土	— (12.4) ((9.6))	胴部 深鉢 底部	R L縄文の斜位施文。		
68-11 —	フク土	— (4.7) 4.8	胴部 深鉢 底部	R L縄文の横位施文。土器を逆さにして底部近くから上部へと施す。		

第21表 出土土器一覧表

図面 図版	出土位置	口径 器高 底径 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
68-12 44	フク土	14.4 (11.5) -	口縁部 深鉢 胴部	楕状の集合沈線を縦位に施文。		
68-13 45	フク土	((41.6)) (8.6) -	口縁部 浅鉢 胴部	貼付隆帯に沿って押引文・波状沈線・沈線を施す。		
68-14 -	フク土	((50.0)) (12.4) -	口縁部 浅鉢 胴部	無文。内外面ともに丁寧な磨き。口縁に紐状のもので擦れた痕跡あり。		
68-15 -	フク土	- (8.6) -	浅鉢 胴部	無文。		
68-16 -	床上	((31.6)) (8.2) -	口縁部 浅鉢 胴部	無文。口縁部折返し。		
図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
69-1・-	フク土	4.3	深鉢 胴上部	刻目をもつ円形突起、隆帯、キャタピラ文角押文	Ⅲ A a	
69-2・-	フク土	4.2	深鉢 胴部	横位のRL縄文、三角押文	Ⅲ A a	
69-3・-	土壌	9.3	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文、三角押文	Ⅲ A a	
69-4・-	フク土	10.5	深鉢 口縁部	刻目をもつ隆帯で区画、キャタピラ文、半截竹管刺突文、沈線	Ⅲ A b	
69-5・-	フク土	7.6	深鉢 口縁部	刻目をもつ円形把手、沈線、半截竹管刺突文、集合沈線、交互刺突文	Ⅲ A b	
69-6・-	フク土	5.1	深鉢 口縁部	隆帯、爪形文、沈線、半截竹管刺突文	Ⅲ A b	
69-7・-	フク土	5.4	深鉢 口縁部	爪形文、斜位の縄文、キャタピラ文、沈線磨消	Ⅲ B b	
69-8・-	フク土	5.7	深鉢 口縁部	地文の爪形文に交互刺突による波状隆帯、半隆起線、刻目文	Ⅲ C b	
69-9・-	フク土	3.2	深鉢 口縁部	半隆起線、爪形文	Ⅲ C b	
69-10・-	フク土	3.8	深鉢 口縁部	横位のRL縄文、刻目をもつ波状隆帯	Ⅲ B b	
69-11・-	フク土	3.0	小形深鉢 口縁部	口唇部に爪形文	Ⅲ b	
69-12・-	フク土	4.5	浅鉢 口縁部	キャタピラ文	Ⅲ b	69-14と同一
69-13・-	フク土	4.7	深鉢 口縁部	縄文の地文、隆帯、キャタピラ文、半截竹管刺突文、波状沈線	Ⅲ B b	
69-14・-	フク土	7.8	浅鉢 口縁部	隆帯、キャタピラ文	Ⅲ b	69-12と同一
69-15・-	フク土	6.5	深鉢 胴下部	半隆起線、沈線、爪形文	Ⅲ C b	
69-16・-	フク土	6.7	深鉢 胴下部	平行沈線で区画、集合沈線	Ⅲ D b	

第22表 出土土器一覽表

図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
69-17-1	フク土	8.2	深鉢 胴部	隆帯、有節平行線文、ペン先状工具刺突文	Ⅲ A b	70-15と同一
69-18-1	フク土	8.4	深鉢 胴部	隆帯、半隆起線、蓮華文	Ⅲ C b	
69-19-1	フク土	7.0	深鉢 胴部	有節平行線文をもつ隆帯、平行沈線、キャタピラ文、波状沈線	Ⅲ A b	
70-1-1	フク土	5.2	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯で楕円区画、沈線、波状沈線、爪形文	Ⅲ E b	
70-2-1	フク土	4.6	深鉢 胴部	半隆起線、爪形文、沈線、ヘラ状工具刺突文	Ⅲ C b	
70-3-1	フク土	4.6	深鉢 胴部	縦位のLR縄文、隆帯、キャタピラ文	Ⅲ B b	70-10と同一
70-4-1	フク土	5.3	深鉢 胴部	隆帯、半隆起線、蓮華文	Ⅲ C b	
70-5-1	フク土	6.9	深鉢 胴部	縦位のRL縄文、刻目をもつ隆帯、沈線、キャタピラ文、波状沈線	Ⅲ B b	70-12と同一
70-6-1	フク土	5.8	深鉢 胴部	横位のRL縄文、刻目をもつ隆帯、キャタピラ文、竹管状工具押引による波状文	Ⅲ B b	
70-7-1	フク土	5.4	深鉢 胴部	沈線、キャタピラ文、波状沈線	Ⅲ B b	
70-8-1	フク土	5.1	深鉢 胴部	半隆起線、沈線、爪形文、刺突文	Ⅲ C b	
70-9-1	フク土	6.6	深鉢 胴部	爪形文をもつ隆帯、沈線	Ⅲ - b	
70-10-1	フク土	7.1	深鉢 胴部	縦位のLR縄文、隆帯、キャタピラ文、三角押文	Ⅲ B b	70-3と同一
70-11-1	フク土	6.3	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文	Ⅲ A b	
70-12-1	フク土	7.2	深鉢 胴部	縦位のRL縄文、刻目をもつ隆帯、沈線、キャタピラ文、波状沈線	Ⅲ B b	70-5と同一
70-13-1	土壇	6.9	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、半隆起線、蓮華文	Ⅲ C b	
70-14-1	フク土	8.3	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、爪形文	Ⅲ - b	
70-15-1	フク土	11.0	深鉢 胴部	隆帯、有節平行沈線、沈線	Ⅲ A b	69-17と同一
70-16-1	フク土	8.3	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文、集合沈線	Ⅲ A b	
70-17-1	フク土	12.2	深鉢 胴部	爪形文をもつ隆帯で区画、沈線、集合沈線	Ⅲ E b	
70-18-1	フク土	9.1	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、キャタピラ文、波状沈線	Ⅲ A b	
71-1-1	フク土	5.4	深鉢 口縁部	沈線をもつ円形突起、三叉文、沈線、条線をもつ隆帯	Ⅲ D c	
71-2-1	フク土	7.5	深鉢 口縁部	縦位のLR縄文、三角押文、沈線	Ⅲ G c	
71-3-1	フク土	8.9	深鉢 口縁部	爪形文をもつ隆帯で区画、沈線、交互刺突文、集合沈線、押引文をもつ貼付隆帯	Ⅲ E c	
71-4-1	フク土	5.7	深鉢 口縁部	口唇部が棒状工具押圧により連鎖状に形成	Ⅲ - c	
71-5-1	フク土	5.2	深鉢 口縁部	キャタピラ文、三角押文	Ⅲ A a	
71-6-1	フク土	4.5	深鉢 胴部	隆帯、半截竹管押引文	Ⅲ A b	
71-7-1	床土	3.8	深鉢 胴部	平行沈線、矢羽根状刺突文、爪形文、沈線	Ⅲ G c	
71-8-1	フク土	6.4	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯で楕円区画、集合沈線	Ⅲ E c	
71-9-1	フク土	5.5	深鉢 胴部	矢羽根状刺突文・刻目文をもつ隆帯、集合沈線	Ⅲ E c	

第23表 出土土器一覽表

図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
71-10・ー	フク土	6.5	深鉢 胴部	半隆起線、矢羽根状刺突文、刻目文	Ⅲ C c	
71-11・ー	フク土	7.7	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯で区画、沈線、集合沈線	Ⅲ G c	
71-12・ー	フク土	6.7	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯で区画、沈線、ペン先状 工具刺突文	Ⅲ E c	
71-13・ー	床上	6.9	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、半隆起線、沈線	Ⅲ G c	
71-14・ー	フク土	6.5	深鉢 口縁部	刻目をもつひだ状の口唇部、隆帯、キャ タピラ文、竹管状工具刺突による波状文	Ⅳ	
71-15・ー	フク土	5.6	深鉢 口縁部	隆帯で楕円区画、2条の角押文	Ⅳ	
71-16・ー	フク土	5.1	深鉢 口縁部	口唇部に刻目、隆帯、角押文	Ⅳ	
71-17・ー	土壇	5.5	深鉢 胴部	隆帯、沈線	Ⅳ	
71-18・ー	フク土	5.6	深鉢 胴部	爪形文	Ⅳ	
71-19・ー	フク土	4.8	深鉢 胴部	隆帯で区画、爪形文	Ⅳ	
71-20・ー	フク土	9.3	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、爪形文	Ⅳ	
71-21・ー	フク土	7.5	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文、沈線、条線	Ⅳ	
71-22・ー	フク土	5.7	深鉢 胴上部	隆帯、波状沈線	Ⅳ	
35号 住居址						
図面 図版	出土位置	口径 器高 底径 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
72-1 45	炉	((12.0)) (21.9) ((6.4))	口縁部 深鉢 胴部 底部	文様は把手より垂下した刻目をもつ山字 状隆帯によって2単位に区画される。区 画内は半隆起線によって文様を描き、内 側に押引文などが施される。胴下半部は R L 縄文の横位施文。		9 b
72-2 46	フク土	((12.4)) 19.4 7.6	口縁部 深鉢 胴部 底部	耳状の把手を1個もしくは一対有す。そ の下に2単位に分け斜行隆帯と連結する 円文を描く。区画内には三叉文などが施 される。		9 b
72-3 45	床上	((33.2)) (20.1) —	口縁部 深鉢 胴部	貼付隆帯によりわらび手状の文様を描 く。隆帯上に交互刺突文・刻目文、隆帯 間に三叉文・三角押文などを施す。		9 b
72-4 45	床上	((19.6)) (17.6) —	口縁部 深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯と平行沈線による縦位区 画がなされ、区画内には三叉文・沈線・ 刻目文を施す。		9 a
72-5 45	フク土	— (17.2) —	深鉢 胴部	刻目をもつ貼付隆帯で胴上半部と下半部 を区画、胴下半部にはRの撚糸文を施 す。		

第24表 出土土器一覽表

図面 図版	出土位置	口径 器高 底径 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
72-6 46	フク土	20.8 (14.4) —	深鉢 口縁部	貼付隆帯による曲線と渦巻文を描き、一対の蛇体状突起を有す。		9 b
72-7 45	フク土	— (14.0) —	深鉢 頸部 胴部	頸部に刻目ををもつ隆帯を廻らせ、そこから矢羽状突起をもつ隆帯が垂下する。地文はR L縄文。		9 b
72-8 45	フク土	((18.8)) (8.0) —	深鉢 口縁部 頸部	頸部にめぐる細い沈線の上に交互刺突文を施す。		
72-9 46	フク土	— (29.2) (9.0))	深鉢 胴部	口縁部に2本の隆帯がめぐり、隆帯脇に交互刺突文を施す。口縁と胴部を画する部分にも2本の隆帯がめぐり。地文はR L縄文。		9 b
図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
73-1・—	フク土	5.6	把手	矢羽根状刺突文をもつ隆帯、沈線	Ⅲ C b	
73-2・—	フク土	3.3	深鉢 口縁部	半截竹管による押引文、波状沈線	Ⅲ A b	
73-3・—	フク土	3.8	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文、角押文	Ⅲ A b	
73-4・—	フク土	3.1	深鉢 胴部	刻目をもちつ隆帯、蓮華文、爪形文	Ⅲ A b	
73-5・—	フク土	3.1	深鉢 胴部	刻目をもちつ隆帯、沈線、交互刺突文、凹形刺突文	Ⅲ C b	
73-6・—	フク土	7.0	深鉢 胴部	隆帯で楕円区画、沈線、集合沈線、三角押文	Ⅲ E b	
73-7・—	フク土	6.2	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文、波状沈線	Ⅲ A b	
73-8・—	フク土	5.7	深鉢 胴部	隆帯、半截竹管による押引文、沈線	Ⅲ A b	
73-9・—	フク土	4.0	深鉢 胴部	平行沈線、沈線、爪形文	Ⅲ C b	
73-10・—	炉	9.0	深鉢 胴部	半隆起線、蓮華文、凹形刺突文、集合沈線	Ⅲ C b	
73-11・—	フク土	6.6	深鉢 口縁部	無文	Ⅲ - c	
73-12・—	フク土	5.5	深鉢 口縁部	刻目をもちつ渦巻状隆帯、沈線	Ⅲ - c	
73-13・—	床上	6.3	深鉢 口縁部	沈線、集合沈線	Ⅲ G c	
73-14・—	フク土	4.5	深鉢 口縁部	無文	Ⅲ - c	
73-15・—	フク土	5.7	深鉢 口縁部	沈線、縦位のR L縄文	Ⅲ - c	
73-16・—	フク土	4.2	深鉢 口縁部	沈線、爪形文、三叉文	Ⅲ G c	
73-17・—	フク土	3.6	深鉢 口縁部	刻目文、沈線	Ⅲ G c	
73-18・—	フク土	4.5	深鉢 胴部	沈線で渦巻文、刻目文、集合沈線、刻目・沈線文をもつ隆帯	Ⅲ G c	

第25表 出土土器一覽表

図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
73-19-1	フク土	4.7	深鉢 頸部	沈線、ヘラ状工具刺突文	Ⅲ-c	
73-20-1	フク土	4.7	深鉢 胴部	爪形文をもつ隆帯、沈線	Ⅲ-c	
73-21-1	フク土	4.4	深鉢 胴部	沈線、集合沈線	ⅢGc	
73-22-1	フク土	4.8	深鉢 胴部	沈線、交互刺突文、縦位のL撚糸文	ⅢGc	
73-23-1	フク土	8.7	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯で楕円区画、沈線、集合沈線	ⅢEc	
73-24-1	床上	8.8	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、沈線	ⅢDc	
73-25-1	フク土	7.6	深鉢 胴部	矢羽根状・交互刺突をもつ隆帯、沈線、集合沈線	ⅢGc	
74-1-1	フク土	4.3	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、沈線、半截竹管押圧文	ⅢGc	
74-2-1	フク土	3.6	深鉢 胴部	沈線、矢羽根状刺突文、交互刺突文、三叉文	ⅢCc	74-3と同一
74-3-1	フク土	4.3	深鉢 胴部	隆帯、矢羽根状刺突文、沈線	ⅢCc	74-2と同一
74-4-1	フク土	3.7	深鉢 胴部	ヘラ状工具の刺突をもつ楕円形貼付文	Ⅲ-c	
74-5-1	フク土	5.6	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、平行沈線、集合沈線	ⅢGc	
74-6-1	フク土	5.0	深鉢 胴下部	斜位のRL縄文、沈線	ⅢGc	
74-7-1	フク土	5.3	深鉢 胴部	斜位のRL縄文、矢羽根状刺突をもつ隆帯、沈線	ⅢGc	
74-8-1	フク土	4.2	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、沈線、玉抱き三叉文	ⅢDc	
74-9-1	フク土	4.3	深鉢 胴上部	棒状工具による刻目をもつ波状隆帯、沈線	Ⅲ-c	
74-10-1	フク土	5.0	深鉢 口縁部	刻目をもつ隆帯、沈線	ⅢGc	
74-11-1	フク土	5.2	深鉢 胴部	沈線、押圧状の刻目をもつ隆帯、爪形文	ⅢGc	
74-12-1	フク土	5.6	深鉢 胴部	沈線で渦巻文	ⅢGc	
74-13-1	フク土	6.1	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、沈線、半截竹管押圧文、斜位の縄文	ⅢGc	
74-14-1	フク土	7.3	深鉢 胴部	沈線、刻目文、三叉文	ⅢGc	
74-15-1	床上	6.1	深鉢 胴部	半隆起線、沈線、棒状工具押圧文	ⅢGc	
74-16-1	フク土	5.6	深鉢 胴部	刻目をもつ小突起、沈線、刻目文	ⅢGc	
74-17-1	フク土	4.7	深鉢 胴上部	刻目をもつ円形文、交互刺突文、沈線、三叉文、刻目文	ⅢHc	
74-18-1	フク土	7.2	深鉢 胴部	沈線	Ⅲ-c	
74-19-1	フク土	7.5	深鉢 胴上部	刻目をもつ小突起、刺突をもつ隆帯、沈線で渦巻文、平行沈線	ⅢHc	
74-20-1	フク土	10.5	口縁部 把手	刻目をもつ円形把手、交互刺突をもつ隆帯、沈線、爪形文	ⅢHc	
74-21-1	フク土	7.4	深鉢 胴部	円形刺突・刻目をもつ隆帯、沈線	Ⅲ-c	
74-22-1	フク土	5.2	深鉢 胴部	交互刺突をもつ隆帯、沈線、櫛状工具による刺突	ⅢGc	
74-23-1	床上	6.3	深鉢 口縁部	2条の角押文	Ⅳ	

第26表 出土土器一覽表

図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
74-24・一	フク土	5.4	深鉢 頸部	三角押文、2条の波状沈線	Ⅳ	
74-25・一	フク土	4.8	深鉢 口縁部	口唇部に沈線・竹管工具刺突文	Ⅲ-c	
74-26・一	フク土	2.8	浅鉢 口縁部	口唇部に2条の爪形文	Ⅲ c	
37号 住居址						
図面 図版	出土位置	口径 器高 底径 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
75-1 47	床上	((32.0)) (24.6) —	口縁部 深鉢 胴部	口縁部の突起より隆帯が垂下する。胴部には貼付隆帯、沈線による三叉文・交互刺突文が施される。		9 b
75-2 47	床上	((21.2)) 27.4 9.4	口縁部 深鉢 胴部 底部	地文はR縄文。胴下半部に意図的な穿孔。		
75-3 —	フク土	((41.2)) 56.2 9.8	口縁部 深鉢 胴部 底部	口縁部は貼付隆帯と沈線による楕円区画と渦巻文を施す。胴部は隆帯による2本一組の懸垂文で4単位に区画し、区画内には蛇行隆帯が垂下する。地文はR L縄文で、口縁部は横位、胴部は縦位に施文する。		10 c
75-4 47	フク土	— (23.6) 8.4	胴部 深鉢 底部	刻目をもつ隆帯による波状文を描き、波頂には渦巻文を施す。		9 b
図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
75-5・一	フク土	4.6	浅鉢 口縁部	大・小の半截竹管押引文	Ⅲ a	
75-6・一	フク土	4.2	深鉢 口縁部	刻目文をもつ口唇部、角押文	Ⅲ A a	
75-7・一	フク土	4.8	深鉢 口縁部	隆帯、三角押文、キャタピラ文、ペン先状工具刺突による波状文	Ⅲ A a	
75-8・一	フク土	6.0	深鉢 口縁部	半隆起線で区画、ヘラ状工具刺突文、三叉文、沈線	Ⅲ C b	
75-9・一	フク土	4.9	深鉢 口縁部	隆帯、半截竹管押引文、波状沈線	Ⅲ A b	
75-10・一	フク土	4.0	深鉢 口縁部	刻目をもつ口唇部、半隆起線で区画、爪形文、波状沈線	Ⅲ C b	
75-11・一	フク土	3.2	深鉢 口縁部	円形刺突文、角押文	Ⅲ A b	
75-12・一	フク土	2.7	深鉢 口縁部	縄文、円形刺突文	Ⅲ B b	
76-1・一	フク土	4.7	深鉢 胴部	隆帯、半截竹管押引文	Ⅲ A b	
76-2・一	フク土	4.9	深鉢 胴部	隆帯、三角押文、爪形文	Ⅲ A b	
76-3・一	フク土	4.0	深鉢 胴部	半隆起線で区画、爪形文、沈線	Ⅲ C b	
76-4・一	フク土	3.3	深鉢 胴部	沈線、波状沈線	Ⅲ-b	

第27表 出土土器一覧表

図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
76-5・一	フク土	3.2	深鉢 胴部	横位のRL縄文、角押文、波状沈線	Ⅲ A b	
76-6・一	フク土	4.9	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、キャタピラ文、波状沈線	Ⅲ A b	
76-7・一	フク土	4.6	深鉢 胴部	爪形文をもつ隆帯、半隆起線	Ⅲ C b	
76-8・一	フク土	4.1	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文、波状沈線	Ⅲ A b	
76-9・47	フク土	3.8	深鉢 胴部	沈線、半截竹管押圧痕	Ⅲ D b	
76-10・一	フク土	6.7	深鉢 頸部	隆帯、キャタピラ文、沈線、波状沈線	Ⅲ A b	
76-11・一	フク土	5.1	深鉢 胴部	キャタピラ文、角押文、波状沈線	Ⅲ A b	
76-12・一	フク土	5.9	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯・半隆起線で区画、集合沈線	Ⅲ C b	
76-13・47	フク土	5.0	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、半隆起線、沈線	Ⅲ D b	
76-14・一	フク土	15.3	把手	刻目をもつ隆帯、沈線、交互刺突文、三叉文、円形文	Ⅲ H c	
76-15・一	フク土	5.7	深鉢 口縁部	隆帯、沈線、紐状粘土の貼付	Ⅵ	曾利
76-16・47	フク土	2.5	深鉢 口縁部	口唇部に鎖状隆帯の貼付	Ⅲ - c	
76-17・47	フク土	3.6	深鉢 口縁部	沈線	Ⅲ F c	
76-18・一	フク土	3.3	深鉢 胴部	隆帯、沈線	Ⅲ - c	
76-19・一	フク土	7.5	深鉢 胴部	隆帯、半隆起線、刻目文	Ⅲ C c	
76-20・一	フク土	3.9	浅鉢 口縁部	刻目文、沈線	Ⅲ c	
76-21・47	フク土	6.1	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、沈線、爪形文	Ⅲ G c	
76-22・一	フク土	5.2	深鉢 胴上部	撚糸文、その上に隆帯の貼付	Ⅲ - c	
76-23・一	フク土	7.5	深鉢 胴部	半截竹管刺突文	Ⅲ G c	
76-24・一	フク土	7.1	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、沈線	Ⅲ D c	
76-25・一	フク土	5.2	深鉢 胴部	沈線	Ⅲ G c	
77-1・一	フク土	4.3	深鉢 胴部	沈線・刻目をもつ隆帯、円形刺突文、集合沈線	Ⅲ D c	
77-2・一	フク土	4.5	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯で区画、沈線、棒状工具押圧痕文	Ⅲ E c	
77-3・一	フク土	5.1	深鉢 胴部	交互刺突をもつ隆帯で区画、沈線	Ⅲ E c	
77-4・一	フク土	3.3	深鉢 胴部	半截竹管押圧痕文	Ⅲ - c	
77-5・一	フク土	7.3	深鉢 胴部	斜交叉する沈線、円形刺突文をもつ隆帯	V f	
77-6・一	フク土	5.8	深鉢 胴部	隆帯と沈線で区画、斜行沈線	V f	
77-7・一	フク土	5.2	深鉢 口縁部	隆帯、2条の連続刺突文	Ⅳ	
77-8・一	フク土	3.2	深鉢 胴部	隆帯、爪形文	Ⅳ	
77-9・一	フク土	4.0	深鉢 胴部	隆帯、押引文	Ⅳ	

第28表 出土土器一覧表

図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
77-10・一	フク土	3.0	深鉢 胴部	爪形文	Ⅳ	
77-11・一	フク土	2.8	深鉢 胴部	隆帯、沈線	Ⅳ	
53号 住居址						
図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
77-12・一	フク土	4.8	深鉢 口縁部	隆帯、竹管状工具による押引・刺突文	Ⅲ A b	
77-13・一	フク土	4.0	深鉢 胴部	矢羽根状刺突文をもつ隆帯、沈線、縄文、爪形文、蓮華文、交互刺突文	Ⅲ C b	
77-14・一	フク土	3.2	深鉢 胴部	隆帯、爪形文	Ⅲ A b	
77-15・一	フク土	4.3	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文、波状沈線	Ⅲ A b	
77-16・一	フク土	5.0	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文、沈線、縄文、波状沈線	Ⅲ A b	
77-17・一	フク土	4.4	深鉢 胴部	半隆起線、三叉文、刻目文	Ⅲ C b	
77-18・一	フク土	4.3	深鉢 胴部	半隆起線、交互刺突文、沈線	Ⅲ C b	
77-19・一	フク土	4.1	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文、三角押文	Ⅲ A b	
77-20・一	フク土	4.0	深鉢 胴部	角押文	Ⅲ A b	
77-21・一	フク土	5.2	深鉢 胴部	半隆起線、キャタピラ文、半截竹管刺突文	Ⅲ C b	
77-22・一	フク土	4.8	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、沈線、爪形文、半截竹管刺突文	Ⅲ G c	
77-23・一	フク土	5.1	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文、半截竹管刺突による波状文、波状沈線	Ⅲ A b	
77-24・一	フク土	4.5	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文、連続三角押文、刻目文	Ⅲ A b	
77-25・一	フク土	6.4	深鉢 胴部	半隆起線、沈線、集合沈線、波状沈線、キャタピラ文	Ⅲ C b	
77-26・一	フク土	6.3	深鉢 胴部	半隆起線、蓮華文	Ⅲ C b	
77-27・一	フク土	3.9	深鉢 口縁部	隆帯、沈線	Ⅲ - c	
77-28・一	フク土	4.4	深鉢 口縁部	貼付状の蛇行隆帯	Ⅲ - c	
77-29・一	フク土	3.9	深鉢 胴部	隆帯、2条の角押文、竹管状工具による押引き文	Ⅳ	
77-30・一	フク土	3.2	深鉢 胴部	平行沈線文様	V -	
40号 住居址						
図面 図版	出土位置	口径 器高 底径 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
78-1 48	フク土	((29.2)) (10.4) —	深鉢 口縁部	屈曲する隆帯に爪形文を付し、半截竹管による連続刺突文・集合沈線を施す。		8 b

第29表 出土土器一覧表

図面 図版	出土位置	口径 器高 底径 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
78-2 48	フク土	((52.0)) (8.2) —	浅鉢 口縁部	刻目をもつ隆帯で渦巻文を作出し、隙間に三叉文を施す。		8 b
78-3 48	フク土	— (21.1) ((16.0))	深鉢 胴部	貼付による蛇行隆帯が垂下する。地文はR燃糸文。		10 a
78-4 48	フク土	— (10.2) —	深鉢 胴部	2本一組の隆帯と蛇行隆帯が交互に垂下する。地文はR燃糸文。		
78-5 48	フク土	— (8.0) —	深鉢 胴部	3本一組の沈線と蛇行沈線が交互に垂下する。地文はRL縄文の縦位施文。		
図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
78-6・—	フク土	4.2	深鉢 口縁部	口唇部に集合沈線、隆帯、三角押文で渦巻文	Ⅲ A b	
78-7・—	フク土	4.7	深鉢 口縁部	沈線、三叉文	Ⅲ - b	
78-8・—	フク土	4.7	深鉢 口縁部	刻目をもつ隆帯、縦位のLR縄文	Ⅲ C b	
78-9・—	フク土	5.2	深鉢 口縁部	三叉文、沈線、爪形文	Ⅲ C b	
78-10・—	フク土	4.2	深鉢 口縁部	爪形文をもつ隆帯、沈線、竹管状工具刺突文	Ⅲ C b	
78-11・—	小穴	3.0	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文、沈線、半截竹管刺突文	Ⅲ A b	
78-12・—	フク土	3.5	深鉢 胴部	爪形文をもつ隆帯、沈線	Ⅲ E b	
78-13・—	小穴	5.1	深鉢 胴部	沈線	Ⅲ C b	
78-14・—	フク土	6.1	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、平行沈線、蓮華文	Ⅲ C b	
78-15・—	フク土	4.9	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文、波状沈線	Ⅲ A b	
78-16・—	フク土	4.8	深鉢 胴部	沈線、爪形文	Ⅲ D b	
78-17・—	フク土	6.3	深鉢 胴部	爪形文をもつ隆帯、棒状工具押圧痕文、角押文、沈線	Ⅲ A b	
78-18・—	フク土	6.5	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文、沈線	Ⅲ A b	
78-19・—	フク土	4.9	深鉢 胴部	隆帯、沈線、爪形文、交互刺突文	Ⅲ C b	
79-1・—	フク土	8.3	深鉢 口縁部	沈線、交互刺突文	Ⅲ G c	
79-2・—	フク土	6.2	深鉢 口縁部	刻目をもつ隆帯、沈線	Ⅲ - c	
79-3・—	フク土	5.9	深鉢 口縁部	沈線、Lの燃糸文	Ⅲ G c	
79-4・—	フク土	5.5	深鉢 胴部	爪形文をもつ隆帯、沈線、集合沈線	Ⅲ G c	

第30表 出土土器一覧表

図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
79-5・ー	フク土	4.3	深鉢 胴部	Rの撫糸文、刻目をもつ隆帯、沈線	Ⅲ-c	
79-6・ー	フク土	3.0	深鉢 胴部	沈線、刻目文	ⅢGc	
79-7・ー	小穴	3.9	深鉢 胴部	半隆起線、沈線、爪形文	ⅢGc	
79-8・ー	フク土	6.9	深鉢 頸部	ヘラ状工具刺突文をもつ隆帯、沈線	ⅢDc	
79-9・ー	フク土	6.5	深鉢 胴部	隆帯で楕円区画、沈線、集合沈線	ⅢEc	
79-10・ー	小穴	6.3	深鉢 胴部	矢羽根状刺突文をもつ隆帯、沈線	ⅢGc	
79-11・ー	フク土	4.7	深鉢 胴部	ヘラ状工具刺突文・太い刻目をもつ隆帯、沈線、爪形文	Ⅲ-c	
79-12・ー	フク土	6.2	深鉢 頸部	爪形文をもつ隆帯、沈線、三叉文	ⅢDc	
79-13・ー	フク土	4.6	深鉢 胴部	沈線・交互刺突文をもつ隆帯、沈線	ⅢGc	
79-14・ー	フク土	4.5	深鉢 口縁部	沈線	ⅢGc	
79-15・ー	フク土	7.7	深鉢 胴部	沈線・半截竹管の押圧刺突文をもつ隆起部、爪形文をもつ隆帯、沈線、集合沈線	ⅢGc	
79-16・ー	フク土	7.9	深鉢 胴部	沈線、Lの撫糸文	ⅢGc	
79-17・ー	フク土	6.9	深鉢 胴部	ヘラ状工具刺突文をもつ隆帯、沈線	Ⅲ-c	
79-18・ー	フク土	6.8	深鉢 口縁部	磨消しで楕円文様	V	
79-19・ー	フク土	5.5	浅鉢 口縁部	沈線	Ⅲc	
42号 住居址						
図面 図版	出土位置	口径 器高 底径 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
80-1 48	炉	((51.2)) 21.0 10.6	口縁部 浅鉢 胴部 底部	波状口縁の波頂部に径4cm程度の穴を開ける。		炉体土器
80-2 48	フク土	((26.0)) (16.4) -	口縁部 深鉢 胴部	貼付隆帯上に爪形文と交互刺突文を付し、玉抱き三叉文を施す。		9b
80-3 48	フク土	((29.4)) (15.1) -	口縁部 深鉢 頸部	口縁部は隆帯による三角区画を作成し、区画内には集合沈線・刻目文・爪形文などを施す。		8b
80-4 48	フク土	((23.6)) (33.0) (10.2)	口縁部 深鉢 胴部	口縁に1個の突起が残存し、突起から隆帯が垂下する。胴部は隆帯で区画し、区画内に集合沈線を施す。		9b

第31表 出土土器一覧表

図面 図版	出土位置	口径 器高 底径 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
80-5 48	フク土	((33.2)) 20.0 15.2	口縁部 浅鉢 胴部 底部	隆帯による楕円区画を作出し、隆帯に沿って押引文を施し、区画内に波状沈線を描く。胴部と区画する隆帯上に指頭圧痕を施す。		8 b
図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
80-6-1	フク土	3.4	深鉢 口縁部	爪形文	Ⅲ- b	
80-7-1	フク土	4.9	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文、半截竹管刺突文	Ⅲ A b	
80-8-1	フク土	5.6	深鉢 胴部	爪形文をもつ隆帯・半隆起線で区画、集合沈線	Ⅲ C b	
80-9-1	床上	4.8	深鉢 胴部	爪形文をもつ隆帯、半隆起線、沈線	Ⅲ C b	
80-10-1	フク土	5.8	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、沈線、爪形文、円形刺突文	Ⅲ C b	
80-11-1	フク土	6.1	深鉢 胴部	半隆起線で区画、集合沈線	Ⅲ C b	
80-12-1	フク土	6.5	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文、波状沈線	Ⅲ A b	
81-1-1	フク土	13.1	深鉢 口縁部	沈線、刻目をもつ隆帯で渦巻文	Ⅲ G c	
81-2-1	フク土	6.9	深鉢 口縁部	刻目をもつ隆帯、沈線、刺突文	Ⅲ G c	
81-3-1	フク土	4.1	深鉢 口縁部	交互刺突をもつ隆帯、沈線	Ⅲ G c	
81-4-1	フク土	3.6	深鉢 胴部	隆帯、縄文、ヘラ状工具刺突文	Ⅲ D c	
81-5-1	フク土	4.6	深鉢 胴部	ヘラ状工具刺突により形成された鎖状隆帯	Ⅲ G c	
81-6-1	フク土	4.7	深鉢 胴部	矢羽根状刺突をもつ隆帯、交互刺突文、沈線	Ⅲ D c	
81-7-1	フク土	6.2	深鉢 胴部	沈線で渦巻文	Ⅲ G c	
81-8-1	フク土	5.0	深鉢 胴部	矢羽根状刺突文をもつ隆帯、集合沈線	Ⅲ C c	
81-9-1	フク土	5.7	深鉢 胴部	隆帯で区画、集合沈線、横位のRL縄文	Ⅲ E c	
81-10-1	フク土	5.4	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文、波状沈線	Ⅲ A b	
81-11-1	フク土	6.4	深鉢 胴部	矢羽根状・交互刺突をもつ隆帯、爪形文をもつ隆帯、沈線	Ⅲ D c	
81-12-1	フク土	4.6	深鉢 胴部	縄文をもつ隆帯、縦位RL縄文	Ⅲ- c	
81-13-1	フク土	5.3	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、沈線	Ⅲ G c	
81-14-1	フク土	6.5	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯で区画、集合沈線	Ⅲ G c	
81-15-1	フク土	6.6	深鉢 胴部	隆帯、沈線、刻目文	Ⅲ D c	
81-16-1	フク土	5.9	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、斜位のRL縄文	Ⅲ- c	
81-17-1	フク土	8.4	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、貼付隆帯による円形文、竹管状工具押圧痕文、沈線、交互刺突文	Ⅲ G c	
81-18-1	フク土	7.0	深鉢 口縁部	沈線、集合沈線	Ⅳ	
81-19-1	フク土	5.9	深鉢 口縁部	三角押文で文様	Ⅳ	

第32表 出土土器一覧表

図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
81-20・一	フク土	7.2	浅鉢 口縁部	キョウタピラ文、波状沈線	Ⅲ b	
81-21・一	フク土	7.4	浅鉢 口縁部	隆帯による橋状把手、棒状工具押圧痕	Ⅲ c	
45号住居址						
図面 図版	出土位置	口径 器高 底径 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
82-1 49	フク土	((34.8)) (20.6) —	口縁部 深鉢 胴部	半截竹管による平行沈線でパネル文を表出する。地文はR Lの縄文で、口縁部は横位、胴部は斜位に施文する。		7 a
図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
82-2・一	フク土	4.1	深鉢 口縁部	隆帯、キョウタピラ文、三角押文、竹管状工具刺突文	Ⅲ A a	
82-3・一	小穴	5.6	深鉢 胴部	縄文、キョウタピラ文、三角押文で波状文	Ⅲ B a	
82-4・一	フク土	5.7	深鉢 胴部	隆帯、キョウタピラ文、三角押文	Ⅲ A a	
82-5・一	小穴	5.2	深鉢 胴部	隆帯、キョウタピラ文、角押文、三角押文で波状文	Ⅲ A a	
82-6・一	フク土	6.6	深鉢 胴部	2条単位の角押文	Ⅲ A a	
82-7・49	フク土	6.0	深鉢 胴部	隆帯、角押文、三角押文で波状文	Ⅲ A a	
82-8・一	小穴	5.0	深鉢 胴部	隆帯、キョウタピラ文、角押文、刺突文	Ⅲ A a	
82-9・49	フク土	4.7	深鉢 口縁部	三角押文、三角押文で波状文	Ⅲ A a	
82-10・一	フク土	4.4	深鉢 口縁部	隆帯、キョウタピラ文、三角押文	Ⅲ A b	
82-11・49	床上	2.5	深鉢 口縁部	隆帯、キョウタピラ文、三角押文	Ⅲ A b	
82-12・一	フク土	3.1	深鉢 胴部	隆帯、キョウタピラ文、三角押文	Ⅲ A b	
82-13・一	小穴	3.4	深鉢 胴部	縄文、隆帯、キョウタピラ文、三角押文で波状文	Ⅲ B b	
82-14・49	フク土	4.3	深鉢 胴部	半截竹管押引文、波状沈線	Ⅲ A b	
82-15・49	フク土	4.1	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、爪形文、波状沈線	Ⅲ A b	
82-16・一	小穴	3.7	深鉢 胴部	隆帯、半截竹管押引文(中央に沈線)、集合沈線	Ⅲ A b	
82-17・一	フク土	6.6	深鉢 胴部	沈線で文様、交互刺突文、ヘラ状工具刺突文	Ⅲ - b	
82-18・一	フク土	5.5	深鉢 胴部	隆帯、円形突起、キョウタピラ文	Ⅲ A b	
82-19・一	フク土	4.7	深鉢 胴部	隆帯、キョウタピラ文、三角押文、波状沈線	Ⅲ A b	
82-20・一	フク土	5.9	深鉢 口縁部	口唇部に刻目、隆帯で楕円区画、半截竹管刺突文	Ⅳ	
82-21・一	小穴	8.5	深鉢 胴部	隆帯、爪形文、波状沈線	Ⅳ	

第33表 出土土器一覧表

48号 住居址						
図面 図版	出土位置	口径 器高 底径 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
83-1 49	床上	((30.8)) (19.2) —	口縁部 深鉢 胴部	口縁部は無文。頸部上端は連続刺突をもつ隆帯がめぐる。隆帯により、頸部は楕円、胴部は三角形に区画し、それぞれの区画内に縦位の集合沈線を施す。		8 b
83-2 49	フク土	— (14.0) —	口縁部 深鉢 胴部	頸部上端を爪形文をもつ隆帯で区画し、その下に平行沈線による区画・交互刺突文を施す。		8 b
83-3 49	床上	((13.6)) (5.9) —	深鉢 口縁部	隆帯のS字状文・渦巻文による区画を作出し、沈線による三叉文・爪形文などを施す。		8 b
83-4 49	フク土	((14.0)) 18.2 4.6	口縁部 深鉢 胴部 底部	隆帯による区画を作出し、区画内に竹管による縦位の集合沈線を施す。		8 b
83-5 49	床上	13.2 14.2 5.4	口縁部 深鉢 胴部 底部	地文はLR縄文の斜位施文。		
83-6 49	フク土	((33.6)) (11.6) —	深鉢 口縁部	2本一組の波状沈線がめぐり、波頂下にはS字状文が垂下する。地文はRL縄文。		
83-7 49	フク土	((39.6)) (16.2) —	口縁部 浅鉢 胴部	口縁に浅い沈線をめぐらせ、胴部には縦位の条線を施す。		
図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
83-8・—	フク土	4.5	深鉢 口縁部	三角押文をもつ隆帯、2条の角押文	Ⅲ A a	
83-9・—	フク土	5.0	深鉢 口縁部	隆帯、キャタピラ文、三角押文、角押文	Ⅲ A a	
83-10・—	フク土	4.3	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文、三角押文、三角押文で波状文	Ⅲ A a	
83-11・—	フク土	4.8	深鉢 胴部	隆帯、角押文、三角押文で波状文	Ⅲ A a	
83-12・—	フク土	5.5	深鉢 胴部	沈線で斜格子	V f	
83-13・—	フク土	5.4	深鉢 口縁部	刻目をもつ隆帯、半截竹管押引文、爪形文	Ⅲ A b	
83-14・—	フク土	6.1	深鉢 口縁部	縦位のLR縄文、キャタピラ文、波状沈線	Ⅲ B b	
83-15・—	フク土	5.6	深鉢 口縁部	刻目をもつ隆帯、沈線	Ⅲ - c	
83-16・—	フク土	4.2	深鉢 口縁部	横位のLR縄文をもつ隆帯、縄文、沈線、波状沈線	Ⅲ - c	

第34表 出土土器一覧表

図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
84-1・-	床上	10.5	深鉢 口縁部	隆帯、刻目をもつ隆帯で円形文、キャタピラ文、三角押文、波状沈線	Ⅲ A b	
84-2・-	フク土	4.9	深鉢 口縁部	口唇部に刻目をもつ隆帯で突起部、半隆起線をもつ太い隆帯、蓮華文	Ⅲ C b	
84-3・-	フク土	4.5	深鉢 胴部	爪形文・竹管状工具刺突文をもつ隆帯で楕円区画、交互刺突文、爪形文、沈線	Ⅲ E b	
84-4・-	フク土	4.0	深鉢 胴部	縄文、隆帯、キャタピラ文、角押文で波状文	Ⅲ B b	
84-5・-	フク土	4.1	深鉢 胴部	隆帯で楕円区画、集合沈線	Ⅲ E b	
84-6・-	フク土	3.4	深鉢 胴部	半隆起線、交互刺突文	Ⅲ C b	
84-7・-	フク土	4.9	深鉢 胴部	半隆起線、矢羽根状刺突文、沈線、爪形文、交互刺突による波状円形文	Ⅲ C b	
84-8・-	フク土	4.7	深鉢 胴部	半隆起線、爪形文、集合沈線	Ⅲ C b	
84-9・-	フク土	4.6	深鉢 胴部	沈線、半隆起線、矢羽根状刺突文、爪形文波状沈線	Ⅲ C b	
84-10・-	フク土	3.8	深鉢 胴部	沈線、蓮華文	Ⅲ C b	
84-11・-	フク土	7.5	深鉢 胴部	隆帯、爪形文、波状沈線	Ⅲ A b	
84-12・-	床上	6.5	深鉢 胴部	三角押文、角押文で波状文、集合沈線	Ⅲ A b	
84-13・-	フク土	5.4	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文、波状沈線、沈線、集合沈線	Ⅲ A b	
84-14・-	フク土	10.6	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、半隆起線、沈線、集合沈線	Ⅲ C b	
84-15・-	フク土	9.4	深鉢 胴部	爪形文をもつ隆帯、沈線、交互刺突文、集合沈線	Ⅲ C b	
84-16・-	フク土	7.0	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文、波状沈線	Ⅲ A b	
84-17・-	フク土	9.2	深鉢 胴部	爪形文をもつ隆帯、半隆起線、刻目文、沈線、矢羽根状刺突文	Ⅲ C b	
84-18・-	フク土	9.0	深鉢 把手	隆帯、キャタピラ文、波状沈線、沈線	Ⅳ	
84-19・-	フク土	4.7	深鉢 口縁部	縄文をもつ隆帯、縄文、有節平行線文	Ⅳ	
49号 住居址						
図面 図版	出土位置	口径 器高 底径 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
85-1 50	炉	((27.2)) (27.4) -	口縁部 深鉢 胴部	刻目文をもつ隆帯によるX字状文と渦巻文の組み合わせで文様を描く。その間に三叉文・円文・蓮華文などを施す。		8 b 炉体土器
85-2 51	炉	- (22.0) -	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯で4単位に区画し、渦巻文や円文を描く。その間に縦位の沈線・三叉文を施す。		8 b 炉体土器
86-1 50	フク土	10.6 12.6 6.0	口縁部 深鉢 胴部 底部	口縁部は2本の沈線がめぐり、その上下に爪形文を描く。胴上部に爪形をもつ波状の貼付隆帯を付し、その両脇に蓮華文・爪形文を施す。胴中部はL R縄文の縦位施文。		8 b

第35表 出土土器一覧表

図面 図版	出土位置	口径 器高 底径 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
86-2 50	フク土	((20.4)) (9.8) —	口縁部 深鉢 頸部	口縁に小突起を作出。その下には連鎖状隆帯が垂下し、平行沈線・刻目文・三叉文などを施す。胴部はL R 縄文の縦位施文。		9 a
86-3 50	フク土	((17.2)) (10.0) —	口縁部 深鉢 胴部	わらび手状の貼付隆帯に爪形文を施す。胴部には押引文・爪形文が施される。		9 a
86-4 51	フク土	((29.4)) (20.0) —	口縁部 深鉢 胴部	口縁は波状を呈す。隆帯による渦巻文を横位に連結して文様を作出し、隆帯上に爪形文・刻目文を施す。		9 a
86-5 51	フク土	12.6 24.8 6.8	口縁部 深鉢 胴部 底部	地文はR 縄文の斜位施文。		
86-6 52	フク土	— (18.4) 12.0	深鉢 胴部 底部	L の燃糸を地文とし、貼付隆帯による蛇行文と直線文を垂下させる。		10 a
86-7 52	フク土	((43.6)) 15.8 ((13.8))	口縁部 浅鉢 胴部	口縁に沿って隆帯による渦巻文を施す。		
86-8 50	フク土	((47.6)) (10.2) —	口縁部 浅鉢 胴部	無文。波状口縁。		
86-9 52	フク土	((35.6)) (5.2) —	浅鉢 口縁部	口縁部は沈線による楕円区画を描き、内側に縦位の集合沈線を施す。		
図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
86-10・—	フク土	4.0	深鉢 胴部	縦・斜位の半隆起線文	Ⅱ	五領ヶ台
86-11・—	フク土	3.3	深鉢 胴部	斜位の半隆起線文	Ⅱ	五領ヶ台
86-12・—	フク土	4.6	深鉢 口縁部	三角押文	Ⅲ A a	
86-13・—	フク土	3.9	深鉢 口縁部	キャタピラ文、三角押文	Ⅲ A a	
86-14・—	フク土	5.2	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、角押文	Ⅲ A a	
86-15・—	フク土	4.2	深鉢 胴部	隆帯、三角押文、キャタピラ文	Ⅲ A a	
87-1・—	フク土	6.1	深鉢 口縁部	隆帯、キャタピラ文、波状沈線	Ⅲ A b	
87-2・—	フク土	4.4	深鉢 把手	刻目をもつ隆帯、三角押文、沈線、三叉文	Ⅲ A b	

第36表 出土土器一覧表

図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
87-3-1	フク土	2.9	深鉢 口縁部	縦位のLR縄文、キャタピラ文、波状沈線	Ⅲ B b	
87-4-1	フク土	5.2	深鉢 胴下部	沈線、刻目文、交互刺突文	Ⅲ C b	
87-5-1	フク土	5.5	深鉢 胴部	波状隆帯	Ⅲ - c	
87-6-1	フク土	5.6	深鉢 胴部	平行沈線、三角押文、半截竹管刺突文	Ⅲ A b	
87-7-1	フク土	4.5	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文、波状沈線、三角押文	Ⅲ A b	
87-8-1	フク土	6.9	深鉢 胴部	隆帯で楕円区画、キャタピラ文、半截竹管刺突文	Ⅲ E b	
87-9-1	床上	6.8	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文、角押文	Ⅲ A b	
87-10-1	フク土	5.9	深鉢 胴部	半隆起線、蓮華文	Ⅲ C b	
87-11-1	床上	6.0	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、キャタピラ文、波状沈線	Ⅲ B b	
87-12-1	フク土	6.9	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文、波状沈線	Ⅲ A b	
87-13-1	炉	5.7	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文、波状沈線	Ⅲ A b	
87-14-1	フク土	4.5	深鉢 胴部	半隆起線、集合沈線	Ⅲ C b	
87-15-1	フク土	7.0	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、沈線、爪形文、集合沈線	Ⅲ G c	
87-16-1	フク土	5.8	深鉢 胴下部	隆帯で楕円区画、キャタピラ文、波状沈線	Ⅲ A b	
87-17-1	フク土	6.3	深鉢 胴部	半隆起線で区画、矢羽根状刺突文、爪形文、交互刺突文、集合沈線	Ⅲ C b	
87-18-1	フク土	7.6	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文、三角押文	Ⅲ B b	
87-19-1	フク土	3.3	器台	斜位のRL縄文		
87-20-1	フク土	4.0	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、沈線、斜位のRL縄文	Ⅲ E c	
87-21-1	フク土	3.8	深鉢 胴部	隆帯、沈線、三叉文	Ⅲ D c	
88-1-1	フク土	5.6	深鉢 胴部	半截竹管による押引文、三角押文、沈線	Ⅲ A b	
88-2-1	フク土	4.5	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、沈線、竹管による押引文	Ⅲ A b	
88-3-1	フク土	3.6	深鉢 胴部	半隆起線、爪形文、集合沈線、沈線	Ⅲ C b	
88-4-1	小穴	5.5	深鉢 胴部	隆帯、沈線、竹管による連続押引文	Ⅲ E b	
88-5-1	フク土	6.3	深鉢 胴部	隆帯、横位のRL縄文	Ⅲ G c	
88-6-1	フク土	6.2	深鉢 胴部	横位のRL縄文、磨消し	Ⅲ - c	
88-7-1	フク土	6.3	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、沈線、集合沈線	Ⅲ E c	
88-8-1	フク土	5.6	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、半隆起線、沈線、交互刺突文	Ⅲ C b	
88-9-1	フク土	7.9	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、沈線、平行沈線、三叉文	Ⅲ D c	88-10と同一
88-10-1	フク土	7.5	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、沈線	Ⅲ D c	88-9と同一

第37表 出土土器一覧表

図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
88-11・-	フク土	6.9	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文、刻目文、三叉文	Ⅲ A b	
88-12・-	フク土	5.2	深鉢 胴部	平行沈線、三叉文、刻目文	Ⅲ G b	
88-13・-	フク土	9.1	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、沈線、三叉文、刻目文	Ⅲ G c	
88-14・-	フク土	7.6	深鉢 胴上部	刻目をもつ隆帯、沈線、集合沈線	Ⅲ E c	
88-15・-	フク土	7.4	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、沈線、刻目文	Ⅲ G c	
88-16・-	フク土	8.8	深鉢 胴上部	刻目・沈線をもつ隆帯で楕円区画、集合沈線、沈線、三叉文、刻目文、Lの撚糸文	Ⅲ E c	
88-17・-	フク土	14.9	深鉢 胴下部	半隆起線、集合沈線、縦位のLR縄文	Ⅲ G c	
88-18・-	フク土	8.7	深鉢 胴部	刻目・棒状工具押圧痕をもつ隆帯で区画、沈線、集合沈線	Ⅲ E c	
88-19・-	フク土	5.7	浅鉢 口縁部	無文	Ⅲ - c	
50号 住居址						
図面 図版	出土位置	口径 器高 底径 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
89-1 52	フク土	16.8 (10.2) -	口縁部 深鉢 胴部	波頂下に隆帯による三角形を貼付し4単位に区画、区画内には縦位の集合沈線・蓮華文などを施す。地文はRL縄文の横位施文。		9 a
89-2 52	フク土	- (9.0) -	深鉢 胴部	刻目をもつ貼付隆帯を弧状に配し、中心に玉抱き三叉文を描く。地文はR縄文の斜位施文。		9 a
89-3 52	フク土	- (15.4) -	深鉢 胴部	地文はLR縄文。		
89-4 52	フク土	- (18.1) ((10.8))	胴部 深鉢 底部	地文はLR縄文。		
図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
89-5・-	フク土	7.6	深鉢 口縁部	刻目をもつ渦巻状隆帯、キャタピラ文、波状沈線	Ⅲ B b	
89-6・-	フク土	7.1	深鉢 口縁部	刻目・交互刺突をもつ隆帯で区画、沈線、集合沈線、爪形文、竹管状工具刺突文、縄文	Ⅲ E b	
89-7・-	フク土	5.6	深鉢 口縁部	刻目をもつ隆帯、横位のRL縄文	Ⅲ - b	
89-8・-	フク土	3.2	深鉢 口縁部	隆帯、大・小の角押文、波状沈線	Ⅲ A b	
89-9・-	フク土	3.3	深鉢 口縁部	半隆起線、交互刺突、集合沈線、口唇部に沈線	Ⅲ C b	
89-10・-	フク土	4.4	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、沈線、櫛歯状工具刺突文	Ⅲ - b	

第38表 出土土器一覧表

図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
89-11-1	フク土	5.8	深鉢 胴部	隆帯、条線・矢羽根状刺突文をもつ隆帯、斜位の縄文、沈線	Ⅲ C b	
89-12-1	フク土	5.5	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、沈線で渦巻文	Ⅲ E b	
89-13-1	フク土	5.4	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、沈線、爪形文、集合沈線	Ⅲ C b	
89-14-1	フク土	4.8	深鉢 胴部	隆帯、蓮華文、刻目文、ヘラ状工具刺突による波状文	Ⅲ - b	
89-15-1	フク土	6.7	深鉢 胴部	隆帯で区画、耳状隆帯、キャタピラ文、沈線、波状沈線	Ⅲ A b	
89-16-1	フク土	8.2	深鉢 胴部	隆帯で楕円区画、集合沈線、横位のRL縄文、沈線	Ⅲ E b	
89-17-1	フク土	6.5	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、沈線、蓮華文	Ⅲ C b	
89-18-1	フク土	6.8	深鉢 胴部	半隆起線、沈線、爪形文をもつ隆帯、刻目文	Ⅲ C b	
89-19-1	フク土	7.2	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、沈線	Ⅲ D c	
89-20-1	フク土	3.5	浅鉢	大形ヘラ状工具による連続状隆帯、裏面に沈線、大・小の円形刺突文、刻目文	Ⅲ c	
51号 住居址						
図面 図版	出土位置	口径 器高 底径 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
90-1 53	フク土	19.4 (30.4) —	口縁部 深鉢 胴部	胴部は把手を含む縦位の楕円区画によって2分区画され、さらに隆帯によるX字状と斜行渦巻文の2単位に分けられる。区画内は沈線による三叉文や渦巻文が充填される。		9 a
90-2 54	フク土	20.0 (24.0) —	口縁部 深鉢 胴部	口縁部は環状把手一対を有す。胴上部は隆帯と沈線による楕円区画を施し、区画内に玉抱き三叉文・横S字状文などが描かれる。胴下半部はL縄文の斜位施文。		9 a
90-3 54	フク土	((15.4)) (19.8) —	口縁部 深鉢 胴部	文様は半隆起線で描かれ、爪形文・交互刺突文を付す。4単位構成で、区画内に斜行の半隆起線・隆帯・三叉文を施す。胴下半部はRL縄文の斜位施文。		9 a
90-4 53	炉	— (18.6) —	深鉢 胴部	蛇行の隆帯に連続刺突文と刻目文を付す。中央には円形区画を施し内側に縦位の集合沈線を描く。		9 a 炉体土器
91-1 52	床上	((24.6)) (14.4) —	口縁部 深鉢 頸部	口縁は蛇体状突起を有し、頸部は爪形文をもつ隆帯による楕円区画が施される。		9 a
91-2 52	フク土	((25.2)) (13.1) —	口縁部 深鉢 頸部	口縁部は無文。頸部は刻目をもつ隆帯による楕円区画がなされ、区画内には斜位の集合沈線を施す。		9 a

第39表 出土土器一覧表

図面 図版	出土位置	口径 器高 底径 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
91-3 52	炉	((16.0)) (10.4) —	口縁部 深鉢 胴部	胴部は刻目をもつ隆帯による三角形の区画を作出し、区画内は平行沈線・刻目文・押引文を施す。		9 a
91-4 54	フク土	((31.4)) (20.4) —	口縁部 深鉢 胴部	口縁部は隆帯と沈線によって文様を表出する。胴部は沈線に挟まれた横位の隆帯を有し、上部隆帯間には隆帯による楕円区画を施す。全ての隆帯上には半截竹管による刻目が施される。		9 a
91-5 55	フク土	((27.6)) (19.0) —	口縁部 深鉢 胴部	口縁部は刻目をもつ隆帯で渦巻文を描く。胴部は刻目をもつ隆帯で三角形の区画を表出し、区画内に集合沈線を施す。		8 b ~ 9 a
91-6 55	床上	((24.6)) (22.0) —	口縁部 深鉢 胴部	口縁は波状を呈し、縦位の平行沈線と刻目文を施す。胴部は隆帯で崩れた三角形に区画し、区画内には刻目文・三叉文が施される。胴下半部はR L 縄文の縦位施文。		8 b
91-7 55	フク土	((18.0)) (14.8) —	口縁部 深鉢 頸部	刻目の施されたミミズク状の把手を有す。		9 a
91-8 55	フク土	— (30.0) 12.0	胴部 深鉢 底部	頸部は交互刺突をもつ隆帯、胴下半部は刻目をもつ隆帯をめぐらせ、その間に渦巻状の隆帯を描く。隆帯間には竹管による押引文・三叉文・蓮華文などを施す。		9 a
91-9 55	フク土	13.0 23.6 ((7.4))	口縁部 深鉢 胴部 底部	頸部と胴上部に刻目をもつ隆帯をめぐらせ、隆帯間に楕円区画・三角区画を作出し、区画内に集合沈線・三叉文などを施す。地文はL 縄文の斜位施文。		9 a
91-10 55	床上	— (16.4) 6.8	胴部 深鉢 底部	胴部に縦位の波状沈線に挟まれた5本一組の押引文を施し、その両側に波状沈線が垂下する。胴下部には刻目文をもつ隆帯がめぐる。		9 a
92-1 55	床上	— (25.8) —	深鉢 胴部	頸部は刻目文をもつ隆帯による楕円区画内を作出し、区画内に縦位の集合沈線を施す。胴部は櫛歯状工具による縦位の条線が施される。		9 a
92-2 55	フク土	— (12.6) —	深鉢 胴上部	頸部は刻目をもつ隆帯がめぐる。胴部は沈線によるやや崩れた区画がなされ、区画内には押引文を施す。		
92-3 55	炉	— (10.0) —	深鉢 胴部	竹管による爪形文をもつ隆帯による楕円区画を表出し、区画内に縦位・斜位の集合沈線・波状沈線を施す。		
92-4 55	フク土	— (8.0) —	深鉢 胴部	頸部は矢羽状刺突をもつ貼付隆帯がめぐる。胴上部にX字状の貼付隆帯を付し、指頭圧痕を施す。		

第40表 出土土器一覧表

図面 図版	出土位置	口径 器高 底径 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
92-5 56	床上	— (21.2) —	深鉢 胴部	頸部は横位、胴部には逆V字状の貼付隆帯の両脇に半截竹管の刺突文を沿わせ、その外側に波状沈線を施す。		
92-6 56	フク土	— (19.2) —	深鉢 胴部	竹管による爪形文をもつ隆帯で楕円区画を作出。地文はR L縄文の縦位施文。		
92-7 56	フク土	— (24.0) 10.8	深鉢 胴部 底部	頸部に刻目文。胴下半部に隆帯による楕円区画を作出し、内側に斜位の集合沈線を施す。胴中央部はR縄文の斜位施文。		
92-8 56	フク土	((14.0)) (11.4) —	口縁部 深鉢 胴部	地文はR L縄文の異方向施文。		
92-9 56	フク土	((10.0)) 12.2 ((5.4))	口縁部 深鉢 胴部	地文はR L縄文の縦位施文。		
92-10 56	フク土	— (12.0) —	深鉢 胴部	地文はR L縄文の異方向施文。		
92-11 56	フク土	— (19.0) —	深鉢 胴部	地文はR縄文の斜位施文。		
92-12 56	フク土	— (20.8) ((12.0))	深鉢 胴部 底部	地文はR縄文の斜位施文。		
92-13 56	フク土	— (16.0) ((11.6))	深鉢 胴部	地文はR縄文の斜位施文。		
93-1 57	フク土	((45.6)) (17.0) —	口縁部 浅鉢 胴部	貼付隆帯による渦巻状突起を有す。隆帯で区画を表出し、その内側に刻目文を沿わせ、さらに横位の波状沈線を施す。		
93-2 57	フク土	((44.4)) (19.8) —	口縁部 浅鉢 胴部	貼付隆帯による円形・楕円形の文様を施す。		
93-3 57	フク土	((34.4)) 13.2 ((12.0))	口縁部 浅鉢 胴部	貼付隆帯による長楕円の区画を作出し、区画内に三角押文を沿わせる。		

第41表 出土土器一覧表

図面 図版	出土位置	口径 器高 底径 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
93-4 56	床上	((46.2)) (7.4) —	浅鉢 口縁部	貼付隆帯による円文を施す。		
93-5 57	フク土	49.0 (12.8) —	口縁部 浅鉢 胴部	無文。		
93-6 56	フク土	((28.8)) (13.8) —	口縁部 深鉢 胴部	口縁部は太い沈線で楕円区画を作出する。地文はLRLの縄文で、区画内は縦位、胴部は横位に施文する。		1 2 a
93-7 57	フク土	— (22.6) —	深鉢 胴部	沈線間が磨消された2本一組の懸垂文と蛇行沈線が垂下する。地文はLR縄文の横位施文。		
93-8 56	フク土	— (12.0) —	深鉢 胴部	雑な綾杉文と横位の沈線を施す。地文はR縄文。		
図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
94-1・—	フク土	4.6	深鉢 口縁部	隆帯、キャタピラ文、三角押文、指頭状圧痕	Ⅲ A a	
94-2・—	フク土	4.9	深鉢 口縁部	隆帯、円形刺突文、三角押文	Ⅲ A a	
94-3・—	フク土	4.8	深鉢 胴部	4条の三角押文	Ⅲ A a	
94-4・—	フク土	3.2	深鉢 胴部	隆帯、半截竹管押引文、山型の粘土を貼付	Ⅲ A a	
94-5・—	フク土	6.2	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、キャタピラ文、角押文	Ⅲ A a	
94-6・—	フク土	5.7	深鉢 胴部	隆帯、三角押文、キャタピラ文	Ⅲ B a	
94-7・—	フク土	5.8	深鉢 胴部	蓮華文、沈線	Ⅲ C a	
94-8・—	フク土	5.1	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文、三角押文	Ⅲ A a	
94-9・—	フク土	6.2	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、集合沈線、交互刺突文、刻目文	Ⅲ G b	
94-10・—	フク土	6.6	深鉢 胴部	半隆起線、沈線	Ⅲ C b	
94-11・—	フク土	7.1	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、沈線、竹管棒状工具による押引文	Ⅲ A b	
94-12.13・—	フク土	10.8	深鉢 把手	隆帯、沈線、刻目文、円形刺突文、交互刺突文	Ⅲ H b	
94-14・—	フク土	4.5	深鉢 口縁部	隆帯、半隆起線文、沈線	Ⅲ C b	
94-15・—	フク土	3.9	深鉢 口縁部	半隆起線文、竹管刺突文	Ⅲ C b	
94-16・—	フク土	5.3	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文、沈線、波状沈線	Ⅲ B b	
94-17・—	フク土	4.6	深鉢 胴部	沈線、刻目文、半截竹管刺突文	Ⅲ D b	

第42表 出土土器一覧表

図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
94-18-1	フク土	5.4	深鉢 胴下部	半隆起線、集合沈線、爪形文、波状沈線	Ⅲ C b	
94-19-1	フク土	5.1	深鉢 口縁部	横位のRL縄文、刻目をもつ蛇行隆帯、沈線、爪形文	Ⅲ G c	
94-20-1	フク土	5.0	深鉢 口縁部	刻目をもつ隆帯、集合沈線、矢羽根状刺突文、刻目文	Ⅲ G c	
94-21-1	フク土	4.2	深鉢 口縁部	隆帯、キャタピラ文、波状沈線	Ⅲ A b	
94-22-1	床上	6.1	深鉢 口縁部	口唇部に円形刺突をもつ突起、交互刺突・刻目をもつ隆帯	Ⅲ D c	
94-23-1	フク土	4.9	深鉢 口縁部	鐮状の隆帯、刻目文	Ⅲ - c	
94-24-1	フク土	6.4	深鉢 口縁部	沈線で渦巻文、爪形文、交互刺突文、集合沈線	Ⅲ G c	
95-1-1	フク土	9.9	深鉢 口縁部	刻目をもつ隆帯、沈線、集合沈線	Ⅲ G c	
95-2-1	フク土	7.5	深鉢 口縁部	横に刻目・上に星形文様をもつ太い隆帯、沈線、竹管刺突文、刻目文	Ⅲ H c	
95-3-1	フク土	6.3	深鉢 口縁部	口唇部に刻目をもつ隆帯・ラッパ状突起、沈線、横位のRL縄文	Ⅲ - c	
95-4-1	フク土	6.2	深鉢 口縁部	沈線、横位のRL縄文	Ⅲ - c	
95-5-1	フク土	6.0	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯で渦巻文	Ⅲ G c	
95-6-1	床上	7.0	深鉢 胴下部	刻目をもつ隆帯で楕円区画、集合沈線、刻目文、交互刺突文、斜位の縄文	Ⅲ E c	
95-7-1	フク土	8.8	深鉢 胴部	爪形文をもつ隆帯、沈線、刻目文、三叉文	Ⅲ G c	
95-8-1	フク土	5.8	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯で楕円区画、集合沈線、竹管状工具による押引文	Ⅲ E c	
95-9-1	フク土	6.3	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文、波状沈線	Ⅲ A b	
95-10-1	フク土	5.1	深鉢 胴部	沈線、刻目文	Ⅲ G c	
95-11-1	フク土	5.0	深鉢 胴下部	角押文	Ⅲ A b	
95-12-1	床上	11.5	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、沈線、集合沈線、爪形文	Ⅲ E c	96-2・96-4と同一
95-13-1	フク土	11.1	深鉢 胴部	沈線、刻目文、三叉文	Ⅲ G c	
95-14-1	フク土	10.7	深鉢 胴部	爪形文をもつ隆帯、沈線	Ⅲ G c	
95-15-1	床上	9.2	深鉢 胴部	爪形文・刻目をもつ隆帯、交互刺突によりなる蛇行隆帯、沈線	Ⅲ D c	
96-1-1	フク土	5.8	深鉢 胴部	矢羽根状刺突文をもつ隆帯、沈線、集合沈線	Ⅲ G c	
96-2-1	床上	6.5	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯で楕円区画、沈線、集合沈線	Ⅲ E c	95-12・96-4と同一
96-3-1	畑	7.7	深鉢 胴部	爪形文をもつ隆帯、沈線、集合沈線	Ⅲ G c	
96-4-1	床上	10.9	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、沈線、爪形文	Ⅲ E c	95-12・96-2と同一
96-5-1	床上	10.4	深鉢 胴部	爪形文・刻目をもつ隆帯、耳状隆帯、沈線、太い集合沈線、RL縄文	Ⅲ E c	
96-6-1	フク土	8.3	深鉢 胴・底部	矢羽根状刺突文をもつ隆帯、沈線	Ⅲ H c	
96-7-1	フク土	5.8	深鉢 口縁部	隆帯、キャタピラ文、波状沈線	Ⅳ	
96-8-1	フク土	5.5	深鉢 口縁部	竹管状工具による押引文	Ⅳ	

第43表 出土土器一覧表

図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
96-9・ー	フク土	3.6	深鉢 口縁部	隆帯、1条の角押文、裏面にも角押文	IV	
96-10・ー	フク土	3.7	深鉢 口縁部	隆帯、爪形文、沈線	IV	
96-11・ー	フク土	4.2	深鉢 口縁部	隆帯で楕円区画、2条の角押文	IV	
96-12・ー	フク土	4.6	深鉢 把手	刻目をもつ隆帯、2条の角押文	IV	
96-13・ー	フク土	5.4	深鉢 胴部	連続指頭圧痕文	IV	
96-14・ー	フク土	6.3	深鉢 胴部	隆帯、竹管状工具による2条の押し文	IV	
96-15・ー	フク土	5.5	深鉢 胴部	つまみにより形成された隆帯、指頭圧痕	IV	
96-16・ー	フク土	5.7	深鉢 胴部	連続指頭圧痕文、沈線	IV	
96-17・ー	フク土	3.1	深鉢 胴部	沈線、貝殻腹縁文	I	田戸下層式
96-18・ー	フク土	9.9	浅鉢 口縁部	隆帯	III c	
52号 住 居 址						
図面 図版	出土位置	口径 器高 底径 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
97-1 58	フク土	— (21.8) —	深鉢 胴部	胴上部に2段の押し文を施す。地文はRL縄文の横位施文。		7 b
97-2 58	フク土	((18.0)) (9.0) —	口縁部 浅鉢 胴部	コ字状の貼付隆帯を付す。		
図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
97-3・58	フク土	5.2	深鉢 口縁部	縦位のRL縄文、沈線	III-b	
97-4・ー	フク土	5.8	深鉢 胴部	半隆起線、沈線、蓮華文、波状沈線	III C b	
97-5・ー	フク土	4.0	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文	III A b	
97-6・ー	フク土	3.9	深鉢 胴部	横位のRL縄文、沈線、竹管による押し文	III-b	
97-7・ー	フク土	6.9	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文、波状沈線	III A b	
97-8・ー	フク土	6.5	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文、沈線文様	III A b	
97-9・ー	フク土	4.9	深鉢 胴部	隆帯、大・小のキャタピラ文	III A b	
97-10・ー	フク土	4.1	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、半隆起線、爪形文、半截竹管刺突文	III C b	
97-11・ー	フク土	5.6	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文、波状沈線	III A b	
97-12・58	フク土	4.5	深鉢 口縁部	矢羽根状刺突をもつ隆帯、沈線、渦巻文	III G c	

第44表 出土土器一覧表

図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
97-13-1	フク土	8.7	深鉢 口縁部	半隆起線、沈線	Ⅲ G c	
97-14-1	フク土	5.5	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、沈線、集合沈線	Ⅲ G c	
97-15-1	フク土	5.4	深鉢 胴部	沈線、交互刺突文、刻目文	Ⅲ G c	
97-16-1	フク土	5.5	深鉢 胴部	縦・横位のRL縄文、半隆起線、爪形文	Ⅲ C b	
97-17-1	フク土	5.6	深鉢 胴部	半隆起線、沈線、刻目文	Ⅲ C b	
97-18-1	フク土	8.3	深鉢 胴部	刻目・交互刺突をもつ隆帯、半隆起線、交互刺突文、爪形文	Ⅲ C b	
97-19-1	フク土	7.0	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、沈線、爪形文、半截竹管刺突文、集合沈線	Ⅲ G c	
97-20-1	フク土	5.2	深鉢 胴部	沈線文様	Ⅳ	
54号 住 居 址						
図面 図版	出土位置	口径 器高 底径 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
98-1 58	フク土	((26.0)) (8.4) —	深鉢 口縁部	口縁部に眼鏡状把手を付し、隆帯による渦巻文で文様を作出する。		大木式系 貼付文
98-2 58	フク土	— (14.2) ((8.8))	深鉢 胴部	胴部にめぐる貼付による連鎖状隆帯に沿って刻目を施し、雑な毛虫状の抽象文を表出する。		
図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
98-3-58	フク土	3.6	深鉢 胴部	縄文、キャタピラ文、波状沈線	Ⅲ A b	
98-4-58	フク土	3.8	深鉢 胴部	隆帯、熱糸文、半截竹管刺突文	Ⅲ - c	
98-5-58	フク土	4.3	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、沈線	Ⅲ G c	
98-6-1	フク土	6.2	深鉢 胴部	隆帯、沈線、爪形文、波状沈線	Ⅲ G c	
98-7-1	床上	9.5	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文、沈線	Ⅲ A b	
98-8-1	フク土	6.0	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、沈線、三叉文、爪形文	Ⅲ G c	
98-9-58	フク土	3.2	深鉢 胴部	斜位のRL縄文、押圧状の太い刻目をもつ隆帯	Ⅲ G c	
62号 住 居 址						
図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
98-10-1	フク土	6.2	深鉢 口縁部	隆帯、キャタピラ文、三角押文で波状文	Ⅲ A b	
98-11-1	フク土	4.8	深鉢 胴部	刻目・交互刺突をもつ隆帯、半隆起線	Ⅲ C b	
98-12-1	フク土	6.0	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文、波状沈線	Ⅲ A b	

第45表 出土土器一覧表

図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
98-13・一	フク土	11.4	深鉢 胴部	矢羽根状刺突をもつ隆帯、半隆起線、刻目文、交互刺突文、集合沈線	Ⅲ C b	
98-14・一	フク土	6.6	深鉢 胴上部	爪形文をもつ隆帯、沈線、集合沈線	Ⅲ E c	
98-15・一	フク土	5.3	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、沈線	Ⅲ G c	
98-16・一	フク土	5.4	深鉢 胴部	隆帯、沈線、竹管状工具による円形刺突文	Ⅲ C c	
55号 住居址						
図面 図版	出土位置	口径 器高 底径 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
99-1 58	フク土	((12.0)) 19.8 6.0	口縁部 深鉢 胴部 底部	口縁部無文。胴上部は刻目をもつ隆帯で渦巻文を描き、その間に三叉文を施す。胴部下半部はR縄文の斜位施文。		9 b
99-2 58	フク土	— (19.4) 8.0	胴部 深鉢 底部	頸部に交互刺突文をもつ貼付隆帯がめぐる。胴上部はRL縄文を縦位に施文。		9 b
99-3 58	フク土	— (10.9) —	深鉢 胴部	頸部に交互刺突と矢羽根状の交互刺突をもつ隆帯がめぐる。胴部はRL縄文の縦位施文。		9 b
99-4 58	フク土	((23.2)) (6.8) —	浅鉢 口縁部	大きく外側に張り出した隆帯と、印刻状の沈線による渦巻文を施す。		
図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
99-5・一	フク土	5.7	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文、波状沈線	Ⅲ A b	
99-6・58	フク土	5.2	深鉢 胴部	隆帯、半截竹管押引文、波状沈線	Ⅲ A b	
99-7・一	フク土	3.9	深鉢 胴部	隆帯、爪形文、波状沈線	Ⅲ A b	
99-8・58	フク土	3.4	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文、竹管状工具刺突による波状文、沈線	Ⅲ A b	
99-9・一	フク土	6.0	深鉢 口縁部	沈線、交互刺突をもつ隆帯、爪形文	Ⅲ G c	
99-10・58	フク土	7.1	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、竹管状工具押引文、縄文	Ⅲ G c	
99-11・58	フク土	6.5	深鉢 胴部	沈線、集合沈線	Ⅲ G c	
99-12・58	フク土	4.0	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、沈線、三叉文	Ⅲ G c	
99-13・一	フク土	5.6	深鉢 胴部	竹管の押圧状刺突を横にもつ隆帯、沈線、半隆起線	Ⅲ D c	
99-14・一	フク土	6.6	深鉢 胴部	斜位のRL縄文、沈線、磨消文	Ⅲ G c	
99-15・一	フク土	5.9	深鉢 胴部	棒状工具による太い沈線、三叉文	Ⅲ G c	

第46表 出土土器一覧表

33号 住居址						
図面 図版	出土位置	口径 器高 底径 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
100-1 59	床面	40.2 (49.2) —	口縁部 深鉢 胴部	口縁部は沈線による楕円区画がなされ、さらに太い沈線による渦巻文で4単位に区分する。胴部は沈線間が磨消された2本一組の懸垂文が垂下する。地文はRL縄文の縦位で、区画内は横位、胴部は縦位に施文。		12a 埋壘
100-2 59	—	35.4 (19.2) —	口縁部 深鉢 胴部	口縁部は貼付隆帯と沈線による楕円区画がなされ、胴部には大柄の渦巻文を施す。地文はRL縄文の縦位施文で、一部異方向に施文されている。		12a 埋壘 南壁に近接
100-3 59	—	— (19.0) —	深鉢 胴部	沈線間が磨消された2本一組の懸垂文が垂下する。地文はRL縄文の縦位施文。		12a 埋壘 南壁に近接
100-4 60	床面	31.8 (24.6) —	口縁部 浅鉢 胴部	頸部に幅広の沈線1条がめぐる。地文はRL縄文の縦位施文。		12a 伏壘
100-5 59	床面	— (9.7) 6.6	胴部 深鉢 底部	沈線間が磨消された2本一組の懸垂文が垂下する。地文はRL縄文の縦位施文。		12b 伏壘内出土
100-6 59	フク土	((18.6)) 27.0 6.0	口縁部 深鉢 胴部 底部	口縁部は沈線による渦巻文と楕円区画を施し、胴部は沈線による2本一組の懸垂文と蛇行沈線が交互に垂下する。地文はLR縄文の縦位施文。		12b
100-7 60	フク土	((38.8)) (27.0) —	口縁部 深鉢 胴部	口縁部は貼付隆帯と沈線による渦巻文と楕円区画を施し、胴部は沈線間が磨消された2本一組の懸垂文が垂下する。地文はLR縄文で、区画内は横位、胴部は縦位に施文。		12b
100-8 59	フク土	23.2 (21.8) —	口縁部 深鉢 胴部	口縁部は貼付隆帯と沈線による渦巻文と楕円区画を施し、胴部は沈線間が磨消された2本一組の懸垂文が垂下する。地文はRL縄文の異方向施文。		12b
101-1 60	フク土	((13.6)) 24.8 (4.4)	口縁部 深鉢 胴部 底部	口縁部は太い沈線による渦巻文と楕円区画を施し、胴部は沈線間が磨消された2本一組の懸垂文が垂下する。地文はRL縄文で、区画内は横位、胴部は縦位に施文。		12b
101-2 60	フク土	((16.8)) (16.0) —	口縁部 深鉢 胴部	口縁部は沈線による渦巻文と楕円区画を施し、楕円区画内には刻目を施す。胴部は沈線間が磨消された2本一組の懸垂文が垂下する。地文は櫛歯状工具による縦位の条線。		12b
101-3 60	フク土	((18.2)) (12.8) —	口縁部 深鉢 胴部	口縁部は沈線による渦巻文と楕円を施し、胴部は沈線間が磨消された2本一組の懸垂文と蛇行沈線が交互に垂下する。地文はLR縄文で、区画内は縦位、胴部は横位に施文。		12b

第47表 出土土器一覧表

図面 図版	出土位置	口径 器高 底径 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
101-4 60	フク土	((25.4)) (14.2) —	口縁部 深鉢 胴部	口縁部は太い沈線による渦巻文と楕円区画を施し、胴部は沈線間が磨消された幅広の2本一組の懸垂文が垂下する。地文はLR縄文を縦位、一部斜位に施文。		1 2 b
101-5 60	小穴	((22.0)) (7.6) —	口縁部 深鉢 胴部	口縁部は沈線による渦巻文と楕円区画を施し、胴部は沈線間が磨消された2本一組の懸垂文が垂下する。地文はLR縄文の縦位施文。		1 2 b
101-6 60	フク土	((20.8)) (9.4) —	深鉢 口縁部	口縁部は隆帯によるミミズク状突起を付し、沈線による楕円区画内にLR縄文を縦位に施す。		1 2 b
101-7 —	フク土	((47.0)) (29.0) —	口縁部 深鉢 胴部	口縁部は太い沈線による渦巻文と楕円区画を施し、胴部は沈線間が磨消された2本一組の懸垂文が垂下する。地文はLR縄文で、区画内は横位、胴部は縦位に施文。		1 2 b
101-8 60	フク土	((26.8)) (9.0) —	口縁部 深鉢 胴部	口縁部は沈線による楕円区画を施し、胴部は沈線間が磨消された2本一組の懸垂文が垂下する。地文はLR縄文の縦位施文。		1 2 b
101-9 60	フク土	((25.6)) (8.4) —	口縁部 深鉢 胴部	口縁部は沈線による楕円区画を施し、胴部は沈線間が磨消された2本一組の懸垂文が垂下する。地文はLR縄文の縦位施文。		1 2 b
101-10 61	フク土	((36.8)) (25.0) —	口縁部 深鉢 胴部	胴部に逆U字状と推測される沈線を施し、内側にRLの縄文を縦位に施文する。		1 2 b
101-11 61	フク土	— (14.8) —	深鉢 胴部	胴部は沈線間が磨消された2本一組の懸垂文が垂下する。地文はRL縄文の縦位施文。		1 2 b
101-12 61	フク土	— (13.2) —	深鉢 胴部	胴部は沈線間が磨消された2本一組の懸垂文が垂下する。地文はRL縄文の縦位施文。		1 2 b
101-13 61	フク土	— (14.2) 7.0	深鉢 胴部 底部	胴部は沈線間が磨消された2本一組の懸垂文が垂下する。地文はRL縄文の横位施文。		1 2 b
101-14 61	フク土	— (9.6) 7.2	深鉢 胴部 底部	沈線による懸垂文が垂下する。地文はLR縄文の縦位施文。		1 2 b
101-15 61	床上	— (15.0) 7.4	深鉢 胴部 底部	2本一組の隆帯とそれに伴う沈線による懸垂文が垂下する。地文はRL縄文の縦位施文。		1 2 b

第48表 出土土器一覧表

図面 図版	出土位置	口径 器高 底径 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
102-1 61	フク土	((18.0)) (13.6) —	口縁部 深鉢 胴部	口縁部は隆帯による渦巻文と縦位の沈線を施す。胴部は沈線間が磨消された2本一組の懸垂文が垂下し、内側に斜位の沈線が施される。		1 2 b
102-2 61	フク土	((24.0)) (16.8) —	口縁部 深鉢 胴部	隆帯による突起と凹文を付す。太い沈線を口縁部には縦位に施し、胴部には雑な綾杉文を描く。		1 2 b
102-3 61	フク土	21.6 (20.0) —	口縁部 深鉢 胴部	口縁部に1条の沈線をめぐらせ、そこから逆U字状と推測される沈線間が磨消された2本一組の懸垂文が垂下する。内側には斜位の沈線を施す。		1 2 b
102-4 62	床上	— (18.2) —	深鉢 胴部	隆帯による2本一組の懸垂文と列点を付した隆帯が垂下する。地文はLR縄文の横位施文。		1 2 b
102-5 61	フク土	((16.8)) (7.4) —	口縁部 深鉢 胴部	2本一組の平行沈線が地文として施され、横位にめぐらせた1条の沈線によって口縁部と胴部を分ける。口縁部には棒状工具による円形刺突文を2列施す。		1 2 b
102-6 —	フク土	— (13.4) 7.6	胴部 深鉢 底部	沈線間が磨消された2本一組の懸垂文が垂下し、内側に斜位の沈線が施される。		1 2 b
102-7 62	フク土	— (20.6) —	深鉢 胴部	貼付隆帯による直線と蛇行の懸垂文が交互に垂下し、内側に弧状の沈線を縦方向に連続して施す。		1 2 b
102-8 62	フク土	((26.4)) (15.2) —	口縁部 深鉢 胴部	両脇に沈線を伴う貼付隆帯が垂下し、沈線による綾杉文を施す。		1 2 b
102-9 —	フク土	((49.2)) (31.4) —	口縁部 浅鉢 胴部	口縁部は無文。頸部に2本の沈線をめぐらせて口縁部と胴部を区切る。胴部はRL縄文。		1 2 b
102-10 62	フク土	— (22.2) 8.8	胴部 浅鉢 底部	胴上部に貼付隆帯による渦巻文と区画を施し、区画内にRLの縄文を縦位に施文する。		1 2 b
図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
103-1- —	フク土	7.5	深鉢 口縁部	隆帯で区画、条線、沈線、磨消帯、斜行条線	V f	
103-2- —	フク土	6.9	深鉢 口縁部	隆帯で区画、沈線、渦巻文をもつ小突起、裏面にも渦巻文	V f	
103-3- —	フク土	6.0	深鉢 口縁部	平行沈線、Lの撚糸文、貼付隆帯	V a	

第49表 出土土器一覽表

図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
103-4-1	土坑	9.3	深鉢 口縁部	隆帯で楕円区画文・渦巻文、横位のRL縄文、沈線、棒状工具押圧痕文	V f	
103-5-1	フク土	6.7	深鉢 口縁部	隆帯で区画、Lの撚糸文、沈線、磨消帯	V f	
103-6-1	床上	8.8	深鉢 胴部	縦位のRL縄文、隆帯	V b	
103-7-1	フク土	5.6	深鉢 胴部	縦位のRL縄文、沈線、磨消帯	V f	
103-8-1	フク土	9.0	深鉢 胴部	隆帯・太い沈線で渦巻文、RL縄文、隆帯沈線、棒状工具押圧痕文	V f	
103-9-1	床上	12.9	深鉢 胴部	縦位のRL縄文、沈線、磨消帯	V f	
103-10-1	フク土	7.7	深鉢 胴部	隆帯、Lの撚糸文、沈線、磨消帯	V f	
104-1-1	フク土	9.2	深鉢 胴部	隆帯・太い沈線で渦巻文、縦位のRL縄文、隆帯、沈線、棒状工具押圧痕文	V f	
104-2-1	フク土	10.8	深鉢 胴部	隆帯で区画文、縦位のRL縄文、太い沈線	V f	
104-3-1	フク土	10.4	深鉢 胴部	隆帯で渦巻文・楕円区画文、縦位のRL縄文、沈線	V f	
104-4-1	床上	5.8	浅鉢	太い刻み目を持つ隆帯、沈線、棒状工具による押圧痕文	V f	
104-5-1	床上	8.7	深鉢 胴上部	隆帯	V f	
104-6-1	フク土	11.2	深鉢 胴部	沈線で区画文、Rの撚糸文	V f	
104-7-1	フク土	8.3	深鉢 胴部	2条の太い沈線	VIII	称名寺
104-8-1	フク土	3.4	深鉢 胴部	隆帯と太い沈線、刷毛目	VIII	称名寺
34号 住居址						
図面 図版	出土位置	口径 器高 底径 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
105-1 62	フク土	17.6 ((27.8)) (5.8))	口縁部 深鉢 胴部	口縁部は貼付による粘土紐と4つの突起からなり、沈線による渦巻文を施す。胴部は沈線間が磨消された2本一組の懸垂文が垂下し、Lの縄文が縦位に施文される。		1 2 b
105-2 62	フク土	18.0 (13.7) —	口縁部 深鉢 胴部	口縁部は隆帯による楕円区画を施し、胴部には2本一組の沈線が垂下する。地文はLR縄文の縦位施文。		1 2 b
105-3 62	床上	17.0 22.8 5.2	口縁部 深鉢 胴部 底部	口縁部は貼付隆帯と沈線で渦巻文と楕円区画を施し、胴部は沈線間が磨消された2本一組の懸垂文と蛇行沈線が交互に垂下する。地文はLR縄文で、区画内は縦位、胴部は横位に施文。		1 2 b
105-4 —	床上	((30.2)) (13.5) —	口縁部 深鉢 胴部	口縁部は貼付による突起を一対付し、口縁に沿って沈線をめぐらせ、沈線による渦巻文と楕円区画を施す。胴部は沈線間が磨消された2本一組の懸垂文が垂下する。地文はLR縄文の縦位施文。		1 2 b

第50表 出土土器一覧表

図面 図版	出土位置	口径 器高 底径 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
105-5 63	フク土	((21.0)) (11.0) —	口縁部 深鉢 胴部	沈線によるやや稚拙な渦巻文と楕円区画を施す。地文はL R縄文の斜位施文。		1 2 b
105-6 63	フク土	((38.8)) (16.5) —	口縁部 深鉢 胴部	口縁に沿って沈線を1条めぐらせ、貼付隆帯と沈線による渦巻文と楕円区画を施す。胴部は沈線間が磨消された2本一組の懸垂文と蛇行沈線が垂下する。地文はR縄文で、口縁部は異方向に、胴部には縦位に施される。		1 2 b
105-7 63	フク土	((22.0)) (9.6) —	口縁部 深鉢 胴部	口縁部は沈線による楕円区画が施され、胴部は沈線間が磨消された2本一組の懸垂文が垂下する。地文はR L縄文の縦位施文。		1 2 b
105-8 63	フク土	((37.6)) (19.0) —	口縁部 深鉢 胴部	口縁部は隆帯と沈線による渦巻文と楕円区画を施し、頸部には1条の沈線がめぐる。胴部は沈線間が磨消された2本一組の懸垂文と蛇行沈線が垂下する。地文はR L縄文の縦位施文。		1 2 b
105-9 —	フク土	((27.2)) (14.6) —	口縁部 深鉢 胴部	口縁部は沈線による楕円区画が施され、その下から逆U字状と推測される沈線が垂下する。地文はR L縄文の縦位施文。		1 2 b
105-10 63	フク土	— (9.4) —	深鉢 胴部	沈線間が磨消された2本一組の懸垂文が垂下する。地文はR L縄文の横位施文。		1 2 b
105-11 —	床面	— (20.5) 6.8	深鉢 胴部 底部	沈線間が磨消された2本一組の懸垂文が8単位垂下する。地文はR L縄文の縦位施文。		1 2 b 埋葬
105-12 63	フク土	— (10.8) 7.2	深鉢 胴部 底部	沈線間が磨消された2本一組の懸垂文が垂下する。地文はR L縄文の縦位施文。		1 2 b
106-1 63	床上	((27.2)) (25.4) —	口縁部 深鉢 胴部	口縁からつながる隆帯を垂下させ4単位区画する。区画内には蛇行沈線が垂下し、間には斜位の短沈線が施される。		1 2 b
106-2 63	床面	((20.0)) (19.6) —	口縁部 深鉢 胴部	頸部にめぐる隆帯から隆帯を垂下させ4単位に区画する。内側には斜位の沈線が施される。		1 2 b 埋葬
106-3 63	床上	— (10.3) —	深鉢 胴部	頸部にめぐる貼付隆帯から垂下する隆帯を貼付し、その接点に円形刺突文を施す。内側には斜位の沈線が施される。		1 2 b
106-4 63	フク土	((21.6)) (11.0) —	口縁部 深鉢 胴部	頸部にめぐる貼付隆帯から垂下する隆帯を貼付し、その接点に円形刺突文が施され、そこから下方に向かい同じ棒状工具による刻目を施す。口縁部と胴部の隆帯間には沈線が施されている。		1 2 b

第51表 出土土器一覧表

図面 図版	出土位置	口径 器高 底径 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
106-5 63	フク土	((17.2)) (14.3) —	口縁部 深鉢 胴部	口縁部に4つの小突起を持ち、口縁に沿って円形刺突を施す。胴部には2本一組の沈線による懸垂文と貼付によるわらび手状文が交互に配され、その間に斜行の沈線を施す。		1 2 b
106-6 65	フク土	— (9.4) —	深鉢 胴部	2本一組の沈線が垂下し、その間に沈線による綾杉文を施す。		1 2 b
106-7 65	フク土	— (13.1) —	深鉢 胴部	3本一組の沈線と2本一組の蛇行沈線が垂下し、その間に斜位の沈線を施す。		1 2 b
106-8 64	床上	28.0 (27.2) —	口縁部 深鉢 胴部	頸部にめぐる貼付隆帯から4本の垂下する隆帯を貼付し、その接点に円形刺突文を施す。隆帯間に貼付によるわらび手状文を配し、その間と口縁部には斜行沈線が施される。		1 2 b
106-9 65	フク土	((30.6)) (14.6) —	口縁部 深鉢 胴部	口縁部は棒状工具による縦方向の沈線を施す。頸部は貼付による蛇行隆帯がめぐり、そこから貼付の蛇行隆帯が垂下する。胴部には地文として斜行沈線が施されている。		1 2 b
107-1 65	小穴	((39.6)) 32.7 7.2	口縁部 浅鉢 胴部 底部	胴上半部に隆帯と沈線による渦巻文と楕円区画を施し、区画内にR Lの縄文を縦位に施文する。		1 2 b
107-2 65	フク土	((28.4)) (18.8) —	口縁部 浅鉢 胴部	胴上半部に隆帯と沈線による渦巻文と楕円区画を施し、区画内にL Rの縄文を縦位に施文する。		1 2 b
107-3 —	フク土	((38.6)) (9.7) —	口縁部 浅鉢 頸部	無文。		1 2 b
107-4 65	フク土	— (22.2) —	浅鉢 頸部 胴部	胴上半部に隆帯と沈線による渦巻文と楕円区画を施し、区画内にL Rの縄文を縦位に施文する。		1 2 b
107-5 —	フク土	((39.2)) (15.8) —	口縁部 浅鉢 胴部	無文。		1 2 b
107-6 65	フク土	((17.2)) (25.4) —	口縁部 浅鉢 胴部	無文。口縁部に穿孔あり。		1 2 b
107-7 65	炉	— (10.0) —	深鉢 胴部	押し引きによる刻目を持つ隆帯で楕円と三角の区画を作出し、楕円区画内に縦位の集合沈線を施す。		8 b 炉体土器

第52表 出土土器一覽表

図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
108-1・65	フク土	9.0	深鉢 口縁部	口唇部に沈線、隆帯で区画文、R L 縄文、沈線、棒状工具刺突文	V f	
108-2・65	フク土	10.3	深鉢 口縁部	隆帯で楕円区画文、集合沈線、太い沈線	V f	
108-3・64	フク土	13.3	深鉢 口縁部	隆帯で区画文、縦位のR L 縄文、沈線、磨消帯	V f	
108-4・64	フク土	7.9	深鉢 口縁部	隆帯で楕円区画文、横位のR L 縄文、沈線	V f	
108-5・-	フク土	8.3	深鉢 口縁部	隆帯で区画文、縦位のR L 縄文、沈線	V f	
108-6・-	フク土	5.7	深鉢 胴部	貼付隆帯、沈線、棒状工具刺突文	V f	
108-7・-	フク土	5.3	深鉢 胴部	隆帯、沈線、棒状工具刺突文	V f	
108-8・-	小穴	6.7	深鉢 胴部	縄文、隆帯・沈線で渦巻文	V f	
108-9・-	フク土	19.2	深鉢 胴部	縦位のL R 縄文、沈線、磨消帯	V f	
108-10・64	フク土	11.6	深鉢 胴部	隆帯で区画文、刷毛状工具による綾杉文、沈線、棒状工具刺突文	V f	
108-11・-	フク土	3.6	深鉢 口縁部	無文	V f	
109-1・-	フク土	12.2	深鉢 胴部	綾杉文、沈線、磨消帯	V f	
109-2・-	フク土	11.4	深鉢 胴部	Rの縄文、沈線、逆U字文、渦巻文、磨消帯	V f	
109-3・-	フク土	9.3	深鉢 胴部	沈線、磨消帯	V f	
109-4・-	フク土	5.4	深鉢 胴部	Lの撚糸文、沈線、磨消帯	V f	
109-5・-	床上	9.6	深鉢 口縁部	隆帯、沈線、横位のR L R 縄文	V f	109-7と同一
109-6・64	フク土	15.8	深鉢 胴部	横位のR L 縄文、沈線、磨消帯	V f	
109-7・-	床上	11.9	深鉢 胴部	隆帯、沈線、R L R 縄文	V f	109-5と同一
109-8・64	フク土	6.5	深鉢 口縁部	隆帯・沈線で区画、縦・横・斜行条線	IV C c	
109-9・-	フク土	4.8	深鉢 口縁部	沈線、刻目文、斜行条線、口唇部に刻目文	IV B c	
109-10・-	フク土	5.0	深鉢 口縁部	斜行条線、裏側に刻目文	IV B c	
109-11・-	フク土	3.2	深鉢 口縁部	条線、裏側に条線	IV B c	
109-12・-	フク土	2.6	深鉢 口縁部	斜行条線、口唇部に斜行条線	IV B c	
36号 住居址						
図面 図版	出土位置	口径 器高 底径 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
110-1 66	フク土	- (37.4) -	深鉢 頸部 胴部	文様は5単位構成で、頸部に橋状把手を貼付し、胴部には沈線による渦巻文と蛇行の懸垂文を描く。地文はR撚糸文の縦位施文。	VI	1 2 a ~ b

第53表 出土土器一覧表

図面 図版	出土位置	口径 器高 底径 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
110-2 66	フク土	((20.0)) 28.6 7.6	口縁部 深鉢 胴部 底部	口縁部は渦巻状把手を4箇所を付し、沈線による楕円を施す。胴部は沈線間が磨消された2本一組の懸垂文が垂下し、8単位に区画される。地文は櫛歯状工具による条線。		12a~b
110-3 66	炉	((20.0)) 32.4 6.4	口縁部 深鉢 胴部 底部	口縁部は貼付隆帯と沈線による渦巻文と楕円区画を施す。胴部は沈線間が磨消された2本一組の懸垂文が垂下し、渦巻文が1箇所描かれる。地文はRL縄文の異方向施文。		12a~b
110-4 66	フク土	((21.2)) (15.9) -	口縁部 深鉢 胴部	口縁部は貼付隆帯と沈線による円形・楕円形の区画が施され、胴部には逆U字状の沈線が垂下する。地文はLR縄文の縦位施文。		12a~b
110-5 66	フク土	((30.0)) (22.3) -	口縁部 深鉢 胴部	口縁部は貼付隆帯と沈線による渦巻文で区画を作出し、区画内に斜位の沈線を施す。頸部は1条の隆帯をめぐらせる。胴部は沈線間が磨消された2本一組の懸垂文が垂下し、その間に綾杉文が施される。		12a~b
110-6 66	フク土	((34.8)) (30.5) -	口縁部 深鉢 胴部	口縁部は隆帯と沈線による渦巻文と楕円区画を作出し、区画内に縦位の沈線を施す。胴部は沈線間が磨消された2本一組の懸垂文が垂下し、その間に綾杉文が施される。		12a~b
111-1 67	フク土	((45.2)) (18.8) -	口縁部 浅鉢 頸部	胴上半部に隆帯と沈線による渦巻文と楕円区画を施し、区画内にRLの縄文を縦位に施文する。		12a~b
111-2 67	フク土	((30.4)) (13.9) -	口縁部 浅鉢 頸部	胴上半部に隆帯と沈線による渦巻文と楕円区画を施し、区画内にLRの縄文を斜位に施文する。		12a~b
111-3 67	炉	((36.8)) (18.2) -	口縁部 深鉢 胴部	口縁部は刻目を持つ貼付隆帯により4単位に区画し、区画内には2本一組の隆帯で十字文が描かれる。地文はR捻糸文。		9c 炉体土器
111-4 66	フク土	((25.4)) (12.6) -	口縁部 深鉢 胴部	口縁部は隆帯と沈線による渦巻文と楕円区画が施され、胴部は沈線間が磨消された3本一組の懸垂文が垂下する。地文はRLR縄文の縦位施文。		12a~b
111-5 67	フク土	20.6 16.5 6.4	口縁部 浅鉢 胴部 底部	口縁部に沿ってヘラ状工具による沈線が2条めぐる。地文はLR縄文の斜位施文。		12a~b
111-6 67	フク土	((13.6)) 20.2 5.2	口縁部 壺 胴部 底部	口縁部は無文。頸部に隆帯をめぐらせ上下に竹管状工具による沈線を施し、一對の把手を付す。胴部は沈線間が磨消された2本一組の懸垂文が垂下する。地文はLR縄文の縦位施文。		12a~b
111-7 68	フク土	- (10.4) 5.6	胴部 深鉢 底部	線間が磨消された2本一組の懸垂文が垂下し、その間に雑な集合沈線が斜位に施される。		

第54表 出土土器一覽表

図面 図版	出土位置	口径 器高 底径 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
111-8 67	炉	18.8 (13.0) —	口縁部 深鉢 胴部	口縁部は貼付隆帯による4箇所の突起を付し、渦巻文と楕円区画を施す。胴部は内側が磨消された逆U字状の沈線が垂下する。地文はRL縄文で、区画内は横位、胴部は縦位に施文。		12 a
111-9 67	フク土	((47.2)) (15.0) —	口縁部 深鉢 頸部	口縁部は無文。頸部は貼付隆帯に連続する刻目と小円孔を施す。		9 a
112-1 67	炉	((24.0)) (15.6) —	口縁部 深鉢 胴部	口縁部は貼付隆帯と沈線による渦巻文と楕円区画を施す。胴部は沈線間が磨消された2本一組の懸垂文が垂下する。地文はRL縄文の横位施文。		12 a
112-2 68	フク土	((40.8)) (15.0) —	口縁部 深鉢 胴部	口縁部は貼付隆帯と太い沈線による渦巻文と楕円区画を作出し、胴部は沈線間が磨消された2本一組の懸垂文が垂下する。地文はLR縄文で、区画内は縦位、胴部は横位に施文。		12 a ~ b
112-3 68	フク土	((21.2)) (10.6) —	口縁部 深鉢 胴部	口縁部に沿って細い沈線を2条めぐらせ、その下に2条の沈線による連弧文を描く。地文はやや間の開いた櫛歯状工具による縦位の条線。		12 a ~ b
112-4 68	フク土	((26.0)) (7.6) —	口縁部 深鉢 胴部	口縁部下方に沈線を1条めぐらせ、その下に細い櫛歯状工具による縦位の条線を施す。		12 a ~ b
図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
112-5・—	フク土	5.2	深鉢 口縁部	隆帯と太い沈線で渦巻文	V f	
112-6・—	フク土	4.4	深鉢 口縁部	隆帯、太い沈線、縄文	V f	
112-7・—	フク土	6.2	深鉢 口縁部	条線、沈線、磨消帯	V f	
112-8・—	フク土	6.1	深鉢 口縁部	隆帯で渦巻文・区画文、条線、沈線	V f	
112-9・—	フク土	7.2	深鉢 口縁部	縦位のLR縄文、沈線、弧線文	V e	
112-10・—	フク土	5.7	深鉢 口縁部	隆帯で楕円区画、斜位のRL縄文、沈線、棒状工具刺突文	V f	
112-11・—	フク土	4.9	深鉢 口縁部	隆帯と太い沈線で渦巻文、縦位のLR縄文	V f	
112-12・—	フク土	11.3	深鉢 口縁部	隆帯で渦巻文・区画文、沈線、磨消帯	V f	
112-13・—	フク土	4.6	深鉢 胴部	隆帯、沈線、櫛歯状文	V f	
112-14・—	フク土	5.8	深鉢 胴部	沈線、磨消帯、集合沈線	V f	
112-15・—	フク土	4.9	深鉢 胴部	縦位のLR縄文、沈線、磨消帯	V f	
112-16・—	フク土	5.1	深鉢 胴部	縦位のRL縄文、沈線、磨消帯、蛇行沈線	V f	
112-17・—	フク土	5.4	深鉢 胴部	隆帯で区画文、縄文、沈線	V f	

第55表 出土土器一覧表

図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
112-18・ー	フク土	5.8	深鉢 胴部	Lの撚糸文、沈線で文様	V d~f	
112-19・ー	フク土	10.2	深鉢 胴部	縦位のRL縄文、沈線、磨消帯	V f	
112-20・ー	フク土	8.7	深鉢 胴上部	隆帯で渦巻文、沈線、条線、刻目文	V f	
112-21・ー	フク土	9.5	深鉢 胴部	縦位のLR縄文、沈線、磨消帯	V f	
113-1・ー	フク土	6.9	深鉢 胴部	縄文、沈線、磨消帯、渦巻文	V f	
113-2・ー	フク土	6.4	深鉢 胴部	斜行条線、隆帯、沈線	V f	
113-3・ー	フク土	7.1	深鉢 胴部	太い隆帯、沈線、条線	V f	
113-4・ー	フク土	7.8	深鉢 胴部	条線、沈線、無文帯	V f	
113-5・ー	フク土	6.1	深鉢 胴部	縦位のRL縄文、沈線、磨消帯	V f	
113-6・ー	フク土	6.0	深鉢 胴部	櫛歯状文	V f	
113-7・ー	フク土	7.0	深鉢 胴部	沈線で区画文、条線	V f	
113-8・ー	フク土	8.5	深鉢 胴部	縦位のRLR縄文、沈線、磨消帯	V f	
113-9・ー	フク土	9.2	深鉢 胴部	沈線、磨消帯、縦位のRLR縄文、太い沈線で文様	V f	
113-10・ー	フク土	7.3	深鉢 口縁部	条線、沈線、磨消帯	V h	
113-11・ー	フク土	6.6	深鉢 口縁部	条線	V h	
113-12・ー	フク土	11.2	深鉢 口縁部	条線、棒状工具による刺突文	IVB c	
113-13・ー	フク土	9.1	深鉢 胴部	条線、沈線	V f	
113-14・ー	フク土	5.2	深鉢 胴部	沈線、斜行沈線	IVB c	
113-15・ー	フク土	5.4	深鉢 胴部	条線、沈線	IVB c	
113-16・ー	フク土	8.0	深鉢 胴部	沈線、綾杉文	IVC c	
113-17・ー	床上	5.7	深鉢 把手	隆帯、沈線、刻目	IIIH c	
113-18・ー	フク土	3.0	深鉢 胴部	条線	V h	
38号 住居址						
図面 図版	出土位置	口径 器高 底径 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
114-1 ー	炉	ー (13.2) ー	深鉢 胴部	隆帯を交差させ文様を描く。地文はLの撚糸文。		10 a
114-2 68	フク土	((20.0)) (25.4) ー	口縁部 深鉢 胴部	口縁部は有孔の渦巻状把手を付し、刺突文を含む楕円区画で2単位区画。胴部は頸部の無文帯と横位の隆帯で分けられ、縦位の隆帯で2単位に区画される。内側には隆帯による渦巻文を施す。地文はRL縄文の縦位施文。		10 c

第56表 出土土器一覧表

図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
114-3-1	フク土	7.3	深鉢 口縁部	刻目をもつ隆帯、沈線、刻目文	Ⅲ-c	
114-4-1	フク土	5.1	深鉢 口縁部	隆帯、撚糸文、沈線	V a	10 a ~ b
114-5-1	フク土	6.9	深鉢 口縁部	Lの撚糸文、隆帯、沈線	V a	10 a ~ b
114-6-68	フク土	5.9	深鉢 口縁部	Lの撚糸文、隆帯・沈線で渦巻文	V b	10 a
114-7-68	フク土	4.3	深鉢 口縁部	Lの撚糸文、隆帯、沈線	V b	10 a
39号 住居址						
図面 図版	出土位置	口径 器高 底径 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
114-8 68	フク土	— (9.4) —	深鉢 胴部	細い隆帯を網状に貼付する。上部には棒状工具による刺突を持つ隆帯がめぐる。		10 a
図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
114-9-1	フク土	5.1	深鉢 胴部	半隆起線、沈線、爪形文、竹管状工具刺突文、波状沈線	Ⅲ C b	
114-10-1	フク土	4.9	深鉢 口縁部	Lの撚糸文、棒状工具押圧痕をもつ隆帯		10 a
114-11-1	フク土	6.2	深鉢 頸部	Lの撚糸文、爪形文をもつ隆帯	Ⅲ-c	
114-12-1	フク土	5.5	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、集合沈線	Ⅲ E c	
114-13-1	床上	5.5	深鉢 胴部	隆帯、集合沈線	Ⅲ G c	
114-14-1	フク土	8.7	深鉢 胴部	爪形文をもつ隆帯、沈線、集合沈線	Ⅲ	
114-15-1	フク土	9.9	深鉢 胴部	沈線、Lの撚糸文		10 a
114-16-1	フク土	4.8	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、沈線、集合沈線	Ⅲ E c	
57号 住居址						
図面 図版	出土位置	口径 器高 底径 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
115-1 68	フク土	21.2 (16.6) —	口縁部 深鉢 胴部	粘土紐を水平方向に2本、その間には波状に貼付して区画する。波頂には小突起を付し、沈線による渦巻文を描く。地文はLR縄文。		10 b
115-2 68	フク土	((27.2)) (8.2) —	深鉢 口縁部	貼付隆帯による渦巻文と楕円区画を作出し、渦巻文の下には縦位の隆帯を付す。区画内にはLの撚糸文を施文。		10 b
115-3 69	フク土	((26.2)) (22.2) —	口縁部 深鉢 胴部	口縁部は貼付隆帯と沈線による渦巻文と楕円区画を施す。胴部は頸部の無文帯と横位の沈線で分けられ、弧状の沈線がめぐる。地文はLR縄文で、区画内は縦位、胴部は横位に施文する。		11 a

第57表 出土土器一覽表

図面 図版	出土位置	口径 器高 底径 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
115-4 69	フク土	((32.0)) (25.0) —	口縁部 深鉢 胴部	口縁は貼付隆帯と沈線による渦巻文で区画。頸部にめぐる2条の沈線から2本一組の沈線と蛇行沈線が垂下する。地文はRL縄文で、区画内は横位、胴部は縦位に施文。		11a
115-5 68	フク土	((27.6)) (15.8) —	口縁部 深鉢 胴部	口縁部は貼付隆帯による波状の文様を描く。胴部は垂下する隆帯と、LRの縄文が横位に施される。		10c
115-6 69	フク土	— (9.8) —	深鉢 頸部	沈線による渦巻文・蛇行文を施す。地文はLR縄文の横位施文。		10c
115-7 69	フク土	((24.8)) (17.1) —	口縁部 深鉢 胴部	貼付隆帯による横S字状の崩れた渦巻文を描く。地文はLR縄文の縦位施文。		10c
115-8 69	フク土	— (24.0) 17.2	胴部 深鉢 底部	隆帯による2本一組の懸垂文と蛇行隆帯が垂下する。地文はLの撚糸文。		10b
115-9 69	フク土	— (18.2) ((9.2))	胴部 深鉢 底部	頸部に1条の隆帯をめぐらせ、そこから垂下する隆帯を付す。地文はLR縄文の横位施文。		10c
115-10 69	フク土	— (7.9) —	浅鉢	隆帯で渦巻文と区画を描き、隆帯上に刻目を施す。		
図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
116-1-1	床上	4.1	深鉢 口縁部	隆帯、沈線、渦巻文	V b	
116-2-1	フク土	4.7	深鉢 口縁部	Lの撚糸文、隆帯で渦巻文	V b	
116-3-1	フク土	6.0	深鉢 口縁部	縄文、隆帯で渦巻文	V b	
116-4-1	フク土	6.2	深鉢 口縁部	縄文、隆帯、沈線	V b	
116-5-1	フク土	5.6	深鉢 口縁部	隆帯、沈線、集合沈線、口唇部に渦巻文	V b	
116-6-1	フク土	4.4	深鉢 口縁部	隆帯、Lの撚糸文、沈線	V b	
116-7-1	フク土	3.3	深鉢 口縁部	隆帯、沈線、集合沈線	V b	
116-8-1	フク土	6.7	深鉢 胴部	Lの撚糸文、隆帯、沈線	V b	
116-9-1	フク土	4.9	深鉢 胴部	縄文、隆帯、沈線	V b	
116-10-1	フク土	3.7	深鉢 胴部	縦位のRL縄文、隆帯	V b	
116-11-1	床上	5.9	深鉢 胴部	Lの撚糸文、隆帯	V b	

第58表 出土土器一覧表

図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
116-12・一	フク土	6.8	深鉢 頸部	隆帯、沈線、集合沈線	V b	
116-13・一	フク土	4.1	深鉢 胴下部	条線、隆帯	V b	
116-14・一	フク土	6.2	深鉢 胴部	Lの撚糸文、隆帯、沈線	V b	
116-15・一	フク土	8.7	深鉢 胴部	Lの撚糸文、隆帯	V b	
116-16・一	フク土	6.9	深鉢 口縁部	沈線による渦巻文、隆帯	IV B a	
116-17・69	フク土	4.0	深鉢 胴部	竹管状工具刺突文、棒状工具刺突文をもつ凹形隆帯	IV B a	
116-18・69	フク土	8.4	深鉢 胴部	隆帯、波状隆帯、集合沈線	IV B a	
116-19・一	フク土	5.7	深鉢 胴部	斜行沈線、貼付粘土紐	IV B a	
116-20・一	フク土	6.8	深鉢 胴部	条線、刻目をもつ隆帯	IV B c	
41・60号 住居址						
図面 図版	出土位置	口径 器高 底径 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
117-1 70	床面	((31.4)) (21.4) —	口縁部 浅鉢 胴部	隆帯による渦巻文で2単位に区画。各単位の中央にさらに小型の突起状の渦巻文を施し、区画内に縦位の沈線を施文する。		11 a 埋甕
117-2 70	フク土	((29.4)) (24.4) —	口縁部 深鉢 胴部	口縁部は貼付隆帯による渦巻文と楕円区画を施す。胴部は2本一組の隆帯と蛇行隆帯が垂下する。地文はLの撚糸文。		10 b
117-3 70	フク土	((30.2)) (37.6) —	口縁部 深鉢 胴部	口縁部は貼付隆帯による渦巻文と楕円区画を施す。胴部は2本一組の隆帯と蛇行隆帯が垂下する。地文はRL縄文の縦位施文。		11 a
117-4 70	フク土	((31.4)) (39.0) —	口縁部 深鉢 胴部	口縁部は貼付隆帯による渦巻文と区画を施す。頸部は無文で、下端に浅い沈線がめぐる。地文はLの撚糸文。		10 c
117-5 70	フク土	((25.6)) (13.0) —	口縁部 深鉢 頸部	口縁部は隆帯と沈線による渦巻文と区画を施す。頸部は無文で、下端に3本の平行沈線がめぐる。地文はRL縄文の縦位施文。		10 b
117-6 70	フク土	((46.4)) (21.6) —	口縁部 深鉢 胴部	口縁部は貼付隆帯と沈線による渦巻文と区画を施す。頸部は無文。胴部は3本一組の平行沈線で渦巻文などを描く。地文はRL縄文。		11 a
118-1 71	フク土	((17.6)) 22.3 4.8	口縁部 深鉢 胴部 底部	口縁部は隆帯と沈線による渦巻文と楕円区画を施し、胴部は沈線間が磨消された2本一組の懸垂文と蛇行沈線が垂下する。地文はRLR縄文の縦位施文。		

第59表 出土土器一覽表

図面 図版	出土位置	口径 器高 底径 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
118-2 71	フク土	((23.6)) (14.0) —	口縁部 深鉢 頸部	口縁部は沈線による渦巻文と楕円区画を施す。地文はR L縄文。		1 2 b
118-3 71	フク土	— (11.2) —	深鉢 胴部	3本一組の沈線が垂下する。地文はR L縄文の横位施文。		1 2 b
118-4 71	フク土	— (7.4) 6.8	胴部 深鉢 底部	櫛歯状工具による粗い条線を施す。		
118-5 —	フク土	34.8 (10.0) —	口縁部 頸部	頸部に2本の隆帯がめぐる。		
118-6 71	フク土	((10.0)) ((16.2)) 6.0	口縁部 深鉢 胴部 底部	無文		
図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
118-7・—	フク土	5.8	深鉢 胴部	隆帯、半截竹管 波状沈線	Ⅲ A b	
118-8・—	フク土	3.5	深鉢 胴下部	半隆起線、刻目文、爪形文	Ⅲ C b	
118-9・—	フク土	5.2	深鉢 胴部	隆帯、角押文、波状沈線	Ⅲ A b	
118-10・—	フク土	6.2	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文、縄文、波状沈線	Ⅲ A b	
118-11・—	フク土	6.7	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文、三角押文で波状文	Ⅲ A b	
118-12・—	フク土	6.2	深鉢 胴部	隆帯、刻目をもつ隆帯、キャタピラ文、三角押文	Ⅲ A b	
118-13・—	フク土	5.4	深鉢 胴部	棒状工具押圧痕をもつ隆帯、半截竹管押引文、波状沈線、沈線	Ⅲ A b	
118-14・—	フク土	2.5	深鉢 胴部	半隆起線、爪形文、波状沈線	Ⅲ C b	
118-15・—	フク土	3.4	深鉢 口縁部	半隆起線、爪形文	Ⅲ C b	
118-16・—	フク土	3.3	深鉢 口縁部	刻目をもつ隆帯、沈線、錐状工具刺突文、爪形文	Ⅲ G c	
118-17・—	小穴	4.0	深鉢 口縁部	隆帯、沈線、竹管状工具刺突文	Ⅲ G c	
118-18・—	フク土	4.9	深鉢 口縁部	有節平行線文、条線、沈線	Ⅲ - c	
118-19・—	フク土	6.7	深鉢 口縁部	刻目をもつ隆帯、沈線、刻目文	Ⅲ G c	
118-20・—	フク土	3.4	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、沈線、集合沈線	Ⅲ G c	
118-21・—	フク土	4.1	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、沈線、爪形文	Ⅲ G c	
118-22・—	フク土	4.6	深鉢 胴部	沈線、棒状工具押圧痕	Ⅲ G c	

第60表 出土土器一覧表

図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種別・部位	文 様 構 成	分類	備考
118-23・一	フク土	3.0	深鉢 胴部	沈線、棒状工具押圧痕	Ⅲ G c	
118-24・一	フク土	3.5	深鉢 胴部	半隆起線、横位のR L縄文、刻目文	Ⅲ - c	
118-25・一	フク土	3.5	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、縦位のR L縄文、沈線	Ⅲ - c	
118-26・一	フク土	3.1	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、キヤタピラ文、縄文	Ⅲ A b	
119-1・一	フク土	8.3	深鉢 胴部	隆帯、沈線で渦巻文	Ⅲ G c	
119-2・一	か	7.4	深鉢 胴部	棒状工具刺突をもつ円形隆帯、隆帯、沈線、竹管状工具刺突文	Ⅲ G c	
119-3・一	フク土	5.8	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、集合沈線、刻目文	Ⅲ G c	
119-4・一	フク土	4.2	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、縦位のR L縄文	Ⅲ - c	
119-5・一	炉	4.5	深鉢 胴部	沈線、爪形文	Ⅲ - c	
119-6・一	フク土	5.3	深鉢 胴部	矢羽根状刺突・刻目をもつ隆帯	Ⅲ D c	
119-7・一	フク土	6.4	深鉢 胴部	矢羽根状刺突をもつ隆帯、沈線	Ⅲ G c	
119-8・一	フク土	4.5	深鉢 胴部	半隆起線、沈線、交互刺突文、刻目文	Ⅲ C b	
119-9・一	フク土	8.5	深鉢 胴部	へら状工具刺突をもつ隆帯、沈線、集合沈線、棒状工具押圧痕	Ⅲ G c	
119-10・一	フク土	7.7	深鉢 胴部	爪形文をもつ隆帯、沈線、集合沈線	Ⅲ G c	
119-11・一	フク土	8.2	浅鉢 口縁部	沈線、刻目文	Ⅲ c	
119-12・一	フク土	9.9	深鉢 胴部	Lの撚糸文、隆帯	V a	
119-13・一	フク土	7.5	深鉢 胴部	Lの撚糸文、沈線、波状平行沈線	V a	
119-14・一	フク土	3.3	深鉢 口縁部	縄文、半隆起線で区画	V b	
119-15・一	フク土	5.1	深鉢 口縁部	Lの撚糸文、隆帯・沈線で区画	V b	
119-16・一	フク土	4.4	深鉢 口縁部	Lの撚糸文、隆帯・沈線で区画・渦巻文	V b	
119-17・一	フク土	4.2	深鉢 口縁部	縦位のR L縄文、隆帯で区画	V b	
119-18・一	フク土	12.4	深鉢 口縁部	隆帯で楕円区画・渦巻文、横位のR L縄文、沈線	V b	
119-19・一	フク土	7.0	深鉢 口縁部	縦位のR L縄文、沈線	V b	
120-1・一	フク土	6.3	深鉢 胴部	斜位のR L縄文、沈線	V b	
120-2・一	フク土	5.0	深鉢 胴部	Lの撚糸文、隆帯、沈線	V b	
120-3・一	フク土	5.6	深鉢 胴部	隆帯で区画、縦位のR L縄文、沈線	V b	
120-4・一	小穴	5.0	深鉢 口縁部	縦位のL R縄文、隆帯・沈線で渦巻文	V c	
120-5・一	フク土	5.3	深鉢 口縁部	隆帯、沈線	V c	
119-6・一	フク土	6.6	深鉢 胴部	縦位のR L縄文、沈線	V c	120-7と同一
120-7・一	フク土	12.2	深鉢 胴部	縦位のR L縄文、沈線	V c	120-6と同一

第61表 出土土器一覧表

図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
120-8・-	フク土	5.9	深鉢 胴部	Lの撚糸文、沈線、無文帯	V c	
120-9・-	フク土	8.6	深鉢 胴部	半隆起線、貼付蛇行隆帯	IV B a	
46号 住居址						
図面 図版	出土位置	口径 器高 底径 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
121-1 71	フク土	- (15.0) -	深鉢 胴部	沈線間が磨消された2本一組の懸垂文と わらび手状の沈線が垂下する。地文はR L縄文の縦位施文。		1 2 b
図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
121-2・71	フク土	7.9	深鉢 口縁部	隆帯、縄文、沈線で渦巻文	V f	
121-3・-	フク土	3.9	深鉢 口縁部	縦位のRL縄文、沈線	V f	
121-4・-	フク土	7.4	深鉢 口縁部	縄文、沈線で区画	V f	
121-5・-	フク土	6.4	深鉢 口縁部	沈線で渦巻文	V f	
121-6・71	フク土	4.4	深鉢 口縁部	隆帯、縄文、沈線	V f	
121-7・-	フク土	8.5	深鉢 口縁部	RL縄文、沈線、磨消帯	V f	121-8と同一
121-8・-	フク土	9.3	深鉢 胴部	縦・横位のRL縄文、沈線、磨消帯、蛇 行沈線	V f	121-7と同一
121-9・-	フク土	10.0	深鉢 胴部	隆帯、沈線、縄文	V f	
121-10・-	フク土	6.7	深鉢 口縁部	条線、針状工具の刺突をもつ貼付隆帯	IV B c	
121-11・71	フク土	7.2	深鉢 胴部	縦位のRL縄文、沈線、磨消帯	V f	
121-12・71	フク土	8.3	深鉢 胴部	縦位のLR縄文、沈線、磨消帯	V f	
121-13・-	フク土	6.4	深鉢 胴部	太い沈線、斜行沈線	V f	
121-14・-	フク土	5.0	深鉢 胴部	条線、半隆起線文	IV C d	
121-15・-	フク土	5.5	深鉢 胴部	半隆起線文、波状貼付隆帯	IV B b	
47号 住居址						
図面 図版	出土位置	口径 器高 底径 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
122-1 71	フク土	((30.4)) (14.0) -	口縁部 深鉢 胴部	太い沈線による渦巻文と楕円区画を施 す。地文はLR縄文。		1 2 b

第62表 出土土器一覧表

図面 図版	出土位置	口径 器高 底径 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
122-2 71	フク土	19.2 (13.4) —	口縁部 深鉢 胴部	沈線間が磨消された逆U字状の沈線が垂下し、内側に櫛歯状工具による条線を縦位に施す。		1 2 b
122-3 71	フク土	— (11.5) 6.0	胴部 深鉢 底部	沈線間が磨消された2本一組の懸垂文が垂下し、その間に雑な綾杉文を施す。		
122-4 —	フク土	— (14.9) —	深鉢 胴部	沈線間が磨消された2本一組の懸垂文が垂下する。地文はR L R 縄文の縦位施文。		
図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
122-5・一	フク土	5.4	深鉢 口縁部	条線、沈線	V e	
122-6・一	フク土	3.8	深鉢 胴部	Rの撚糸文、沈線	V d	
122-7・一	フク土	3.6	深鉢 口縁部	沈線で横S字文	V f	122-15と同一
122-8・一	フク土	5.5	深鉢 口縁部	横位のR L 縄文、沈線で楕円区画	V f	
122-9・一	フク土	7.7	深鉢 口縁部	隆帯で楕円区画・渦巻文、縄文、沈線	V f	
122-10・一	フク土	6.5	深鉢 口縁部	太い沈線で渦巻文	V f	
122-11・一	フク土	5.7	深鉢 口縁部	隆帯で区画、縄文	V f	
122-12・一	フク土	4.8	深鉢 口縁部	隆帯・太い沈線で区画、棒状工具押圧痕	V f	
122-13・一	フク土	4.8	深鉢 口縁部	隆帯、沈線	V f	
122-14・一	フク土	5.3	深鉢 口縁部	沈線、磨消帯、斜行沈線	V f	
122-15・一	フク土	2.9	深鉢 口縁部	沈線で横S字文	V f	122-7と同一
122-16・一	フク土	6.4	深鉢 胴部	縦位のL 縄文、沈線、磨消帯	V f	
122-17・一	フク土	6.4	深鉢 胴部	Lの撚糸文、沈線、磨消帯	V f	
122-18・一	フク土	6.2	深鉢 胴部	隆帯・太い沈線で区画、斜行沈線	V f	
122-19・一	フク土	5.0	深鉢 胴部	沈線、斜行沈線	V f	
122-20・一	フク土	5.8	深鉢 胴部	横位のR L 縄文、沈線、磨消帯	V f	
122-21・一	フク土	6.1	深鉢 胴部	縦位のL R 縄文、蛇行沈線、沈線、磨消帯	V f	
122-22・一	フク土	5.9	深鉢 胴部	密・粗に右巻Lの撚糸文、沈線	V f	
123-1・一	フク土	9.0	深鉢 胴部	隆帯で楕円区画・渦巻文、縄文、沈線	V f	
123-2・一	フク土	7.6	深鉢 把手・胴部	太い沈線で文様	V f	
123-3・一	フク土	7.4	深鉢 胴部	縄文、隆帯・太い沈線で区画	V f	1 1 c

第63表 出土土器一覽表

図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
123-4-一	フク土	5.1	深鉢 胴部	縦位のRLL縄文、沈線、磨消帯	V f	
123-5-一	フク土	6.5	深鉢 胴部	縄文、微隆起線文、磨消帯	V g	
56号住居址						
図面 図版	出土位置	口径 器高 底径 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
123-6 72	炉	((34.4)) (25.6) —	口縁部 深鉢 胴部	口縁部は3本と2本の沈線による連弧文が2段表出され、その下には三角文も描かれる。胴部は沈線で縦位区画され、区画内には斜位の沈線が施される。		12a 炉体土器
123-7 72	フク土	((23.2)) (13.7) —	口縁部 深鉢 胴部	貼付隆帯による突起と渦巻文が付され、斜位の沈線が施される。		11c
図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
123-8-一	フク土	5.8	深鉢 口縁部	斜位のLR縄文	III-c	
61号住居址						
図面 図版	出土位置	口径 器高 底径 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
124-1 72	フク土	((23.6)) (13.6) —	口縁部 深鉢 胴部	口縁部は貼付隆帯と沈線による楕円区画を施す。胴部は沈線間が磨消された2本一組の懸垂文が垂下する。地文は斜位の沈線。		12a
124-2 72	床面	— (17.0) —	深鉢 胴部	ハケ状工具による縦位の条線を施す。		12a 埋甕
124-3 72	フク土	— (9.0) —	深鉢 胴部	沈線間が磨消された2本一組の懸垂文が垂下する。地文はRL縄文の縦位施文。		
124-4 72	床上	— (11.9) —	深鉢 胴部	沈線間が磨消された2本一組の懸垂文が垂下する。		
124-5 72	床上	((30.0)) (11.6) —	口縁部 深鉢 胴部	口縁部下に浅い沈線をめぐらせ、RLの縄文を縦位に施す。		
124-6 72	フク土	— (10.7) 5.0	胴部 深鉢 底部	刻目を持つ懸垂隆帯を4単位施し、その間に長U字状の隆帯を貼付する。		12a

第64表 出土土器一覽表

図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
124-7-72	フク土	4.4	深鉢 口縁部	一部磨消された縄文、太い沈線、隆帯	V f	
124-8-72	フク土	4.7	深鉢 口縁部	隆帯、太い沈線、LR縄文の押圧痕	V f	
124-9-〃	フク土	7.3	深鉢 口縁部	隆帯で区画、横位のRL縄文、沈線	V f	
124-10-72	フク土	6.2	深鉢 口縁部	隆帯で渦巻文、太い沈線	V f	
124-11-72	フク土	6.5	深鉢 口縁部	隆帯、太い沈線	V f	
124-12-〃	フク土	5.5	深鉢 胴部	竹管状工具による刺突をもつ隆帯、LR縄文の押圧痕、沈線	V f	
124-13-72	小穴	9.1	深鉢 胴部	縄文、蛇行沈線、沈線、磨消帯	V f	
124-14-〃	フク土	10.3	深鉢 口縁部	沈線	V f	
125-1-〃	床上	10.4	深鉢 胴部	隆帯で区画、横・縦位のRL縄文、沈線、磨消帯	V f	
125-2-〃	フク土	5.8	深鉢 胴部	縦位のRL縄文、蛇行沈線、沈線	V f	
125-3-〃	フク土	5.7	深鉢 胴部	隆帯で渦巻文、縄文、沈線	V f	
125-4-〃	フク土	4.8	深鉢 胴部	縄文、蛇行沈線、沈線	V f	
125-5-〃	フク土	9.4	深鉢 胴下部	縄文、沈線、磨消帯	V f	
125-6-〃	フク土	6.0	深鉢 胴部	縦位のL縄文、沈線、磨消帯	V f	
125-7-〃	フク土	4.6	深鉢 胴部	縦位のRL縄文、沈線、磨消帯	V f	
59号 住居址						
図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
125-8-〃	フク土	6.5	深鉢 胴下部	横位のRL縄文、隆帯	V b	
125-9-〃	フク土	7.9	深鉢 胴部	Lの撚糸文、隆帯	V b	
土 壙						
図面 図版	出土位置	口径 器高 底径 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
126-1 73	52号土	33.6 46.2 8.2	口縁部 深鉢 胴部 底部	口縁部は太い沈線による渦巻文と楕円区画を施し、胴部は沈線間が磨消された間隔の広い2本一組の懸垂文が垂下する。地文はLR縄文。		1 2 a
126-2 73	53号土	28.9 (14.4) -	口縁部 深鉢 胴部	口縁部は沈線による渦巻文と区画を表出し、胴部は沈線間が磨消された2本一組の懸垂文が垂下する。地文はRL縄文で、口縁部は異方向に、胴部は縦位に施文。		1 2 a
126-3 73	53号土	24.2 29.2 7.6	口縁部 深鉢 胴部 底部	口縁部は隆帯と渦巻文で区画を表出し、胴部は沈線間が磨消された間隔の広い2本一組の懸垂文が垂下する。地文はRL縄文を不規則に施文。		1 2 a

第65表 出土土器一覽表

図面 図版	出土位置	口径 器高 底径 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
126-4 73	54号土	((40.0)) 33.0 8.8	口縁部 浅鉢 胴部 底部	太い沈線で渦巻文と楕円区画を表出し、 区画内には縦位の短沈線を施す。胴部は 櫛歯状工具による条線を縦位に施文す る。		1 2 a
126-5 73	55号土	((26.4)) 42.6 11.6	口縁部 深鉢 胴部 底部	交互刺突・矢羽根状刺突を持つ貼付隆帯 で渦巻文と三角区画を作成し、区画内 には三叉文や玉抱三叉文などを充填す る。		9 b
126-6 73	56号土	((18.4)) (14.8) —	口縁部 鉢 胴部	左右に展開する渦巻文の中央をやや盛り 上げる。		1 2 a 有孔鈎付土器
126-7 73	56号土	21.6 (12.6) —	口縁部 浅鉢 胴部	無文。		1 2 a
遺 構 外						
図面 図版	出土位置	口径 器高 底径 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
127-1 74	包含層	— (11.8) —	深鉢 胴部	3本一組の平行沈線と波状文で崩れた抽 象文を描き、貼付隆帯による突起を付 す。地文はR Lの縄文を不規則に施文す る。		7 b ~ 8 a
127-2 74	包含層	— (14.7) 11.2	胴部 深鉢 底部	斜行する2本一組の沈線で2条のキャタ ピラ文を挟み、周囲に波状沈線を施す。		7 b ~ 8 a
127-3 74	包含層	— (13.8) —	深鉢 胴部	隆帯と沈線による直線や円形などで文様 を描き、隆帯上には部分的に爪形文を付 す。		9 a
127-4 74	包含層	((23.2)) (6.4) —	深鉢 口縁部	爪形文をもつ貼付隆帯で楕円区画を表出 し、内側に押引文を施す。胴部はR縄文 の斜位施文。		8 b
127-5 74	包含層	((22.4)) (11.8) —	口縁部 深鉢 胴部	口縁は山形の突起から貼付隆帯が垂下 し、さらに口縁部の区画から胴部の懸垂 文に連結する。突起部と口唇部には刻目 をめぐらせ、隆帯上にも刻目を施す。		7 b
127-6 74	包含層	((44.6)) (12.0) —	深鉢 口縁部	口縁部は2本の貼付隆帯がめぐり、その 間に2本一組の貼付隆帯による横S字状 文を施す。地文はR L縄文の斜位施文。		1 0 b

第66表 出土土器一覧表

図面 図版	出土位置	口径 器高 底径 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
127-7 74	包含層	— (45.0) (12.0)	胴部 深鉢 底部	頸部は無文。胴部は太い粘土紐を貼付し、その中央に沈線を施して2本の隆帯を描く。地文はLの捺糸文。		10b
127-8 74	包含層	— (12.5) 6.8	胴部 深鉢 底部	やや間隔のある条線を施文し、沈線による渦巻文を施す。		11C
127-9 74	包含層	— (11.6) 7.6	胴部 深鉢 底部	沈線間が磨消された2本一組の懸垂文が垂下する。地文はRL縄文の縦位施文。		12b
127-10 74	包含層	— (10.7) 6.8	胴部 深鉢 底部	沈線間が磨消された2本一組の懸垂文が垂下する。地文はLR縄文の横位施文。		12b
127-11 74	包含層	— (14.2) 8.0	胴部 底部	地文はRL縄文の縦位施文。		
127-12 74	包含層	27.6 (12.0) —	口縁部 浅鉢 胴部	無文。		
127-13 —	包含層	((27.0)) (20.4) —	口縁部 深鉢 胴部	無文。		
127-14 —	包含層	((20.0)) (18.6) —	口縁部 深鉢 胴部	地文はRL縄文で、全面に不規則に施文。		
図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
128-1・—	包含層	4.8	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文、三角押文で波状文	ⅢAa	
128-2・—	包含層	4.7	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文、縦位のLR縄文、半截竹管刺突による波状文	ⅢBb	
128-3・—	包含層	4.9	深鉢 胴部	縄文、刻目をもつ隆帯、キャタピラ文、波状文	ⅢBb	
128-4・—	包含層	4.9	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文、縄文、半截竹管刺突による波状文	ⅢBb	
128-5・—	包含層	7.7	深鉢 口縁部	Lの捺糸文、沈線、円形磨消文	Ⅲ-b	
128-6・—	包含層	5.5	深鉢 胴部	半隆起線、集合沈線	ⅢCb	128-7・8と同じ
128-7・—	包含層	5.9	深鉢 胴部	半隆起線、集合沈線	ⅢCb	128-6・8と同じ
128-8・—	包含層	9.3	深鉢 胴部	半隆起線、刻目をもつ隆帯	ⅢCb	128-6・7と同じ

第67表 出土土器一覧表

図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
128-9・一	包含層	6.5	深鉢 胴部	縄文、貼付隆帯、キャタピラ文	Ⅲ B b	
128-10・一	包含層	10.9	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文、三角押文	Ⅲ A b	
128-11・一	包含層	8.0	深鉢 胴部	平行沈線、蓮華文、集合沈線	Ⅲ C b	
128-12・一	包含層	4.9	深鉢 胴部	沈線、交互沈線、爪形文をもつ隆帯	Ⅲ D c	
128-13・一	包含層	5.4	深鉢 口縁部	縦位のR L縄文	Ⅲ B b	
128-14・一	包含層	6.3	深鉢 胴部	交互刺突・刻目をもつ隆帯、沈線、竹管・半截竹管刺突文	Ⅲ D c	
128-15・一	表土	7.4	深鉢 胴部	刻目をもつ隆帯、沈線、集合沈線	Ⅲ G c	
128-16・一	表土	6.8	深鉢 胴部	隆帯、沈線、交互刺突をもつ隆帯	Ⅲ H c	
128-17・一	包含層	6.9	深鉢 胴部	隆帯、沈線で渦巻文	Ⅲ - c	
128-18・一	包含層	8.5	深鉢 胴部	隆帯、キャタピラ文、半截竹管押引文、波状沈線	Ⅲ A b	
128-19・一	包含層	9.5	深鉢 頸部	隆帯、沈線、刻目文	Ⅲ D c	
128-20・一	包含層	14.3	深鉢 胴部	矢羽根状刺突をもつ隆帯、沈線	Ⅲ G c	
129-1・一	包含層	4.9	深鉢 口縁部	隆帯、2条の竹管状工具押引文	Ⅳ	
129-2・一	包含層	4.2	深鉢 口縁部	口唇部に渦巻状突起、隆帯、三角押文	Ⅳ	
129-3・一	包含層	5.2	深鉢 口縁部	刻目・貼付粘土紐をもつ隆帯、角押文、竹管状工具刺突文	Ⅳ	
129-4・一	包含層	4.2	深鉢 口縁部	沈線をもつ隆帯、隆帯で区画、口唇部と区画内に2条の角押文	Ⅳ	
129-5・一	包含層	6.9	深鉢 口縁部	隆帯で楕円区画、複数の角押文	Ⅳ	
129-6・一	包含層	6.0	深鉢 胴部	隆帯、摘み状突起、竹管状工具押引文	Ⅳ	
129-7・一	包含層	5.1	深鉢 胴部	隆帯、沈線	Ⅳ	
129-8・一	包含層	3.9	深鉢 胴部	隆帯、沈線、爪形文	Ⅳ	
129-9・一	包含層	4.5	深鉢 口縁部	隆帯で区画・渦巻文、Lの撚糸文、沈線、半截竹管刺突文	V a	
129-10・一	包含層	4.4	深鉢 口縁部	口唇部に刻目をもつ隆帯、Lの撚糸文、沈線	V a	
129-11・一	包含層	5.4	深鉢 口縁部	横位のL撚糸文、隆帯	V a	
129-12・一	包含層	5.4	深鉢 口縁部	Lの撚糸文、隆帯	V a	
129-13・一	包含層	4.2	深鉢 口縁部	横位のL撚糸文、棒状工具の押圧痕をもつ突起、隆帯で区画、沈線	V a	
129-14・一	包含層	5.9	深鉢 胴部	Lの撚糸文、棒状工具押圧痕をもつ隆帯	V a	
129-15・一	包含層	4.0	深鉢 胴部	Lの撚糸文、沈線	V a	
129-16・一	包含層	4.2	深鉢 胴部	隆帯、Lの撚糸文、爪形文をもつ貼付隆帯、沈線	V a	
129-17・一	包含層	6.6	深鉢 口縁部	隆帯、沈線で区画・渦巻文、集合沈線	V b	
129-18・一	包含層	7.1	深鉢 口縁部	縦位のR L縄文、隆帯、沈線で区画・渦巻文	V b	

第68表 出土土器一覧表

図面・図版	出土位置	残存高 cm	器形の種 別・部位	文 様 構 成	分類	備考
129-19・一	表土	9.0	深鉢 胴部	斜位のRL縄文、沈線で渦巻文	V b	
129-20・一	包含層	6.4	深鉢 胴部	縦位のLR縄文、沈線	V g	
129-21・一	包含層	6.0	深鉢 胴部	Lの撚糸文、貼付隆帯で文様	V b	
129-22・一	包含層	3.7	深鉢 口縁部	縄文、太い沈線、棒状工具押圧痕	V g	
130-1・一	包含層	6.6	深鉢 口縁部	縄文、沈線、棒状工具押圧痕	V g	
130-2・一	表土	7.6	深鉢 口縁部	隆帯で区画、縦位のRL縄文、沈線	V b	
130-3・一	包含層	8.5	深鉢 口縁部	隆帯で渦巻文、縄文、沈線、磨消帯	V f	
130-4・一	包含層	8.8	深鉢 口縁部	隆帯で区画、横位のRL縄文、沈線で渦巻文	V b	
130-5・一	包含層	5.7	深鉢 口縁部	竹管条工具刺突文をもつ隆帯、爪形文、縄文、沈線	V f	
130-6・一	包含層	5.4	深鉢 胴部	隆帯・沈線で区画、斜行条線	V f	
130-7・一	攪乱	4.1	深鉢 口縁部	縄文、沈線でわらび手状文	V g	
130-8・一	包含層	7.7	深鉢 口縁部	隆帯、縄文	V g	
130-9・一	包含層	4.3	深鉢 口縁部	条線	IV B c	
130-10・一	包含層	3.8	深鉢 胴部	蛇行隆帯、条線	IV B c	
130-11・一	包含層	4.4	深鉢 口縁部	条線、沈線	IV C d	
130-12・一	包含層	4.8	深鉢 胴部	縦位のRL縄文、貼付隆帯	IV A b	
130-13・一	包含層	7.4	深鉢 口縁部	条線、沈線	IV C d	
130-14・一	包含層	6.1	深鉢 胴部	Lの撚糸文、貼付隆帯	IV A b	
130-15・一	包含層	4.6	深鉢 口縁部	斜格子状に貼付隆帯	IV B b	
130-16・一	包含層	7.5	深鉢 胴部	条線、隆帯、沈線	IV C c	
130-17・一	包含層	5.5	深鉢 胴部	波状貼付隆帯、条線	IV B c	
130-18・一	包含層	8.4	深鉢 胴部	隆帯、沈線、条線	IV C c	130-19と同一
130-19・一	包含層	6.5	深鉢 胴部	隆帯、沈線、条線	IV C c	130-18と同一

第69表 出土石器一覽表

25号 住居址									
図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
131-1・75	打製石斧	床上	砂岩	(6.7)	4.4	1.6	51.5	I C a 3	
131-2・75	打製石斧	フク土	安山岩	7.0	2.5	1.5	26.9	I A b 1	
131-3・75	打製石斧	フク土	砂岩	(5.3)	3.0	1.3	20.6	I -- 6	
131-4・75	打製石斧	フク土	粘板岩	(7.8)	4.7	0.8	32.0	I -- 2	
131-5・75	打製石斧	床上	安山岩	(6.5)	3.3	4.8	94.8	I -- 5	
131-6・75	打製石斧	フク土	砂岩	(9.7)	4.0	2.3	107.8	I -- 6	
131-7・75	打製石斧	小穴	安山岩	8.7	4.9	2.2	116.8	I C a 1	
131-8・75	打製石斧	フク土	砂岩	8.3	6.1	1.7	88.1	I A h 1	
131-9・75	打製石斧	フク土	砂岩	10.4	4.3	1.1	72.8	I C e 1	
131-10・75	打製石斧	小穴	砂岩	11.2	5.1	2.5	151.2	I A a 1	
131-11・75	打製石斧	フク土	粘板岩	13.4	(5.7)	1.7	128.2	I -- 2	
131-12・75	打製石斧	フク土	砂岩	12.0	4.8	1.5	115.2	I A a 1	
131-13・75	打製石斧	フク土	砂岩	9.2	5.5	1.5	95.5	I B a 1	
132-1・75	打製石斧	床上	砂岩	12.0	6.4	2.0	170.0	I B i 1	
132-2・75	打製石斧	フク土	安山岩	12.5	8.4	2.9	260.5	I A a 1	
132-3・75	打製石斧	フク土	砂岩	(9.1)	7.2	2.8	186.7	IV B g 1	
132-4・75	打製石斧	フク土	砂岩	(9.1)	6.2	1.9	118.1	I A g 3	
132-5・75	磨石	炉	花崗岩	32.6	13.1	8.6	5000.0	II b	炉石
132-6・75	磨石	フク土	砂岩	8.0	4.5	3.4	173.4	II b	
26号 住居址									
図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
133-1・75	石鏃	フク土	チャート	3.2	1.6	0.6	2.0	II b 1	
133-2・75	石鏃	フク土	黒曜石	2.1	1.7	0.4	1.0	I b 1	
133-3・75	石鏃	フク土	黒曜石	(2.0)	(0.8)	0.4	0.6	I b 2・3	
133-4・75	楔形石器	フク土	黒曜石	2.2	1.6	0.6	2.0	III	
133-5・75	楔形石器	床上	黒曜石	2.0	1.4	0.6	1.5	IV	
133-6・75	剥片	フク土	黒曜石	3.1	1.8	0.7	3.0		使用痕有り
133-7・75	剥片	フク土	黒曜石	2.0	4.1	0.8	4.0		二次加工有り

第70表 出土石器一覧表

図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
133-8-75	石匙	フク土	粘板岩	6.3	(6.4)	1.1	78.0	I A b 2	
133-9-75	石匙	フク土	粘板岩	10.5	3.6	1.5	51.0	II A b	
133-10-75	石匙	フク土	安山岩	(4.3)	(5.6)	(1.5)	24.0	I A -	
133-11-76	打製石斧	フク土	砂岩	12.3	5.0	2.0	140.0	II A a 1	
133-12-76	打製石斧	フク土	砂岩	11.8	4.6	1.5	116.0	I A a 3	
133-13-76	打製石斧	フク土	粘板岩	7.1	3.7	1.2	32.0	V D i 1	
133-14-76	打製石斧	床上	砂岩	15.6	4.8	3.3	240.0	I A a 1	
133-15-76	打製石斧	フク土	砂岩	12.6	5.1	2.5	179.0	I A a 1	
133-16-76	打製石斧	床上	ホルン フェルス	12.5	4.4	1.9	109.0	I C g 3	
134-1-76	打製石斧	フク土	ホルン フェルス	8.5	5.3	1.2	64.2	IV B g 1	
134-2-76	打製石斧	フク土	安山岩	8.7	6.8	2.1	113.0	IV A g 1	
134-3-76	打製石斧	フク土	砂岩	10.8	3.8	1.8	90.0	I C a 1	
134-4-76	打製石斧	フク土	安山岩	11.4	4.7	2.6	144.0	I B c 1	
134-5-76	打製石斧	フク土	粘板岩	12.2	5.0	1.7	102.0	I D g 3	
134-6-76	打製石斧	フク土	砂岩	11.0	4.2	1.5	96.0	I A h 1	
134-7-76	打製石斧	床上	安山岩	10.4	8.6	1.6	133.0	IV A i 1	
134-8-76	打素	フク土	砂岩	13.7	7.8	3.6	589.0	V	
134-9-76	打素	フク土	砂岩	12.4	4.8	2.0	123.9	V	
134-10-76	搔器	フク土	砂岩	7.3	9.0	1.7	146.7	I A a	
135-1-76	石皿	炉	花崗岩	(17.1)	(10.5)	(6.8)	1568.0	III	炉石
27号 住居 址									
図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
135-2-77	石鏃	フク土	チャート	3.3	1.7	0.4	1.6	II a 1	
135-3-77	石鏃	フク土	チャート	3.0	1.6	0.4	1.2	I d 1	
135-4-77	石鏃	フク土	黒曜石	(1.4)	2.0	0.4	1.0	- b 3	
135-5-77	刮器	フク土	黒曜石	3.8	2.8	1.0	8.0	I C c	
135-6-77	搔器	フク土	粘板岩	5.4	8.0	1.2	45.0	I A a	
135-7-77	打製石斧	フク土	粘板岩	3.3	3.1	0.8	8.0	IV B i 1	
135-8-77	打製石斧	フク土	砂岩	(7.8)	4.5	1.7	83.0	I A a 3	

第71表 出土石器一覽表

図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
135-9-77	打製石斧	フク土	粘板岩	7.5	5.6	1.4	65.0	IV A d 1	
135-10-77	打製石斧	フク土	珪質頁岩	6.1	5.9	1.5	54.0	IV A a 2	
135-11-77	打製石斧	フク土	粘板岩	9.6	4.5	1.9	104.0	I B a 1	
135-12-77	打製石斧	フク土	砂岩	9.8	4.2	1.1	48.0	I A a 1	
135-13-77	打製石斧	フク土	砂岩	7.1	5.7	1.4	59.0	IV A d 1	
136-1-77	打製石斧	フク土	安山岩	6.5	5.6	1.5	50.0	IV B b 1	
136-2-77	打製石斧	フク土	砂岩	8.7	3.6	1.3	46.0	I A a 1	
136-3-77	打製石斧	小穴	砂岩	9.0	5.1	1.4	71.0	I C d 1	
136-4-77	打製石斧	フク土	砂岩	10.8	5.4	1.5	81.0	II A c 1	
136-5-77	打製石斧	フク土	安山岩	10.9	3.9	1.4	59.0	I B a 1	
136-6-77	打製石斧	土壙	安山岩	10.9	3.8	1.6	70.0	I A d 1	
136-7-77	打製石斧	フク土	砂岩	12.2	4.9	1.4	90.0	I A a 1	
136-8-77	打製石斧	小穴	砂岩	11.8	4.5	2.1	110.0	I A a 1	
136-9-77	打製石斧	フク土	粘板岩	11.0	5.0	1.4	76.0	I C a 1	
136-10-77	打製石斧	床上	砂岩	12.7	4.7	2.2	128.0	I A a 1	
136-11-77	打製石斧	フク土	砂岩	12.4	5.4	2.4	103.0	I C c 1	
136-12-77	打製石斧	フク土	粘板岩	(11.6)	5.2	1.2	72.0	I B b 3	
137-1-77	打製石斧	フク土	安山岩	8.5	7.1	2.1	116.0	IV C c 1	
137-2-77	打製石斧	フク土	砂岩	10.1	7.2	2.4	119.0	IV D a 1	
137-3-77	打製石斧	フク土	安山岩	13.6	7.4	2.3	215.0	III A a 1	
137-4-78	打製石斧	フク土	砂岩	14.9	6.2	2.5	208.0	II A e 1	
137-5-77	打製石斧	フク土	砂岩	13.9	5.4	2.0	165.0	II A a 1	
137-6-78	打製石斧	フク土	砂岩	(13.5)	5.9	2.5	188.0	I A d 3	
138-1-78	打製石斧	フク土	砂岩	(12.2)	5.1	2.8	148.0	I A d 3	
138-2-78	打製石斧	フク土	凝灰岩	(11.4)	5.3	2.9	223.0	I A b 3	
138-3-78	打製石斧	フク土	安山岩	(10.3)	6.5	3.2	235.0	I -- 2	
138-4-78	磨製石斧	フク土	凝灰角礫岩	(8.0)	(5.2)	(3.8)	194.0	I -- 5	
138-5-78	石匙	フク土	粘板岩	7.5	6.2	1.6	54.0	I A a 3	
138-6-78	石匙	フク土	安山岩	10.1	5.7	1.3	61.0	II B	
138-7-78	磨石	フク土	砂岩	11.2	8.6	5.0	675.0	I b	

第72表 出土石器一覧表

図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
138-8・78	磨石	フク土	花崗閃緑岩	10.7	7.0	4.3	460.0	I b	
138-9・78	剥片	フク土	安山岩	8.0	3.3	1.2	21.1		調整有り
138-10・78	碟器	フク土	砂岩	11.1	10.9	5.1	605.0		
139-1・78	打素	フク土	砂岩	12.0	5.6	2.8	199.0	V	
139-2・78	打素	フク土	砂岩	9.5	7.4	1.0	75.0	V	
139-3・78	打素	フク土	硬砂岩	(4.9)	(10.5)	(3.8)	206.0	V	
29号 住居址									
図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
139-4・80	石鏃	フク土	黒曜石	1.7	1.3	0.3	0.4	I a 1	
139-5・80	石鏃	フク土	黒曜石	1.9	2.0	0.5	1.3	I b 1	
139-6・80	石鏃	フク土	頁岩	2.6	(1.6)	0.3	1.0	I a 4	
139-7・80	石鏃	フク土	黒曜石	2.8	2.2	0.4	1.3	I b 1	
139-8・80	石匙	フク土	頁岩	2.6	5.1	0.8	6.0	I A a 1	
139-9・80	打製石斧	フク土	砂岩	10.8	4.3	1.3	67.4	I A d 3	
139-10・80	打製石斧	床上	砂岩	9.4	4.2	1.9	66.8	I C d 1	
139-11・80	打製石斧	フク土	頁岩	6.9	3.1	1.3	34.4	I C b 1	
140-1・80	打製石斧	フク土	凝質砂岩	10.2	5.4	3.0	210.0	I A a 1	
140-2・80	打製石斧	フク土	砂岩	10.5	4.4	1.5	78.4	I A d 1	
140-3・80	打製石斧	小穴	粘板岩	10.5	4.5	1.0	45.2	I A c 1	
140-4・80	打製石斧	フク土	砂岩	13.0	5.8	1.7	144.3	I A d 1	
140-5・80	打製石斧	フク土	粘板岩	12.1	4.9	2.0	139.8	I C a 1	
140-6・80	打製石斧	小穴	砂岩	12.0	4.8	1.4	102.0	I B c 1	
140-7・80	打製石斧	フク土	砂岩	12.0	8.2	1.7	149.0	IV B c 1	
140-8・一	打製石斧	フク土	砂岩	(9.2)	7.2	2.7	186.8	I -- 4	
140-9・80	打製石斧	フク土	砂岩	11.9	6.1	1.9	150.6	I A d 1	
140-10・80	打製石斧	フク土	砂岩	10.0	7.2	2.7	158.9	IV C d 1	
141-1・80	打製石斧	フク土	粘板岩	12.4	6.7	2.7	220.0	I B d 1	
141-2・80	打製石斧	床上	砂岩	11.7	18.7	2.5	275.0	IV A a 1	
141-3・80	打製石斧	フク土	砂岩	12.0	7.7	2.8	215.0	IV A b 1	

第73表 出土石器一覧表

図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
141-4・80	打製石斧	小穴	砂岩	(10.1)	8.5	2.2	240.0	I -- 4	
141-5・80	搔器	フク土	安山岩	7.8	5.9	1.0	50.9	I A a	
141-6・80	打製石斧	フク土	硬砂岩	15.6	6.7	2.9	465.0	I C a 1	
141-7・80	礫器	フク土	安山岩	8.6	7.3	4.1	210.0		
142-1・80	叩き石	フク土	砂岩	16.7	5.4	4.3	611.0	II b	
142-2・80	磨石	小穴	花崗岩	(8.5)	(8.4)	(5.5)	525.0	I a	
142-3・80	磨石	フク土	砂岩	(9.5)	(8.2)	(5.1)	506.0	I b	
30号 住居址									
図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
142-4・81	剥片	床上	流紋岩	6.2	3.1	1.9	32.0		使用痕有り
142-5・81	剥片	床上	安山岩	5.8	2.2	0.9	11.1		
142-6・81	小形礫	床上	安山岩	5.3	1.7	0.7	7.0		調整有り
142-7・81	打製石斧	フク土	砂岩	16.1	6.4	2.6	265.0	II B d 1	
142-8・81	打製石斧	フク土	安山岩	11.1	4.2	1.7	69.0	I -- 2	
142-9・81	打製石斧	フク土	珪質頁岩	8.5	4.5	1.7	64.0	I A c 1	
143-1・81	打製石斧	フク土	砂岩	9.8	6.7	2.4	130.0	IV B d 1	
143-2・81	打製石斧	フク土	砂岩	(9.5)	(5.5)	(3.6)	228.0	I -- 5	
143-3・81	打製石斧	フク土	千枚岩	10.6	5.5	1.8	117.0	II C a 3	
143-4・81	打製石斧	フク土	砂岩	9.8	5.0	2.2	126.0	I A d 1	
143-5・81	石匙	フク土	砂岩	(6.6)	6.1	1.6	74.0	I A a 1	
143-6・81	スタンプ	フク土	硬砂岩	6.5	7.4	5.0	336.0	II B c	
143-7・81	磨石	フク土	花崗岩	14.7	3.7	2.7	242.0	II a	
143-8・81	磨石	フク土	砂岩	(7.2)	(10.3)	(3.7)	360.0	I a	
28号 住居址									
図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
144-1・79	打製石斧	フク土	砂岩	(8.9)	3.6	1.0	39.4	I -- 6	
144-2・79	打製石斧	フク土	硬砂岩	(7.9)	4.4	1.6	74.6	I C a 3	
144-3・79	打製石斧	フク土	砂岩	(8.7)	5.3	2.5	119.2	II -- 5	

第74表 出土石器一覧表

図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
144-4-79	打製石斧	フク土	安山岩	12.3	5.9	1.8	136.0	I A f 1	
144-5-79	打製石斧	フク土	砂岩	13.2	9.0	2.7	310.0	III C d 1	
144-6-79	打製石斧	フク土	硬砂岩	9.1	4.9	2.9	188.6	I A c 1	
144-7-79	打製石斧	フク土	砂岩	(8.8)	7.4	2.8	200.0	I C b 3	
144-8-79	打素	フク土	粘板岩	7.1	4.9	1.3	42.8	V	
145-1-79	磨石	フク土	花崗岩	8.8	8.6	3.1	350.0	I a	
145-2-79	磨石	フク土	砂岩	10.6	6.8	5.9	620.0	III	
145-3-79	石皿	フク土	緑泥片岩	(15.8)	(9.9)	(3.0)	595.0	I	
145-4-79	石皿	フク土	花崗岩	(19.2)	(14.3)	7.5	2700.0	II	
145-5-79	石皿	フク土	緑泥片岩	(19.0)	(10.7)	(4.1)	1080.0	II	
32号 住 居 址									
図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
146-1-81	石鏃	フク土	黒曜石	1.6	1.1	0.3	0.3	II d 1	
146-2-81	石鏃	床上	黒曜石	1.6	1.5	0.4	0.8	I b 1	
146-3-81	石鏃	フク土	チャート	1.8	1.3	0.3	0.8	I b 1	
146-4-81	石鏃	フク土	安山岩	2.6	1.4	0.4	1.3	I b 1	
146-5-81	搔器	フク土	珪質頁岩	(2.4)	(2.3)	(0.7)	2.6		欠損品のため 分類できず
146-6-81	搔器	床上	珪質頁岩	6.4	5.3	1.8	43.0	I A c	
146-7-82	搔器	フク土	珪質頁岩	4.9	3.5	1.5	19.0	I A a	
146-8-82	削器	フク土	粘板岩	5.9	4.0	0.6	13.0	I A b	
146-9-82	石槍	フク土	安山岩	8.0	3.3	1.1	29.5		
146-10-82	打製石斧	フク土	粘板岩	6.9	4.3	1.3	39.0	I A b 1	
146-11-82	打製石斧	土壌	千枚岩	9.7	4.8	1.6	82.0	I A e 1	
146-12-82	打製石斧	土壌	砂岩	9.0	5.0	2.7	128.0	I A a 1	
146-13-82	打製石斧	フク土	粘板岩	10.6	4.9	2.1	92.0	I A c 1	
146-14-82	打製石斧	フク土	砂岩	12.0	4.2	2.2	131.0	I B b 1	
146-15-82	打製石斧	小穴	砂岩	11.1	(7.0)	2.4	175.0	IV B i 6	
147-1-82	打製石斧	フク土	ホルン フェルス	12.3	4.0	1.8	85.0	I B b 1	
147-2-82	打製石斧	小穴	砂岩	11.6	4.6	2.5	139.0	I A a 1	

第75表 出土石器一覧表

図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
147-3・82	打製石斧	フク土	砂岩	13.3	5.4	1.4	80.0	I C c 1	
147-4・82	打製石斧	フク土	砂岩	(10.9)	9.3	2.0	155.0	IV C j 3	
147-5・82	打製石斧	床上	砂岩	(10.9)	6.2	2.8	206.0	II B i 3	
147-6・82	打製石斧	フク土	砂岩	(10.6)	(8.4)	(3.5)	440.0	I -- 4	
147-7・82	打製石斧	フク土	砂岩	14.8	5.3	2.8	275.0	I C b 1	
147-8・82	打製石斧	土壙	安山岩	(10.7)	(9.0)	(2.0)	209.0	I A h 5	
148-1・82	磨製石斧	土壙	凝灰岩	(8.3)	5.5	3.1	238.0	II A b 5	
148-2・82	剥片	フク土	泥岩	8.3	2.9	1.1	39.0		
148-3・82	磨石	フク土	砂岩	11.9	6.5	3.9	416.0	I b	
148-4・82	磨石	土壙	多孔質 安山岩	9.5	8.4	5.6	850.0	III	
148-5・82	石皿	床上	角閃安山岩	27.4	10.3	7.0	3400.0	I	
148-6・82	石皿	フク土	砂岩	17.7	16.6	3.0	1304.0	II	
35号 住居址									
図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
149-1・83	石鏃	フク土	安山岩	(1.9)	1.5	0.3	0.5	II b 2	
149-2・83	石鏃	フク土	チャート	(2.9)	(1.4)	0.4	1.4	II d 2・4	
149-3・83	打製石斧	フク土	珪質頁岩	10.0	3.5	1.8	63.0	I C f 1	
149-4・83	打製石斧	フク土	砂岩	10.0	5.1	1.8	105.0	I B e 1	
149-5・83	打製石斧	小穴	砂岩	10.9	4.1	2.0	102.0	I B d 1	
149-6・83	打製石斧	小穴	安山岩	9.4	5.2	2.4	145.0	I C i 1	
149-7・83	打製石斧	フク土	砂岩	8.0	4.5	1.1	51.0	I A c 1	
149-8・83	打製石斧	小穴	砂岩	17.4	4.8	2.0	271.0	I C b 1	
149-9・83	打製石斧	フク土	砂岩	15.8	4.2	2.5	166.0	I C b 1	
149-10・83	打製石斧	フク土	砂岩	13.3	5.3	2.4	142.0	I A c 1	
149-11・83	打製石斧	床上	安山岩	(7.5)	6.2	2.2	90.0	I A g 5	
149-12・83	打製石斧	フク土	安山岩	(7.2)	4.5	1.6	75.0	I B a 5	
149-13・83	打製石斧	フク土	珪質頁岩	(6.5)	3.7	1.8	44.0	I B h 5	
150-1・83	打製石斧	フク土	安山岩	(9.7)	(5.1)	2.9	108.0	I A h 5	
150-2・83	礫器	フク土	安山岩	6.5	7.6	3.0	179.0		

第76表 出土石器一覧表

図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
150-3-83	磨石	床上	砂岩	9.9	7.7	3.6	375.0	I b	
37号 住居址									
図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
150-4-83	打製石斧	フク土	粘板岩	6.9	5.5	1.6	58.0	IV B c 1	
150-5-83	打製石斧	フク土	粘板岩	(6.0)	4.4	1.0	28.0	I A b 3	
150-6-83	打製石斧	フク土	粘板岩	(11.4)	4.8	2.1	127.0	1 -- 6	
150-7-83	打製石斧	フク土	安山岩	10.3	4.2	1.6	98.0	I A a 1	
150-8-83	打製石斧	フク土	砂岩	9.9	3.4	1.3	48.0	I B h 1	
150-9-83	打製石斧	小穴	粘板岩	13.1	6.6	2.5	225.0	2 B c 1	
150-10-83	打製石斧	フク土	砂岩	(9.8)	4.5	1.8	105.0	1 -- 6	
151-1-83	打素	フク土	砂岩	15.9	9.4	3.4	530.0	V	
151-2-83	打素	フク土	砂岩	15.4	6.0	3.3	414.0	V	
151-3- -	分割礫	フク土	砂岩	9.7	11.7	6.0	1061.0		
151-4-84	石皿	フク土	緑泥片岩	(16.3)	(14.6)	3.6	1055.0	I	
151-5-84	石皿	フク土	緑泥片岩	(19.4)	(26.0)	6.6	4250.0	I	
151-6- -	剥片	フク土	粘板岩	4.9	2.6	0.9	11.0		両極に打点有り
40号 住居址									
図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
152-1-84	打製石斧	フク土	砂岩	6.5	3.0	1.5	37.7	I A h i	
152-2-84	打製石斧	フク土	安山岩	8.0	6.3	1.0	52.3	IV A c 1	
152-3-84	打製石斧	フク土	粘板岩	(7.0)	(6.0)	(1.9)	73.0	IV -- 2	
152-4-84	打製石斧	フク土	粘板岩	10.8	4.0	1.5	83.9	I C c 1	
152-5-84	打製石斧	フク土	凝灰岩	11.2	4.5	2.2	142.0	I A i 1	
152-6-84	打製石斧	フク土	安山岩	11.5	6.2	2.7	167.0	I A g 1	
152-7-84	打製石斧	フク土	砂岩	(12.1)	5.4	2.0	159.3	I A d 3	
152-8-84	打製石斧	フク土	砂岩	11.8	4.8	2.8	196.0	I A e 1	
152-9-84	打製石斧	フク土	砂岩	13.6	4.2	1.8	98.0	I B h 1	
152-10-84	打製石斧	フク土	砂岩	12.7	6.4	2.7	245.0	I B i 1	

第77表 出土石器一覧表

図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
152-11-84	叩き石	フク土	粘板岩	9.8	3.0	2.4	78.0	II b	
42号 住居址									
図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
153-1-84	石鏃	フク土	黒曜石	(1.6)	1.5	0.3	0.5	I d 2	
153-2-84	石鏃	フク土	黒曜石	1.9	1.5	0.5	0.9		
153-3-84	石鏃	フク土	黒曜石	2.9	1.2	0.6	1.8		
153-4-84	搔器	フク土	黒曜石	3.5	4.6	1.0	11.9	IA a	
153-5-84	打製石斧	フク土	安山岩	(8.8)	(4.8)	1.6	69.6	I -- 6	
153-6-84	打製石斧	フク土	砂岩	(7.3)	(6.7)	3.1	164.6	I -- 5	
153-7-84	打製石斧	フク土	砂岩	11.3	4.5	1.8	92.5	IC c 1	
153-8-84	磨石	フク土	砂岩	13.6	7.4	4.4	730.0	I b	
153-9-84	磨石	土壙	砂岩	15.1	9.5	5.0	1005.0	I b	
153-10-84	打素	フク土	砂岩	12.7	4.4	1.9	119.1	V	
45号 住居址									
図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
154-1-85	打製石斧	フク土	砂岩	14.0	6.0	2.7	280.0	IB c 1	
154-2-85	打製石斧	フク土	片岩	12.3	5.8	2.2	170.0	IB a 1	
154-3-85	打製石斧	フク土	砂岩	(11.5)	7.0	2.3	220.0	IC c 3	
154-4-85	打製石斧	小穴	凝灰岩	(11.5)	5.6	2.6	195.0	I -- 6	
154-5- --	打素	フク土	砂岩	10.4	6.0	3.3	275.0	V	
154-6-85	磨石	フク土	砂岩	13.3	7.3	4.0	590.0	I b	
154-7-85	剥片	フク土	黒曜石	1.6	1.9	0.5	1.1		使用痕有り
48号 住居址									
図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
155-1-85	打製石斧	フク土	砂岩	9.2	3.1	1.5	58.0	IA g 1	
155-2-85	打製石斧	フク土	砂岩	9.3	4.7	1.9	114.0	IA a 1	
155-3-85	打製石斧	フク土	砂岩	(9.8)	5.3	2.4	120.0	I -- 2	

第78表 出土石器一覧表

図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
155-4・85	打製石斧	フク土	砂岩	(11.2)	4.6	1.9	83.0	I -- 6	
155-5・85	打製石斧	フク土	砂岩	12.2	5.7	1.8	126.0	I A j 1	
155-6・85	打製石斧	床上	砂岩	12.6	5.2	1.8	120.0	II A d 1	
155-7・85	打製石斧	フク土	砂岩	12.8	8.4	2.4	183.0	III A g 1	
155-8・85	打製石斧	フク土	砂岩	(8.0)	7.1	2.0	128.0	III -- 4	
155-9・85	打製石斧	フク土	安山岩質 砂岩	13.9	5.4	2.2	156.0	I A g 1	
155-10・85	打製石斧	床上	ホルン フェルス	11.9	9.1	4.6	302.0	III A a 1	
156-1・85	搔器	フク土	チャート	7.9	1.8	1.2	17.5	I A a	
156-2・85	石匙	フク土	砂岩	9.3	7.9	1.8	134.0	I B	
156-3・85	磨石	フク土	花崗岩	7.5	7.5	6.4	474.0	III	
156-4・85	叩き石	床上	砂岩	9.6	6.4	4.0	268.0	II b	
156-5・86	叩き石	フク土	砂岩	8.7	4.3	3.8	197.0	II b	
156-6・86	磨石	フク土	砂岩	13.1	8.4	4.0	710.0	I b	
156-7・86	浮子	フク土	軽石	11.9	10.4	3.1	41.7		
49号 住居址									
図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
157-1・86	石鏃	フク土	チャート	1.4	1.5	0.3	0.4	I a 1	
157-2・86	石鏃	フク土	チャート	(2.1)	1.7	0.3	0.9	- b 2	
157-3・86	石槍	フク土	ホルン フェルス	5.6	3.5	1.0	25.2		
157-4・86	打製石斧	フク土	粘板岩	7.3	4.4	2.0	76.2	I B e 1	
157-5・86	打製石斧	床上	安山岩	8.4	6.2	2.2	111.8	IV A h 1	
157-6・86	打製石斧	フク土	粘板岩	(9.7)	3.4	1.8	60.7	I C g 6	
157-7・86	打製石斧	フク土	砂岩	9.3	3.5	0.7	23.9	I C d 1	
157-8・86	打製石斧	フク土	安山岩	11.9	6.9	1.2	85.4	III C j 1	
157-9・86	打製石斧	フク土	粘板岩	10.6	3.9	1.9	70.5	I A a 1	
157-10・86	打製石斧	フク土	砂岩	10.0	4.2	1.7	68.4	II A a 1	
157-11・-	打製石斧	フク土	頁岩	(11.3)	5.3	2.5	168.8	I A h 3	
157-12・86	打製石斧	フク土	砂岩	12.9	5.5	1.8	124.6	III B h 1	
158-1・86	打製石斧	フク土	凝灰岩	(16.6)	(7.0)	2.5	300.0	II B g 6	

第79表 出土石器一覧表

図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
158-2・86	打製石斧	床上	砂岩	9.8	7.9	3.0	190.4	IV B c 1	
158-3・86	打製石斧	フク土	砂岩	14.5	4.7	2.4	176.3	I A i 1	
158-4・86	磨製石斧	床上	凝灰岩	(10.3)	5.7	3.8	385.0	I B a 5	
158-5・86	スタンプ	床上	花崗岩	11.5	5.6	3.3	365.0	I C a	
158-6・86	叩き石	小穴	砂岩	18.2	5.9	5.5	840.0	II b	
158-7・86	叩き石	フク土	砂岩	9.5	4.0	2.8	145.8	II b	
159-1・87	磨石	フク土	砂岩	16.1	7.0	3.4	530.0	I a	
159-2・87	磨石	フク土	花崗岩	12.6	7.6	4.2	555.0	I b	
159-3・ー	磨石	フク土	砂岩	11.0	8.6	5.0	680.0	I a	
159-4・87	打素	フク土	砂岩	8.7	5.8	2.1	139.6	V	
159-5・87	浮子	フク土	軽石	8.4	8.3	5.1	58.6		
159-6・ー	石皿	フク土	花崗岩	25.4	18.2	11.0	6200.0	III	
50号 住居址									
図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
160-1・87	石鏃	フク土	黒曜石	2.0	1.2	0.4	0.6	I e 1	
160-2・87	打製石斧	床上	安山岩	9.4	3.2	1.6	54.0	I C i 1	
160-3・ー	打製石斧	フク土	砂岩	(8.3)	5.6	2.2	105.0	I -- 5	
160-4・ー	打製石斧	フク土	砂岩	(10.7)	5.4	2.9	200.0	I -- 6	
160-5・87	打製石斧	フク土	砂岩	10.9	3.7	1.6	78.0	I A c 1	
160-6・87	打製石斧	フク土	砂岩	(13.0)	5.8	1.9	147.0	I A c 3	
160-7・ー	打製石斧	フク土	安山岩	(9.8)	5.0	2.5	245.0	II -- 5	
160-8・87	石皿	フク土	花崗岩	17.9	17.9	3.8	2050.0	I	
160-9・ー	石皿	フク土	花崗岩	(12.7)	(19.6)	(8.8)	2800.0	II	
160-10・87	磨石	フク土	砂岩	11.4	3.0	3.1	159.0	II a	
161-1・87	磨石	フク土	砂岩	24.1	5.0	4.7	815.0	II b	
161-2・87	磨石	フク土	砂岩	12.8	9.7	6.1	2650.0	I a	
161-3・87	叩き石	フク土	硬砂岩	7.6	2.8	2.8	80.6	II b	
161-4・87	スタンプ	フク土	花崗岩	11.7	9.6	5.9	975.0	II C a	

第80表 出土石器一覧表

51号住居址									
図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
161-5・87	石鏃	フク土	黒曜石	1.5	(1.2)	0.3	0.4	I d 4	
161-6・87	石鏃	フク土	チャート	1.5	(1.5)	0.3	0.8	I c 4	
161-7・87	石鏃	フク土	チャート	2.1	1.3	0.4	0.7	II b 1	
161-8・87	石鏃	フク土	珪質頁岩	2.5	1.5	0.4	1.2	I b 1	
161-9・87	打製石斧	フク土	ホルンフェルス	9.7	2.9	1.4	45.5	I A c 1	
161-10・87	打製石斧	フク土	砂岩	(8.3)	4.6	2.3	94.4	I -- 2	
162-1・87	打製石斧	フク土	ホルンフェルス	7.3	6.0	1.4	50.9	IV A c 1	
162-2・87	打製石斧	フク土	粘板岩	7.5	4.4	1.6	56.3	I B b 1	
162-3・87	打製石斧	フク土	凝灰岩	7.7	3.8	1.4	50.7	I A e 1	
162-4・88	打製石斧	フク土	砂岩	9.8	5.1	1.3	69.7	I A c 1	
162-5・88	打製石斧	フク土	安山岩	9.1	4.7	1.5	69.0	I B g 1	
162-6・88	打製石斧	フク土	砂岩	8.2	5.0	1.9	91.6	I A a 1	
162-7・88	打製石斧	フク土	砂岩	11.5	4.3	1.9	113.9	I A d 1	
162-8・88	打製石斧	フク土	砂岩	10.5	5.5	1.7	102.3	I A j 1	
162-9・88	打製石斧	フク土	砂岩	10.8	4.7	1.6	84.5	I B c 1	
162-10・88	打製石斧	フク土	粘板岩	13.1	3.3	1.5	84.0	I C b 1	
162-11・88	打製石斧	フク土	珪質頁岩	12.6	4.2	1.7	115.2	II B b 1	
162-12・88	打製石斧	フク土	砂岩	12.5	3.9	1.7	93.3	I A h 1	
163-1・88	打製石斧	フク土	凝灰岩	10.1	4.2	2.1	104.8	I B c 1	
163-2・88	打製石斧	床上	粘板岩	10.2	4.8	2.0	113.6	II B b 1	
163-3・-	打製石斧	フク土	砂岩	8.6	4.9	2.6	116.7	I B g 1	
163-4・88	打製石斧	フク土	砂岩	12.1	4.9	1.2	92.1	I A a 1	
163-5・88	打製石斧	フク土	粘板岩	11.5	4.5	2.1	113.4	I A g 1	
163-6・88	打製石斧	フク土	砂岩	11.0	5.6	1.7	115.2	I A c 1	
163-7・88	打製石斧	フク土	凝灰岩	(12.1)	6.5	3.3	340.0	I -- 5	
163-8・88	打製石斧	フク土	砂岩	9.1	6.9	2.1	124.5	IV A d 1	
163-9・88	打製石斧	フク土	砂岩	(10.0)	(8.9)	(3.5)	295.0	IV B d 6	
163-10・-	打製石斧	フク土	砂岩	(8.8)	(4.5)	2.0	87.0	II -- 5	
164-1・88	打製石斧	フク土	砂岩	15.3	7.5	4.2	315.0	I C c 1	

第81表 出土石器一覧表

図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
164-2・88	打製石斧	フク土	砂岩	18.9	5.5	2.7	290.0	I B c 1	
164-3・88	打製石斧	フク土	安山岩	(10.4)	10.0	3.6	405.0	IV A c 3	
164-4・88	磨製石斧	フク土	凝灰岩	(4.5)	(5.3)	(2.7)	115.0	II A e 5	
164-5・88	石匙	フク土	砂岩	(8.6)	(8.1)	1.5	110.2	I B	
164-6・88	石匙	フク土	砂岩	6.6	7.9	1.4	56.5	I B	
165-1・88	叩き石	フク土	凝灰岩	11.5	3.6	2.5	134.5	II b	
165-2・88	叩き石	フク土	凝灰岩	12.0	3.6	2.4	164.5	II b	
165-3・88	叩き石	フク土	砂岩	19.7	8.4	4.7	890.0	II b	
165-4・88	打素	フク土	砂岩	7.6	2.8	1.1	22.5	V	
165-5・88	打素	フク土	砂岩	3.4	3.3	0.7	7.8	V	
165-6・88	剥片	フク土	砂岩	9.9	10.8	3.5	360.0		
165-7・-	残核	フク土	砂岩	9.4	6.4	5.1	360.0		
166-1・89	磨石	フク土	砂岩	13.3	11.5	10.0	2100.0	III	
166-2・89	磨石	フク土	砂岩	11.1	8.4	4.9	460.0	I b	
166-3・89	磨石	フク土	砂岩	(8.0)	4.1	(2.6)	108.9	II b	
166-4・89	磨石	フク土	砂岩	3.7	3.7	3.0	52.4	III	
166-5・-	石皿	フク土	花崗岩	(18.3)	(18.6)	4.7	2065.0	II	
52号 住居址									
図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
167-1・89	打製石斧	フク土	砂岩	(9.7)	(5.4)	1.9	104.7	I -- 6	
167-2・89	打製石斧	フク土	ホルンフェルス	9.0	4.6	1.9	93.8	I B f 1	
167-3・89	打製石斧	フク土	砂岩	(7.8)	5.2	1.0	67.7	I C c 3	
167-4・89	打製石斧	フク土	凝灰岩	11.7	5.2	2.1	137.5	II A h 1	
167-5・89	打製石斧	フク土	砂岩	12.1	5.8	1.5	119.7	I C c 1	
167-6・89	打製石斧	フク土	砂岩	(9.4)	6.8	2.0	130.0	I C g 3	
167-7・89	石皿	炉	砂岩	34.5	13.4	7.4	4810.0	II	炉石
167-8・-	打素	フク土	凝灰岩	11.7	7.1	4.4	470.0	V	

第82表 出土石器一覧表

53号 住居址									
図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
168-1・89	打製石斧	フク土	安山岩	11.0	4.6	1.2	66.1	II A b 1	
168-2・89	打製石斧	フク土	砂岩	10.6	3.9	1.5	73.8	I A g 1	
168-3・89	打製石斧	フク土	砂岩	13.2	4.6	2.2	153.0	I A c 1	
168-4・89	打製石斧	フク土	ホルンフェルス	9.3	5.4	2.2	130.2	I A g 1	
168-5・89	打製石斧	フク土	砂岩	(4.8)	(8.8)	(1.9)	95.5	II -- 3	
168-6・89	打製石斧	フク土	頁岩	(4.2)	(4.5)	(1.7)	33.2	I D d 3	
168-7・89	磨製石斧	フク土	礫岩	(3.4)	(4.7)	(2.2)	43.5	II A a 5	
168-8・89	磨石	フク土	花崗岩	5.1	4.8	1.5	42.6	I a	
168-9・89	スタンプ	フク土	砂岩	8.0	13.0	7.6	985.0	II C c	
168-10・89	打素	フク土	砂岩	10.7	4.0	2.2	91.2	V	
168-11・89	打製石斧	フク土	安山岩	8.4	9.6	3.1	285.0		
54号 住居址									
図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
169-1・90	打製石斧	フク土	砂岩	9.2	5.4	1.7	101.2	IV B e 1	
169-2・90	打製石斧	フク土	頁岩	9.2	4.9	2.2	89.0	IV A d 1	
169-3・90	打製石斧	フク土	砂岩	10.3	4.2	1.9	88.9	I C d 1	
169-4・90	打素	フク土	珪質頁岩	8.5	5.7	2.3	130.0	V	
169-5・90	打製石斧	フク土	砂岩	(9.2)	4.2	1.7	75.7	I -- 6	
55号 住居址									
図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
169-6・90	打製石斧	フク土	砂岩	7.7	4.1	1.1	40.5	I B c 1	
169-7・90	打製石斧	フク土	粘板岩	8.3	3.8	1.0	34.3	I A d 1	
169-8・90	打製石斧	フク土	砂岩	(10.1)	4.5	1.8	120.0	I -- 2	
169-9・90	打製石斧	フク土	凝灰岩	17.1	9.7	4.2	740.0	III A h 1	
169-10・90	打製石斧	フク土	砂岩	10.6	4.0	1.4	63.6	I B i 1	
170-1・90	打製石斧	フク土	砂岩	11.2	4.1	1.9	89.3	I C g 1	
170-2・90	磨石	フク土	ホルンフェルス	13.2	4.8	8.3	760.0	I b	

第83表 出土石器一覧表

図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
170-3-90	叩き石	フク土	砂岩	14.8	4.9	4.4	445.0	II b	
170-4-90	石皿	炉	花崗岩	50.6	17.0	12.4	1500.0	I a	炉石
170-5-90	打素	フク土	砂岩	8.7	5.4	1.5	73.2	V	
62号 住居址									
図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
170-6-90	打製石斧	フク土	砂岩	(11.4)	5.3	1.9	149.8	IC i 3	
33号 住居址									
図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
171-1-91	石錐	フク土	黒曜石	2.7	1.8	0.8	2.6		
171-2-91	石錐	小穴	チャート	4.8	3.0	0.8	9.8		
171-3-91	打製石斧	フク土	砂岩	7.0	4.0	1.6	46.0	IA c 1	
171-4-91	打製石斧	フク土	砂岩	9.1	6.3	2.2	134.3	IV B i 1	
171-5-91	打製石斧	フク土	砂岩	10.7	4.6	1.6	84.0	IA c 1	
171-6-91	打製石斧	フク土	砂岩	11.2	4.2	2.0	123.5	IA d 1	
171-7-91	打製石斧	フク土	砂岩	10.4	6.1	2.0	119.0	II B h 1	
171-8-91	打製石斧	フク土	珪質頁岩	11.1	5.6	1.7	138.0	IC g 1	
171-9-91	打製石斧	フク土	砂岩	11.8	6.3	3.2	245.0	IC g 1	
171-10-91	打製石斧	フク土	砂岩	13.2	5.2	2.4	195.2	IA d 1	
172-1-91	打製石斧	フク土	砂岩	10.4	6.0	1.8	93.0	II C b 1	
172-2-91	打製石斧	フク土	砂岩	12.5	4.3	1.8	116.5	IA c 1	
172-3-91	叩き石	フク土	チャート	5.5	4.6	2.9	137.0	II b	
172-4-91	叩き石	フク土	砂岩	11.3	4.8	3.5	280.0	II b	
172-5-91	叩き石	フク土	硬砂岩	9.7	3.7	2.4	125.5	II b	
172-6-91	スタンプ	フク土	砂岩	9.3	5.2	3.7	335.0	IA	磨面有り
172-7-91	磨石	フク土	砂岩	6.7	5.9	1.6	84.0	I a	
172-8-91	磨石	床上	砂岩	7.0	4.5	3.5	137.0	I b	
172-9-91	磨石	フク土	砂岩	17.0	6.8	4.3	650.0	I a	
173-1-91	磨石	土壙	砂岩	13.9	10.9	6.0	1380.0	I a	

第84表 出土石器一覧表

図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
173-2-91	磨石	フク土	砂岩	10.2	9.1	2.2	340.0	I a	
173-3-一	石皿	フク土	砂岩	(17.0)	(15.4)	10.6	4000.0	Ⅲ	
173-4-91	石皿	土壌	砂岩	(14.2)	(10.7)	2.8	410.0	Ⅱ	
173-5-91	剥片	フク土	砂岩	7.7	4.3	1.1	35.0		
34号住居址									
図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
174-1-92	石鏃	フク土	黒曜石	1.3	1.2	0.3	0.3	Ⅱ b 1	
174-2-92	石鏃	フク土	黒曜石	1.4	1.1	0.2	0.2	I a 1	
174-3-92	石鏃	フク土	チャート	2.3	1.8	0.3	0.9	Ⅱ b 1	
174-4-92	石鏃	フク土	黒曜石	2.3	1.4	0.5	1.0	Ⅱ b 1	
174-5-92	石鏃	小穴	チャート	(2.4)	(1.8)	0.3	1.2	I a 4	
174-6-92	石鏃	フク土	黒曜石	(1.3)	(1.0)	(0.2)	0.2	Ⅱ-3	
174-7-92	石鏃	フク土	黒曜石	1.7	1.3	0.4	0.8		未製品
174-8-92	石鏃	フク土	チャート	(2.1)	1.8	0.4	1.4	Ⅱ	
174-9-92	石鏃	フク土	黒曜石	(2.0)	(1.1)	(0.2)	0.4	- b 3・4	
174-10-92	石鏃	フク土	黒曜石	(0.9)	2.0	0.3	(0.2)	- e 3	
174-11-92	石鏃	フク土	黒曜石	1.5	3.2	0.4	1.8		未製品
174-12-92	削器	フク土	黒曜石	3.4	2.0	0.7	3.0	I B b・c	
174-13-92	搔器	フク土	頁岩	2.9	2.7	1.1	6.7	I A b	
174-14-92	剥片	フク土	チャート	3.8	3.1	1.1	9.0		二次加工有り
174-15-92	打製石斧	フク土	粘板岩	(8.5)	3.7	0.7	30.8	I A c 1	
174-16-92	打製石斧	フク土	安山岩	8.6	6.1	1.3	87.4	Ⅳ B c 1	
174-17-92	打製石斧	フク土	砂岩	8.2	4.9	2.0	74.9	Ⅳ C d 1	
174-18-92	打製石斧	床上	珪質頁岩	(8.8)	4.5	1.6	80.0	I B d 1	
174-19-92	打製石斧	フク土	砂岩	10.3	5.0	1.4	71.0	Ⅱ A d 1	
174-20-92	打製石斧	フク土	砂岩	10.0	5.6	2.5	160.0	I A i 1	
174-21-92	打製石斧	フク土	砂岩	10.4	5.3	1.4	86.0	I C d 1	
175-1-92	打製石斧	フク土	頁岩	(10.1)	3.8	2.4	99.8	I -- 6	
175-2-92	打製石斧	フク土	砂岩	11.2	5.0	1.2	85.6	I A d 1	

第85表 出土石器一覧表

図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
175-3-92	打製石斧	フク土	安山岩	9.7	6.1	1.9	117.1	IV B d 1	
175-4-92	打製石斧	フク土	礫岩	(11.6)	3.9	1.8	93.5	I -- 6	
175-5-92	打製石斧	床上	砂岩	11.7	5.2	1.9	120.0	I A c 1	
175-6-92	打製石斧	床上	砂岩	11.4	5.7	2.5	187.0	I A i 1	
175-7-92	打製石斧	フク土	硬砂岩	11.6	5.1	1.9	117.0	II B c 1	
175-8-92	打製石斧	フク土	砂岩	12.8	5.3	1.9	146.0	II A h 1	
175-9-92	打製石斧	フク土	砂岩	12.0	5.1	1.9	131.8	I A h 1	
175-10-92	打製石斧	フク土	粘板岩	10.8	5.6	1.4	90.1	II A d 1	
175-11-93	打製石斧	フク土	安山岩	(9.0)	(6.0)	(1.3)	95.7	I -- 5	
176-1-93	打製石斧	フク土	砂岩	11.3	5.7	1.3	90.0	I -- 6	
176-2-93	打製石斧	フク土	砂岩	13.6	5.0	1.6	112.0	I A e 1	
176-3-93	打製石斧	フク土	砂岩	12.4	5.1	2.2	197.0	I A i 1	
176-4-93	打製石斧	フク土	砂岩	12.3	6.3	2.7	210.0	II B g 1	
176-5-93	打製石斧	フク土	砂岩	13.1	6.3	2.5	200.0	I A c 1	
176-6-93	打製石斧	フク土	砂岩	(17.2)	6.2	3.0	300.0	I -- 6	
176-7-93	打製石斧	床上	礫岩	14.4	5.5	2.0	200.0	I C d 1	
177-1-93	打製石斧	床上	砂岩	12.8	5.7	2.8	210.0	II C b 1	
177-2-93	打製石斧	フク土	珪質貞岩	13.4	5.6	1.9	166.9	II A a 1	
177-3-93	打製石斧	フク土	砂岩	14.0	6.5	1.8	195.0	II A d 1	
177-4-93	打製石斧	フク土	砂岩	(9.6)	6.5	3.2	240.0	I B i 3	
177-5-93	打製石斧	フク土	砂岩	(9.1)	5.1	1.7	69.4	I A b 3	
177-6-93	打製石斧	フク土	砂岩	(9.5)	5.3	2.8	136.0	I A g 3	
177-7-93	打製石斧	床上	砂岩	(8.7)	7.4	(2.1)	151.0	I A i 5	
177-8-93	打製石斧	フク土	礫岩	6.7	5.6	2.4	76.9	V C i 1	
178-1-93	打製石斧	フク土	泥岩	(10.0)	(7.8)	2.4	159.8	III -- 4	
178-2-93	打製石斧	フク土	砂岩	(11.1)	7.5	2.1	210.0	I A i 5	
178-3-93	スタンプ	床上	砂岩	12.1	4.8	3.4	410.0	I B b	
178-4-93	スタンプ	フク土	泥岩	13.2	5.8	4.1	430.0	I A	
178-5-93	叩き石	床上	砂岩	17.2	6.3	4.0	549.0	II b	

第86表 出土石器一覧表

図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
178-6・93	叩き石	フク土	砂岩	12.5	4.8	4.1	348.0	Ⅱ b	
178-7・93	磨製石斧	フク土	硬砂岩	13.6	4.3	2.7	298.0	Ⅱ A a 1	
179-1・93	磨石	フク土	砂岩	11.1	7.0	3.3	385.0	I b	凹石
179-2・94	磨石	フク土	砂岩	8.9	8.6	3.8	422.0	I a	
179-3・94	磨石	床上	砂岩	18.4	6.1	3.9	575.0	Ⅱ a	
179-4・94	石皿	フク土	花崗岩	(14.3)	(8.1)	(3.9)	664.0	I	
179-5・-	石皿	床上	花崗岩	(14.0)	(5.8)	(8.2)	688.0	I	
179-6・94	石皿	床上	砂岩	(11.2)	(12.1)	(7.2)	1000.0	I	
179-7・94	石皿	フク土	花崗岩	55.0	34.4	5.4	14900.0	I	
180-1・-	石皿	炉	花崗岩	(31.0)	(28.0)	(16.4)	18300.0	Ⅲ	炉石
180-2・-	石皿	フク土	花崗岩	(18.5)	(17.8)	(13.0)	4900.0	Ⅲ	
180-3・-	石皿	炉	花崗岩	(25.6)	(13.8)	(23.8)	10600.0	Ⅲ	炉石
180-4・-	打素	フク土	安山岩	14.9	13.0	4.5	680.0	V	
180-5・94	礫器	フク土	硬砂岩	7.9	7.2	3.3	210.0		
180-6・94	剥片	フク土	粘板岩	7.3	3.8	1.4	48.0		両極に打点有り
36号住居址									
図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
181-1・95	剥片	フク土	黒曜石	5.2	1.9	0.7	5.7		二次加工有り
181-2・95	磨製石斧	フク土	砂岩	5.8	2.3	0.8	15.5	Ⅱ A b 1	
181-3・95	打製石斧	フク土	砂岩	(5.1)	(3.4)	1.8	41.0	I -- 5	
181-4・95	打製石斧	フク土	片岩	(7.0)	3.0	1.2	36.3	I -- 2	
181-5・95	打製石斧	フク土	安山岩	9.7	5.2	1.5	79.0	Ⅱ B g 1	
181-6・95	打製石斧	フク土	砂岩	10.9	4.7	1.5	90.0	I A c 1	
181-7・95	打製石斧	フク土	粘板岩	10.7	5.9	1.6	115.3	I B e 1	
181-8・95	打製石斧	フク土	砂岩	11.3	6.7	2.6	200.0	I A c 1	
181-9・95	打製石斧	小穴	安山岩	11.9	4.3	2.3	105.0	I A c 1	
181-10・95	打製石斧	フク土	砂岩	14.2	6.4	1.6	173.5	Ⅱ B c 1	
181-11・95	打製石斧	フク土	砂岩	13.5	6.1	2.1	161.0	Ⅱ C h 1	
182-1・95	打製石斧	フク土	安山岩	14.9	6.4	1.4	132.9	Ⅱ A h 1	

第87表 出土石器一覧表

図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
182-2-95	打製石斧	フク土	砂岩	(8.7)	5.2	2.8	164.0	I -- 5	
182-3-95	搔器	フク土	頁岩	6.6	9.8	1.5	82.0	I A a	
182-4-95	叩き石	フク土	砂岩	18.9	6.2	2.6	510.0	II b	
182-5-95	磨石	フク土	花崗岩	9.1	6.0	4.2	340.0	I a	
182-6-95	磨石	フク土	砂岩	(12.4)	9.0	4.1	585.0	I a	
182-7-95	磨石	フク土	砂岩	(11.6)	4.9	3.6	225.0	II b	
182-8-95	磨石	フク土	花崗岩	25.0	8.1	4.1	1500.0	I a	
183-1-95	石皿	フク土	花崗岩	23.5	22.1	5.0	3900.0	I	
183-2-95	石皿	フク土	緑泥片岩	(11.2)	(9.3)	(4.9)	545.0	II	
183-3-95	石皿	フク土	砂岩	(10.4)	(8.9)	(5.3)	515.0	II	
183-4-96	剥片	フク土	砂岩	10.5	7.6	1.3	87.9		
183-5-96	剥片	フク土	安山岩	10.9	12.9	3.3	430.0		
39号 住居址									
図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
184-1-94	打製石斧	フク土	砂岩	7.8	3.8	1.0	32.2	I A c 1	
184-2-94	打製石斧	フク土	粘板岩	8.7	4.2	1.3	48.3	I A d 1	
184-3-94	打製石斧	フク土	安山岩	9.4	4.7	1.3	54.4	V C h 1	
184-4-94	打製石斧	フク土	安山岩	10.1	4.7	1.8	80.0	I C a 1	
184-5-94	打製石斧	フク土	安山岩	10.6	4.6	1.3	81.4	I A h 1	
184-6-94	打製石斧	フク土	粘板岩	10.4	3.9	1.5	65.3	I A b 1	
184-7-94	打製石斧	フク土	砂岩	(10.1)	(4.6)	1.8	84.2	II C b 2	
184-8-94	打製石斧	フク土	砂岩	10.2	4.6	2.7	110.8	I A c 1	
184-9-94	打製石斧	フク土	砂岩	11.9	4.5	1.5	80.5	II C c 1	
184-10-94	打製石斧	フク土	安山岩	14.9	4.6	2.2	157.5	I A b 1	
38号 住居址									
図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
185-1-96	打製石斧	フク土	粘板岩	8.6	3.9	1.5	60.9	I B i 1	
185-2-96	打製石斧	フク土	砂岩	7.3	5.3	1.9	87.6	IV B i 1	

第88表 出土石器一覧表

図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
185-3-96	打製石斧	フク土	粘板岩	10.4	5.7	1.3	61.5	I C c 1	
185-4-96	打製石斧	フク土	砂岩	11.2	6.6	2.0	144.5	IV C d 1	
185-5-96	打製石斧	フク土	砂岩	(7.1)	3.7	1.0	32.8	I B i 3	
46号 住居址									
図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
185-6-96	石錐	フク土	黒曜石	2.7	1.2	0.5	1.2		
185-7-96	石錐	フク土	黒曜石	2.7	1.5	0.7	1.9		
185-8-96	打製石斧	フク土	粘板岩	9.2	5.0	1.4	62.0	I C h 1	
185-9-96	打製石斧	フク土	砂岩	10.3	5.8	2.1	142.0	II C a 1	
185-10-96	打製石斧	フク土	砂岩	12.7	5.1	1.6	111.0	I A i 1	
185-11-96	打製石斧	フク土	砂岩	12.5	4.6	1.9	128.0	I A c 1	
185-12-96	打製石斧	フク土	砂岩	10.8	5.9	2.4	128.0	I A d 1	
186-1-96	打製石斧	フク土	砂岩	11.9	5.2	1.6	111.0	II A c 1	
186-2-96	打製石斧	フク土	砂岩	(15.2)	5.5	2.6	239.0	I -- 6	
186-3-96	打製石斧	フク土	安山岩	10.7	5.7	1.7	103.0	I A c 1	
186-4-96	打製石斧	フク土	砂岩	(6.5)	(10.3)	(2.9)	234.0	- A d 5	
186-5-96	打製石斧	フク土	砂岩	(10.0)	6.0	1.8	118.0	II A a 3	
186-6-96	打製石斧	フク土	粘板岩	(11.0)	5.9	1.6	135.0	I A e 3	
186-7-96	叩き石	フク土	砂岩	7.8	5.3	2.9	151.0	II b	
186-8-96	磨製石斧	フク土	凝灰岩	10.5	5.1	3.0	329.0	II A h 1	
186-9-96	叩き石	フク土	砂岩	9.9	3.5	2.3	99.0	II b	
186-10-96	叩き石	フク土	砂岩	5.5	5.1	2.3	81.0	II b	
187-1-96	石皿	フク土	緑泥片岩	22.6	11.4	5.0	1523.0	I	
187-2-一	剥片	フク土	砂岩	22.2	10.3	5.2	634.0		
187-3-一	石皿	畑	砂岩	(18.7)	(11.0)	(4.1)	920.0	II	畑石
187-4-一	分割磔	フク土	砂岩	22.8	28.6	11.6	6738.0		

第89表 出土石器一覧表

47号 住居址									
図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
187-5-97	打製石斧	フク土	粘板岩	8.6	6.0	1.2	61.0	IV B d 1	
187-6-97	打製石斧	フク土	安山岩	12.6	5.0	3.0	158.0	I A g 1	
187-7-97	磨石	フク土	砂岩	10.0	6.0	3.6	284.0	I b	
187-8-97	磨石	フク土	砂岩	11.5	8.6	2.2	350.0	I b	
188-1-97	磨石	フク土	砂岩	19.8	6.3	5.0	809.0	II b	
188-2-97	叩き石	フク土	砂岩	20.4	5.9	5.0	720.0	III b	
188-3-一	石皿	フク土	花崗岩	(9.9)	16.0	11.2	2100.0	III	
188-4-一	石皿	フク土	緑泥片岩	8.7	4.7	1.8	76.0	I	
188-5-97	浮子	フク土	軽石	13.5	7.6	1.9	180.0		
188-6-一	石核	フク土	安山岩	6.5	9.8	4.1	314.0		
59号 住居址									
図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
189-1-98	打製石斧	フク土	砂岩	10.4	4.2	1.5	77.2	I A a 1	
189-2-98	打製石斧	小穴	安山岩	10.6	5.1	1.5	92.7	I A c 1	
189-3-98	打製石斧	床上	砂岩	9.9	6.1	1.9	147.4	I A d 1	
189-4-98	磨石	床上	砂岩	13.8	7.0	3.4	500.0	I b	
189-5-98	磨石	フク土	花崗岩	14.8	6.8	6.0	810.0	I a	
41・60号 住居址									
図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
189-6-98	削器	フク土	砂岩	7.8	4.9	1.0	34.0	I A a	
189-7-98	打製石斧	フク土	粘板岩	8.1	5.1	1.5	69.2	IV C f 1	
189-8-98	打製石斧	フク土	安山岩	6.6	5.7	2.2	93.6	IV B c 1	
189-9-98	打製石斧	フク土	砂岩	10.6	4.3	1.6	81.3	I D e 1	
189-10-98	打製石斧	フク土	頁岩	9.9	4.4	1.6	80.0	I B c 1	
189-11-98	打製石斧	フク土	安山岩	8.1	4.8	1.8	63.7	IV C b 1	
190-1-98	打製石斧	フク土	砂岩	12.5	4.3	1.5	104.0	I A a 1	
190-2-98	打製石斧	フク土	ホルンフェルス	10.6	5.4	1.5	88.0	II C c 1	

第90表 出土石器一覧表

図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
190-3-98	打製石斧	フク土	粘板岩	11.7	4.8	1.4	87.6	I A d 1	
190-4-98	打製石斧	フク土	砂岩	15.9	6.6	1.7	193.5	I C c 1	
190-5-98	打製石斧	フク土	ホルン フェルス	10.4	7.6	2.7	99.9	IV A h 1	
190-6-98	打製石斧	フク土	安山岩	12.6	4.8	1.7	102.2	I D g 1	
190-7-98	叩き石	フク土	砂岩	13.5	5.9	3.8	352.0	II b	
190-8-98	叩き石	フク土	砂岩	12.8	6.2	2.7	296.0	II b	
191-1-98	叩き石	フク土	花崗岩	14.2	5.1	3.0	275.0	II b	
191-2-98	剥片	床上	安山岩	6.2	6.7	1.5	68.0		
191-3-〃	石皿	炉	花崗岩	27.4	10.8	10.6	4800.0	II	炉石
191-4-98	打製石斧	フク土	砂岩	15.5	8.1	4.4	575.0	I C d 1	
191-5-〃	石皿	炉	砂岩	28.4	15.8	10.8	6200.0	II	炉石
191-6-98	台石	フク土	砂岩	10.4	8.6	5.0	410.0		
57号 住居址									
図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
192-1-97	打製石斧	フク土	砂岩	8.9	4.1	1.4	52.9	I A a 1	
192-2-97	打製石斧	フク土	硬砂岩	9.7	4.0	1.2	57.0	I A h 1	
192-3-97	打製石斧	フク土	砂岩	9.6	6.5	2.0	119.2	IV B d 1	
192-4-97	打製石斧	フク土	砂岩	10.2	4.0	2.0	81.0	I A e 1	
192-5-97	打製石斧	フク土	砂岩	9.0	4.0	1.9	88.7	II B h 1	
192-6-97	打製石斧	フク土	砂岩	10.5	4.6	2.0	92.7	I B i 1	
192-7-97	打製石斧	フク土	砂岩	12.3	4.5	2.6	131.4	I C d 1	
192-8-97	打製石斧	フク土	砂岩	12.5	5.3	1.5	96.7	I A c 1	
192-9-97	打製石斧	フク土	砂岩	13.9	5.4	1.9	157.2	I B b 1	
192-10-97	搔器	フク土	安山岩	6.3	11.1	2.7	153.1	I A a	
192-11-97	叩き石	フク土	凝灰岩	7.2	2.7	1.9	59.8	II b	
193-1-97	叩き石	フク土	凝灰岩	15.5	5.1	4.8	590.0	II b	
193-2-97	磨石	フク土	砂岩	7.2	7.5	3.0	166.2	I b	
193-3-97	打素	フク土	砂岩	10.3	7.4	3.3	210.4	V	
193-4-97	磨石	フク土	花崗岩	8.2	7.7	3.9	410.0	I b	

第91表 出土石器一覧表

図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
193-5-97	打素	フク土	砂岩	18.3	8.1	3.7	680.0	V	
61号 住居址									
図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
194-1-99	石鏃	フク土	黒曜石	1.0	1.1	0.2	0.2	I c 1	
194-2-99	石鏃	床上	黒曜石	1.9	1.1	0.3	0.4	II b 1	
194-3-99	石錐	フク土	黒曜石	3.6	0.9	0.6	1.7		
194-4-99	打製石斧	フク土	緑泥片岩	8.0	5.0	1.4	59.8	IV C g 1	
194-5-99	打製石斧	フク土	安山岩	11.4	5.2	1.8	145.4	II A a 1	
194-6-99	打製石斧	フク土	安山岩	(9.5)	(5.8)	1.6	92.0	II -- 5	
194-7-99	打製石斧	フク土	粘板岩	10.3	4.6	1.2	72.0	I A c 1	
194-8-99	打製石斧	フク土	安山岩	11.9	4.8	1.3	89.4	I A d 1	
194-9-99	打製石斧	床上	砂岩	(12.9)	5.8	1.5	132.0	I A c 2	
194-10-99	打製石斧	フク土	安山岩	12.9	4.7	1.5	112.4	II B g 1	
194-11-99	打製石斧	フク土	珪質頁岩	12.2	7.7	1.4	143.8	IV A g 1	
194-12-99	打製石斧	フク土	砂岩	12.0	6.3	2.1	163.5	II A c 1	
195-1-99	石皿	床上	緑泥片岩	39.8	(22.8)	4.2	3425.0	I	
195-2-99	石皿	床上	花崗岩	(16.0)	(18.0)	4.6	1910.0	II	
土 壙									
図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
196-1-99	打製石斧	56号土	粘板岩	(9.6)	(4.1)	(1.8)	72.2	I A c 6	
196-2-99	打製石斧	58号土	砂岩	11.2	3.5	1.2	60.0	I B c 1	
196-3-99	打製石斧	59号土	片岩	10.5	4.1	1.8	84.3	II A h 1	
196-4-99	打製石斧	59号土	砂岩	(8.1)	5.6	2.9	153.1	I B g 3	
196-5-99	打製石斧	58号土	片岩	(9.4)	4.6	1.8	96.1	I -- 2	
196-6-99	打製石斧	59号土	粘板岩	11.8	6.0	2.1	111.0	II B j 1	
196-7-99	磨石	57号土	花崗岩	10.7	9.0	4.8	650.0	I b	

第92表 出土石器一覽表

先 土 器 時 代									
図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
196-8・101	ナイフ形 石器	包含層	真岩	4.8	1.8	0.8	3.5		V層
196-9・101	搔器	包含層	チャート	3.4	4.6	1.1	16.6		
石 器 接 合 図									
図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
197-1・100	打製石斧	32号住土 壇・床上	粘板岩	7.1	5.2	1.6	58.0	Ⅲ A h 4	
197-2・100	打製石斧	36号住 フク土	粘板岩	7.5	3.9	1.4	48.0	I A f 1	
197-3・100	打製石斧	32号住 フク土	粘板岩	10.6	4.4	1.5	89.0	I C f 1	
197-4・100	打製石斧	49号住 フク土	砂岩	13.0	5.4	1.8	120.0	I A c 1	
197-5-ー	打製石斧	27号住 フク土	砂岩	10.4	5.8	2.1	115.0	I C e 1	
遺 構 外									
図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
198-1・101	石鏃	包含層	珪質頁岩	1.1	1.1	0.2	0.3	I a 1	
198-2・101	石鏃	包含層	黒曜石	1.4	1.3	0.3	0.5	I a 1	
198-3・101	石鏃	包含層	珪質頁岩	1.6	1.4	0.2	0.6	I a 4	
198-4・101	石鏃	包含層	チャート	2.3	1.7	0.4	0.9	I a 1	
198-5・101	石鏃	包含層	黒曜石	3.0	(1.8)	0.4	1.7	I b 4	
198-6・101	石鏃	表土	黒曜石	(1.3)	(1.0)	0.2	0.1	- e 3	
198-7・101	石鏃	包含層	珪質頁岩	2.5	(1.5)	0.4	1.0	I b 4	
198-8・101	石鏃	包含層	珪質頁岩	3.3	(1.5)	0.4	1.1	Ⅱ b 4	
198-9・101	石鏃	包含層	チャート	(3.2)	1.8	0.4	2.4	Ⅱ d 2	
198-10・101	石鏃	包含層	安山岩	(2.4)	(1.6)	0.5	1.6	I a 2・4	
198-11・101	石匙	包含層	黒曜石	1.9	1.8	0.4	1.0	I A a 2	
198-12・101	石匙	包含層	安山岩	5.5	6.4	1.4	49.3	I A b 2	
198-13・101	石匙	包含層	黒曜石	7.4	1.7	0.8	8.2	Ⅱ A b	
198-14・101	打製石斧	表土	ホルン フェルス	6.0	2.8	1.4	32.7	I B a 1	
198-15・101	打製石斧	包含層	粘板岩	(6.1)	3.4	1.0	18.0	I D g 3	
198-16・101	打製石斧	表土	砂岩	7.4	4.2	1.7	71.9	I C e 1	

第93表 出土石器一覽表

図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
198-17・101	打製石斧	包含層	粘板岩	7.6	4.0	1.9	57.0	I A a 1	
198-18・101	打製石斧	表土	珪質頁岩	8.9	3.2	1.4	42.5	I B j 1	
198-19・101	打製石斧	包含層	粘板岩	(9.0)	2.7	0.8	28.1	II -- 2	
198-20・101	打製石斧	表土	砂岩	9.0	3.3	1.2	34.2	I C g 1	
198-21・101	打製石斧	表土	安山岩	8.8	5.0	1.1	55.0	I A h 1	
198-22・101	打製石斧	包含層	安山岩	7.9	4.6	1.2	50.0	IV A c 1	
198-23・101	打製石斧	包含層	粘板岩	8.0	5.6	1.2	62.0	IV A c 1	
199-1・101	打製石斧	包含層	砂岩	(7.8)	4.5	1.8	88.9	I -- 2	
199-2・101	打製石斧	表土	砂岩	7.9	5.6	2.3	122.6	IV B e 1	
199-3・101	打製石斧	包含層	粘板岩	9.9	5.3	1.6	86.0	III A h 1	
199-4・101	打製石斧	包含層	安山岩	8.1	6.0	1.8	76.5	IV B c 1	
199-5・101	打製石斧	攪乱	安山岩	8.2	6.4	1.6	85.1	IV A c 1	
199-6・102	打製石斧	包含層	安山岩	10.6	3.5	1.3	50.0	I D c 1	
199-7・102	打製石斧	包含層	ホルンフェルス	(9.4)	5.1	2.0	109.4	IV A a 2	
199-8・102	打製石斧	包含層	硬砂岩	8.6	6.6	2.0	101.0	IV C d 1	
199-9・102	打製石斧	表土	砂岩	10.7	3.9	1.3	62.2	I A c 1	
199-10・102	打製石斧	包含層	砂岩	14.0	5.3	2.3	196.9	I B a 1	
199-11・102	打製石斧	包含層	砂岩	14.0	5.0	2.1	145.7	I A h 1	
199-12・102	打製石斧	表土	砂岩	(12.5)	4.4	1.8	92.0	I -- 2	
200-1・102	打製石斧	包含層	砂岩	9.7	5.5	1.9	105.6	I B g 1	
200-2・102	打製石斧	包含層	砂岩	9.0	6.3	1.5	88.0	IV B g 1	
200-3・102	打製石斧	攪乱	花崗岩	11.2	3.8	1.6	79.0	I C f 1	
200-4・102	打製石斧	包含層	砂岩	11.2	5.6	1.7	142.4	I A e 1	
200-5・102	打製石斧	包含層	砂岩	10.7	5.0	2.1	133.0	II C a 1	
200-6・102	打製石斧	包含層	砂岩	11.3	4.6	2.0	107.8	I A g 1	
200-7・102	打製石斧	包含層	砂岩	9.2	6.6	2.4	143.6	IV B d 1	
200-8・102	打製石斧	包含層	安山岩	11.0	5.1	1.3	74.9	II A c 1	
200-9・102	打製石斧	包含層	砂岩	13.1	3.8	2.0	117.3	I C e 1	
200-10・102	打製石斧	包含層	粘板岩	13.7	6.4	1.4	153.6	III A d 1	
200-11・102	打製石斧	包含層	ホルンフェルス	8.7	10.1	2.2	188.2	IV B e 1	

第94表 出土石器一覧表

図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
201-1・102	打製石斧	包含層	安山岩	12.2	4.2	1.6	108.9	I C i 1	
201-2・102	打製石斧	包含層	砂岩	11.5	6.3	2.0	139.5	Ⅲ A d 1	
201-3・102	打製石斧	包含層	砂岩	12.2	5.1	2.0	134.0	Ⅱ A c 1	
201-4・102	打製石斧	包含層	安山岩	10.6	6.5	2.9	157.5	Ⅳ A c 1	
201-5・102	打製石斧	包含層	珪質頁岩	11.2	6.6	2.4	146.0	Ⅳ B d 1	
201-6・102	打製石斧	包含層	安山岩	(12.6)	(5.8)	1.9	140.9	Ⅱ B g 2	
201-7・103	打製石斧	包含層	砂岩	12.3	6.7	2.5	240.0	Ⅱ C d 1	
201-8・103	打製石斧	包含層	砂岩	9.0	7.7	3.2	257.0	V A a 1	
201-9・103	打製石斧	包含層	安山岩	9.3	6.7	1.8	109.3	Ⅳ C g 1	
202-1・103	打製石斧	包含層	安山岩	(11.9)	8.2	1.7	160.0	I A h 3	
202-2・103	打製石斧	包含層	砂岩	14.7	6.8	1.5	151.4	Ⅱ B j 1	
202-3・103	打製石斧	包含層	砂岩	15.0	6.0	2.4	270.0	I B a 1	
202-4・103	打製石斧	包含層	砂岩	14.4	5.7	1.3	139.6	I A c 1	
202-5・103	打製石斧	包含層	砂岩	17.7	7.0	2.2	287.0	Ⅱ C c 1	
202-6・103	打製石斧	包含層	砂岩	18.2	5.5	3.1	405.0	I B e 1	
203-1・103	打製石斧	包含層	砂岩	15.6	4.8	2.5	177.8	I A d 1	
203-2・103	打製石斧	包含層	ホルンフェルス	15.3	10.7	3.6	560.0	Ⅳ B d 1	
203-3・103	打製石斧	包含層	砂岩	(14.2)	(6.4)	3.7	420.0	I -- 2	
203-4・103	打製石斧	表土	チャート	(11.3)	5.7	3.6	349.0	I C a 3	
203-5・103	磨製石斧	包含層	砂岩	(10.9)	6.0	3.2	280.0	I -- 2	
203-6・103	打製石斧	包含層	砂岩	13.0	6.2	2.2	250.0	I B a 1	
204-1・103	磨製石斧	包含層	泥岩	(7.3)	3.8	(1.7)	64.1	Ⅱ C e 3	
204-2・103	スタンプ	包含層	砂岩	10.4	7.2	5.2	550.0	Ⅱ B b	
204-3・103	叩き石	包含層	砂岩	(14.6)	5.9	4.5	570.0	Ⅱ b	
204-4・103	叩き石	表土	花崗岩	10.8	4.3	3.1	220.0	Ⅱ b	
204-5・103	叩き石	包含層	砂岩	10.6	3.0	2.6	121.0	Ⅱ b	
204-6・103	叩き石	表土	安山岩	14.0	3.9	2.4	210.0	Ⅱ b	
204-7・104	磨石	包含層	花崗岩	13.3	9.8	7.7	1390.0	I a	
204-8・104	磨石	包含層	溶岩	8.2	8.3	3.5	230.0	I a	
205-1・104	磨石	包含層	砂岩	10.6	13.8	6.3	1245.0	I a	

第95表 出土石器一覽表

図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	分類	備考
205-2・104	磨石	表土	花崗岩	15.2	7.7	4.1	690.0	I b	
205-3・104	磨石	包含層	花崗岩	6.2	8.7	4.4	334.0	I b	
205-4・104	磨石	包含層	花崗岩	8.2	7.1	4.9	460.0	I b	
205-5・104	石皿	包含層	花崗岩	(25.2)	(14.0)	6.0	1985.0	II	
205-6・—	石皿	包含層	花崗岩	(15.5)	(14.1)	12.5	3850.0	III	
205-7・104	石皿	攪乱	花崗岩	(16.6)	(15.3)	6.5	2180.0	II	
206-1・104	石皿	包含層	花崗岩	44.2	16.6	12.4	13800.0	III	
206-2・104	石皿	包含層	花崗岩	(11.0)	22.8	6.8	2300.0	I	
206-3・104	棒状礫	包含層	砂岩	11.6	5.1	3.3	360.0		
206-4・104	棒状礫	包含層	砂岩	10.2	5.6	2.7	280.0		
206-5・—	打素	包含層	安山岩	11.9	8.6	3.3	320.0	V	
206-6・—	打素	包含層	砂岩	15.9	6.4	3.4	440.0	V	
207-1・—	打素	包含層	砂岩	11.3	7.7	1.7	194.0	V	
207-2・104	浮子	包含層	軽石	13.4	8.3	2.8	198.5		
207-3・104	石錘	包含層	砂岩	7.0	7.6	2.2	154.6		
207-4・—	台石	包含層	砂岩	16.8	33.8	9.6	5393.0		
207-5・—	石核	包含層	チャート	7.3	9.5	3.9	279.0		
207-6・104	砥石	包含層	砂岩	19.8	19.7	6.8	2500.0		

第96表 土製品・石製品一覧表

土製品							
図面・図版	種別	出土位置	径 cm	厚さ cm	重量 g	部位・文様構成	備考
208-1・105	土製円板	26号住 フク土	4.4	1.8	45.7	沈線	
208-2・105	土製円板	26号住 フク土	3.2	1.1	14.4	R L縄文、沈線	
208-3・105	土製円板	26号住 フク土	2.7	1.0	8.7	沈線	
208-4・105	土製円板	26号住 フク土	1.9	1.1	5.7	沈線	
208-5・105	土製円板	27号住 フク土	4.3	1.0	18.5	L撚糸文	
208-6・105	土製円板	27号住 フク土	3.7	1.6	27.0	R L縄文	
208-7・105	土製円板	27号住 フク土	3.1	1.3	15.6	R L縄文	
208-8・105	土製円板	27号住 フク土	3.0	1.2	11.9	無文	
208-9・105	土製円板	27号住 フク土	2.9	1.4	12.5	R L縄文	
208-10・105	土製円板	27号住 フク土	3.0	1.3	12.1	沈線	
208-11・105	土製円板	27号住 フク土	2.5	0.8	6.2	沈線	
208-12・105	土製円板	28号住 フク土	4.6	1.1	24.9	無文	
208-13・105	土製円板	29号住 フク土	3.1	1.0	10.4	無文	
208-14・105	土製円板	29号住 フク土	3.6	1.1	13.2	L撚糸文	
208-15・105	土製円板	32号住 土壙	3.9	1.0	21.7	無文	
208-16・105	土製円板	32号住 フク土	2.7	1.2	11.6	沈線	
208-17・105	土製円板	32号住 フク土	3.2	1.0	10.6	無文	
208-18・105	土製円板	32号住 フク土	2.3	0.8	5.7	沈線	
208-19・105	土製円板	33号住 フク土	4.1	1.3	25.1	R L縄文	
208-20・105	土製円板	33号住 フク土	3.5	1.0	15.2	無文	
208-21・105	土製円板	33号住 フク土	2.5	1.1	11.2	無文	
208-22・105	土製円板	33号住 フク土	2.4	0.9	6.1	R L縄文、沈線	
208-23・105	土製円板	34号住 フク土	3.3	1.4	19.9	沈線	
208-24・105	土製円板	34号住 フク土	3.2	1.1	10.9	R L縄文	
208-25・105	土製円板	35号住 フク土	3.1	1.2	15.1	沈線	
208-26・105	土製円板	35号住 フク土	2.9	0.9	9.6	無文	
208-27・105	土製円板	37号住 小穴	2.5	1.1	7.5	沈線	
208-28・105	土製円板	40号住 フク土	4.1	1.3	25.1	沈線	

第97表 土製品・石製品一覧表

図面・図版	種別	出土位置	径 cm	厚さ cm	重量 g	部位・文様構成	備考	
208-29・105	土製円板	42号住 フク土	2.5	0.9	6.7	無文		
208-30・106	土製円板	45号住 フク土	3.0	1.0	12.8	沈線		
209-1・106	土製円板	46号住 床上	3.1	1.0	10.3	条線		
209-2・106	土製円板	50号住 フク土	3.6	1.1	14.9	縄文		
209-3・106	土製円板	51号住 フク土	2.7	0.9	7.3	撚糸文		
209-4・106	土製円板	55号住 フク土	3.9	1.2	17.0	沈線		
209-5・106	土製円板	57号住 フク土	2.7	1.0	9.3	無文		
209-6・106	土製円板	59号住 フク土	3.6	1.1	16.4	R L縄文、沈線		
209-7・106	土製円板	61号住 フク土	3.3	1.1	15.1	無文		
209-8・106	土製円板	61号住 フク土	2.5	1.2	8.3	無文		
209-9・106	土製円板	遺構外 包含層	5.6	1.3	45.7	無文		
209-10・106	土製円板	遺構外 包含層	4.9	1.4	34.8	沈線		
209-11・106	土製円板	遺構外 包含層	3.9	0.9	7.1	無文		
209-12・106	土製円板	遺構外 包含層	3.6	1.1	15.0	無文		
209-13・106	土製円板	遺構外 包含層	4.1	0.9	14.1	無文		
209-14・106	土製円板	遺構外 表土	3.7	1.0	16.6	R L縄文		
209-15・106	土製円板	遺構外 包含層	3.2	1.2	15.7	無文		
209-16・106	土製円板	遺構外 包含層	3.2	1.0	11.9	無文		
209-17・106	土製円板	遺構外 包含層	3.1	0.8	8.8	R L縄文		
209-18・106	土製円板	遺構外 包含層	3.6	1.1	15.2	無文		
209-19・106	土製円板	遺構外 包含層	3.1	1.1	13.2	無文		
209-20・106	土製円板	遺構外 包含層	3.1	1.3	14.8	無文		
209-21・106	土製円板	遺構外 包含層	2.5	1.1	8.5	無文		
209-22・106	土製円板	遺構外 包含層	2.7	1.0	7.2	無文		
209-23・106	土製円板	遺構外 表土	2.4	1.0	5.7	縄文		
図面・図版	種別	出土位置	高さ cm	厚さ cm	幅 cm	重量 g	部位・文様構成	備考
210-1・107	土偶	47号住 フク土	(4.7)	(3.6)	(4.8)	45.0	胴部～脚部 爪形文、列点	
210-2・107	土偶	遺構外 包含層	(5.9)	(2.4)	(3.9)	30.0	頭部～胴部 突起、沈線	
210-3・108	土偶	34号住 フク土	(2.8)	(1.6)	(1.8)	5.8	胴部～脚部 突起、沈線、刻目	

第98表 土製品・石製品一覧表

図面・図版	種別	出土位置	高さ cm	厚さ cm	幅 cm	重量 g	部位・文様構成	備考
210-4・107	土偶	61号住 フク土	6.2	2.3	(4.3)	21.8	全身(左腕欠) 貼付、沈線	
210-5・107	土偶	遺構外 包含層	(3.6)	(1.2)	(2.6)	6.0	胸部 列点、沈線	
210-6・108	土偶	47号住 フク土	(3.3)	(3.2)	(3.1)	21.5	胴部～脚部 沈線、刻目	
210-7・-	土偶	29号住 フク土	(2.8)	(3.4)	(2.3)	19.3	片脚部	
210-8・108	土偶	46号住 フク土	(4.1)	(4.4)	(4.6)	65.7	臀部	
211-1・108	土偶	33号住 フク土	(4.6)	(3.1)	(4.9)	50.2	胴部～脚部 沈線、刻目	
211-6・108	土偶	34号住 フク土	(4.1)	(3.2)	(3.6)	32.4	胴部～脚部 突起、沈線、刻目	
図面・図版	種別	出土位置	長さ cm	最大径 cm	最小径 cm	重量 g	文様構成	備考
211-2・109	耳栓	28号住 フク土	1.7	1.2	1.1	3.0	無文	
211-3・109	耳栓	40号住 小穴	1.5	1.6	1.1	1.8	有孔	
211-4・109	耳栓	26号住 フク土	(1.5)	2.0	1.2	2.9	無文	
211-5・109	耳栓	47号住 フク土	1.4	1.9	1.5	3.6	指頭痕	
図面・図版	種別	出土位置	口径 cm	器高 cm	底径 cm	文様構成		備考
211-7・109	ミニチュ ア土器	32号住 小穴	((2.6))	4.9	2.7	無文		
211-8・-	ミニチュ ア土器	遺構外 包含層	((7.0))	(3.4)	-	口縁部に沈線がめぐり、その下に縦位の沈線		
211-9・109	ミニチュ ア土器	25号住 フク土	3.2	4.1	3.8	指頭痕		
211-10・109	ミニチュ ア土器	61号住 フク土	2.7	2.2	3.1	右上がりの粘土紐巻き上げ痕		
211-11・-	ミニチュ ア土器	32号住 フク土	((4.3))	(2.2)	-	無文		
211-12・-	ミニチュ ア土器	34号住 フク土	((4.0))	(3.8)	-	縦位沈線		
211-13・-	ミニチュ ア土器	遺構外 表土	((3.8))	(3.3)	-	横位・縦位沈線		
211-14・109	ミニチュ ア土器	33号住 フク土	4.0	3.6	2.6	一箇所の突起、口縁部に沈線がめぐる		
211-15・109	ミニチュ ア土器	51号住 フク土	-	(2.0)	((3.8))	斜行沈線		
図面・図版	種別	出土位置	口径 cm	器高 cm	底径 cm	文様構成		備考
212-1・110	器台	47号住 フク土	11.7	6.8	19.6	穿孔、沈線による左右対称の渦巻文		
212-2・110	器台	27号住 フク土	-	(4.1)	((9.9))	刻目、波状沈線		
212-3・110	器台	遺構外 包含層	-	(4.4)	((20.2))	穿孔		
212-4・110	器台	51号住 フク土	-	(2.3)	((11.2))	穿孔		
212-5・110	器台	53号住 フク土	((14.5))	(2.6)	-	穿孔		

第99表 土製品・石製品一覧表

図面・図版	種別	出土位置	口径 cm	器高 cm	底径 cm	文様構成		備考
212-6・110	器台	27号住 フク土	((10.2))	1.5	((10.6))	無文		
212-7・110	器台	遺構外 包含層	((16.8))	(1.3)	—	R L 縄文の斜位施文		
213-4・110	有孔鐔付	遺構外 包含層	((10.6))	(6.0)	—	隆帯 (鐔)		
213-5・—	小形鉢	34号住 小穴	((11.2))	(2.9)	—	無文		
213-6・—	小形鉢	34号住 フク土	((12.0))	(3.9)	—	無文		
213-7・—	小形鉢	34号住 床上	((13.2))	(4.1)	—	無文		
213-8・—	小形鉢	34号住 フク土	((12.2))	(3.1)	—	沈線		
石 製 品								
図面・図版	種別	出土位置	石質	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g	備考
213-1・109	石棒	61号住 フク土	花崗岩	(26.0)	11.3	7.1	3100.0	
213-2・109	石剣	46号住 フク土	緑泥片岩	(10.4)	3.5	1.5	95.6	
213-3・109	石棒	41号住 フク土	石英斑岩	(16.7)	12.4	9.6	2200.0	

VI 小 結

小稿では『恋ヶ窪遺跡調査報告V（図面・写真図版編）』（以下『恋ヶ窪V』と呼称する）を参照し、分かる範囲で縄文中期の土地利用に関しての最低限のコメントをしておきたい。本文中の個別所産時期は「多摩丘陵・武蔵野台地を中心とした縄文中期の時期設定」（いわゆる「新地平編年」）に準拠している。

1. 勝坂式期

中期前半の勝坂式期では、勝坂2式（藤内Ⅰ式期＝7 a・7 b期、藤内Ⅱ式期＝8 a・8 b期）～勝坂3式（井戸尻Ⅰ～Ⅲ式期＝9 a～9 c期）の住居址約20棟が検出された。勝坂式期末（9 c期）から加曽利E式期初頭の住居址については時期決定の決め手になる遺物が少なく明確ではない。7～8期の住居址は調査地区全体に広く分布するが、9期の住居は調査地区のやや西寄りに偏在する傾向がある。8 b期に6棟、9 b期に6棟と一時的に棟数が多い時期もあるが、最近の年代測定（¹⁴C）では8期～9期にかけての1型式の継続期間が比較的長いという測定結果も得られており、その点も勘案すれば同一型式として認識できる堅穴どうしの切り合いこそみられないが、各々が少しずつ時期をずらしながら構築されていたのであろう。当調査地区の8 b期～9 b期にかけての住居では炉が改修され2期にわたる例もみられ（49・51号住居址など）、このことも踏まえてみれば個々の住居の時間的な推移については単純ではなさそうである。また8 a期～9 b期あたりの時間的に近接する遺構の切り合いも確認されるが、中期後半（10期以降とくに12 a期）の住居址との重複箇所（5箇所）もみられ（表 住居址の時期と重複関係 参照）、時間的には相当経過した中期後半との重複率が比較的高いといえよう。覆土中に廃棄された土器が多いのは32号住居址（8 a期）と51号住居址（9 a期）で、各々20個体以上の器形復元可能な個体が出土している。遺構の重複関係と細分された既存の土器型式との大きな矛盾点はみられなかったが、実際には覆土中に住居の構築時以外の前後の時期の資料も多少含まれている。

次に遺物の出土状況について簡単に触れたい。

26号住居址 本住居址は埋甕炉に2個体の深鉢形土器（52-3・52-4）（8 b期）を埋め込んでいる。覆土には大形破片（8 b期）10個体分が投棄されている。頸部横帯楕円区画文系（53-2）などを含み32号住居址などよりも新しい様相をもつ。

27号住居址 本住居址は埋甕炉（9 b期）を有した掘り込みも深くしっかりした住居址であるが、覆土より大形破片が数点（8 a～9 b期）出土している他は小破片が多い。

28号（古）住居址 本住居址（古＝7 b期）は中期後半の住居址（新＝12 a期）と重複する。中期後半に上面が削平されたようで出土土器は少ない。

29号住居址 本住居址は東半分のみ調査であったがパネル文系土器（60-7）など復元可能な大形

破片（8 b期）が出土している。

30号住居址 本住居址は埋甕炉（64-4）（9 b期？）を有するが、覆土に大形破片は少ない。

32号住居址 地床炉のため住居の構築時期を決定し難いが、覆土より横帯区画文系土器（藤内タイプ）（66-4）、多段横帯楕円区画文（67-1）、武蔵野台地に多い円筒形パネル文系（67-2）、中部地方に類例の多いJ字状の懸垂文を有する土器（66-1）等、個体数も多く8 a期の多様なタイプが出土している。中には押引文（キャタピラ文）の残る個体（66-2）も含まれており8期でもより古い様相をもつ。

35号住居址 炉の上層より9 b期の円筒形深鉢（72-2）が出土している。覆土には概ね9 a～9 b期の大型破片、小破片が出土した。「中峠式」系のキャリパー形深鉢（72-9）が出土している。

36号（古）住居址 中期後半の36号（新=12 a期）と重複する。炉体土器にキャリパー形深鉢（3）（9 c期）を用いているが覆土の遺物は少ない。

37号住居址 本住居址は9 b期の所産と思われるが、覆土より中期後半の加曾利E 1式（10 c期）の深鉢が出土している。

40号（古・新）住居址 本住居址は大小2棟の住居址が重複しているが、覆土が浅いためか出土遺物が少なく時期が明確ではないが、覆土より8 b期の土器が出土している。2棟とも8 b期であろうか。

42号住居址 本住居址は炉に浅鉢（8 b期）を埋設したもので、点数は多くはないが覆土中より8 b～9 b期の土器が出土している。多摩地方西部から中部地方に主体的に分布する櫛形文系土器（80-4）が出土している。

45号住居址 本住居址は押引文を多用した個体が目立つことからみても、当調査地区では最も古相の住居址（7 a期）とみられる。パネル文系の大型破片（82-1）が出土している。

48号住居址 覆土には7 b期～中期後半の12 c期までのやや時間幅のある土器を含むが住居の構築時期は8 b期前後であろう。

49号住居址 炉体土器に2個体のパネル文系の深鉢（85-1・85-2）を用いているが、型式上では時期差が認められないものの（ともに8 b期）、構築時期は2時期にわたるものとみられる。覆土には8 b期～9 a期の土器を含む。ここで注意されるのは炉体土器（85-2）の1基と51号住居址（9 a期）覆土の土器片が接合している。本住居址は最終的には9 a期に廃絶されたのであろうか。

51号住居址 本住居址は炉体に主に相模地方にみられる大型深鉢（90-4）（9 a期）を用いている。覆土より今次調査の中期前半の住居址では最も多量の土器を出土している。覆土の土器の時期は概ね8 b～9 a期にまとまっている。

54・55号住居址 55号住居址覆土中より9 b期の土器が少量出土しており、それに切られるように54号住居址が遺存する。54号住居址では口縁部付近にS字状や渦巻状の隆帯を貼付した「大木式」の影響下にある土器（98-1）などがわずかに出土したのみで時期は特定できないが、9 b期な

いしはそれ以前である。

(中山真治)

2. 加曾利E式期

『恋ヶ窪V』における中期後半の調査結果として、まず留意すべきは、恋ヶ窪遺跡にありながら「連弧文土器」がほとんど出土していない事実であろう。56住居址の炉跡から加曾利E3式(胴部磨消縄文)の成立直前期(「11c2期」)の単沈線地文の連弧文土器(123-6)が出土しているのを除けば、検出された土地利用痕跡は、連弧文土器の成立より古い所産(「10a~11a期」)とその成立~盛行期よりも新しい所産(「12a~12b期」)と理解される。要するに今回の調査区では、加曾利E式期の連弧文成立~盛行期(「11b~11c期」)に土地利用の空白がある。さらには「12c期」以降の生活痕跡も確認されていない。

以下に『恋ヶ窪V』の収蔵「図面」をたよりに、加曾利E式期の各住居址の細別所産時期を概観しておこう。

28号住居址(新) 28号住居址は勝坂式期の所産として調査されたが、西側半分に中期後半の竪穴が重複しており、28号住(新)と表記する。出土した加曾利E3式(59-4)の様相から、「12a期」の廃絶住居と推定される。出土破片(59-15・17~23)も加曾利E3式期の所産である。

33号住居址 逆位埋甕(100-1)入口部埋甕(100-2・3)の様相から「12a期」に機能した住居とされる。伏埋甕(100-4)も同時期の鉢形土器である。覆土出土土器群も「12a期」から「12b1期」にかけての所産である。地文に単沈線を利用する土器群が多いことも、前段階(「12c2期」)から引き続いてのことで、当該地域において連弧文土器が衰退した以降の段階にある。住居廃絶時は「12a期」、埋没期は「12a~12b1期」であろう。土偶(211-1)が出土している。

34号住居址(新) 本住居址の下部から勝坂式の炉体土器(107-7)が検出されており、それを(旧:34a号住、本住居は(新)と表記する。34号(新)に伴う埋甕(105-11)は加曾利E3式、埋甕(106-2)は単沈線の曾利Ⅲ式である。覆土中の土器群は単沈線の曾利Ⅲ式(106-1・3~9)と加曾利E3式(105-1~3・10)が拮抗する状況であり、前述の28号住居址より、やや古い土器組成状況と言えるが、連弧文の伴出はない。住居廃絶から埋没まで「12a期」におさまると判断しておく。土偶(211-6)が出土している。

36号住居址(古・新) 新旧の2軒の竪穴の重複である。36号住居址(古)は、炉体土器(111-3)の様相から「9c期」の所産と判断した。「36b号住」(第36図)と表記された(新)は、土器片囲炉に利用された3個体(110-3・111-8・112-1)と覆土出土の土器群(110-1・2・4~6、111-1・2・5・6)から「12a期」に廃絶、「12a~12b1期」に埋没した住居と推定しておく。

38・39・57号住居址 3軒の重複で、所見での新旧は39号→57号→38号である。57号住居址覆土からの出土土器が最も多く、縄文地文に沈線による胴部文様が施される。「11a期」に下る様相の加曾利E2式(115-3・4)を含みつつ、主として縄文地文に隆起帯による胴部文様が施される「10c

期」の加曾利E 1式(115-5~7・9)が主体と言い得る。57号住居址の埋没は「11a期」にかかる判断しておこう。すると3軒最新の38号住居址の炉体土器(114-1)は実測図を見る限り加曾利E 1式でも最古の「10a期」の所産であり、57→38号という所見に矛盾が生じる。さらに38号住居址の覆土最上層から出土した加曾利E 1式(114-2)は「10c期」の様相であり、57号住居址の土器群より新しいとは言えない。覆土出土の土器片(114-4・5)も「10a~b期」の様相であり、38→57号とする方が土器の検出状況に整合的である。さらに最古と判断された39号住居址は曾利I式(114-8)とともに、同じく「10a期」に比定される加曾利E 1式(114-6・7・10・15)が出土している。39→38→57号は、加曾利E 1式の時間幅(「10a~c期」)で構築→廃絶・埋没→重複を繰り返したのだろう。ちなみに加曾利E 2式(「11a期」)が出土した57号住でも連弧文土器は認められない。そこでの土器組成が連弧文土器成立以前であることが示唆される。

41・60号住居址 調査所見は41号住を「加曾利E式第V段階」、60号住を「勝坂Ⅲ式」と説明するが、土器出土状況と矛盾する。41号住の埋甕(117-1)は浅鉢であるが、磨消縄文の発達する「第V段階」ではなく、より古い所産である。覆土出土の土器群も、縄文地文に沈線による懸垂文が施される加曾利E 2式(「11a期」)が主体である。41号住の廃絶時期は最も遡っても「10c期」、埋没時期は「11a期」と判断するのが穏当である。加曾利E 3式(118-1~3・6)の集中は、41号住覆土を掘り込んだ土壌内に遺棄された個体と認識すべきであろう。60号住については、41号住よりも古いという想定ができるが、所産時期は不明である。かりに隆起帯施文が卓越する2個体(117-2・5)が60号住の覆土に残存していたものだとすれば、(117-2)の様相から「10b期」の埋没が推定されることになるだろうが、定かではない。

46号住居址 出土土器は破片ばかりだが、加曾利E 3式期の土器群(121-1~9・11~13)が主体で、波状口縁、口縁部渦巻文の縄文施文、胴部の蕨手状懸垂文など「12b期」でも新相(12b2期)の特徴がある。住居埋没時期も「12b2期」推定される。土偶(210-8)が出土している。

47号住居址 46号住居址同様に破片ばかりだが、加曾利E 3式期の土器群(122・123図)が中心で(122-1)を典型として「12b2期」の特徴が確認できる。住居埋没時期も「12b2期」であるだろう。土偶(210-6)が出土している。

56号住居址 炉体土器(123-3)は単沈線文の連弧文土器で、覆土出土の曾利Ⅲ式(123-7)とともに磨消縄文成立の直前段階の様相といえる。本住居址の廃絶時期は「11c2期」である。

61号住居址 磨消縄文の加曾利E 3式が主体である。(124-2)の埋甕(第47図)や覆土出土の(124-1)にみられるように胴部に沈線・条線施文のものが、縄文地文のものと拮抗する。「12a期」の廃絶住居であると判断される。土偶(210-4)が出土している。

59号住居址 わずか2点の土器片(125-8・9)が図示されているのみであるが、ともに加曾利E 1式である。根拠に乏しいが「10b期」ないし「10c期」の廃絶住居と仮定しておこう。

52・53・54・55号土壌 土器の出土状況から用途が墓壙と想定される52~56号土壌のうち中期後半

の所産と判断されるのは52号(126-1)、53号(126-2・3)、54号(126-4)、56号(126-6・7)の4基で、すべて加曾利E3式(「12a期」が中心)である。今回の調査で中期後半における土壌群形成は加曾利E3式期に限られていたと判断されよう。(黒尾和久)

まとめ

恋ヶ窪遺跡は、これまで当地域を代表する中期の「大規模集落」として周知されてきた。確かにこれまでの調査成果を鑑み、遺跡全体からみれば、中期前半の勝坂期から中期後半から末葉の加曾利E期までほぼ全期にわたり形式的な連続性は認められるのではあるが、個々の細別時期毎にみていくと、一時期の住居棟数は見かけほど多くはなく、居住場所は時期によって絶えず移動していることが理解される。今後さらに周辺域の調査が進行すれば、時期毎の様相や土地利用の変遷が明らかになるであろう。(中山真治)

表 住居址の時期と重複関係

	時期	住 居 址						棟数		
中 期 前 半	7a	45住						1		
	7b	28住(古)						1		
	8a	25住	52住	40住(古)		(54住?)	32住	4		
	8b	48住	26住	40住(新)	53住?	29住	62住	6		
	9a	50住			51住		49住	3		
	9b	27住	37住			55住	30住	35住	42住	6
	9c				36住(古)				1	
	前半不明							53住	1	
中 期 後 半	10a			(39住?)				38住	2	
	10b		(60住?)						1	
	10c		59住						1	
	11a		41住					57住	1	
	11b								0	
	11c								0	
	12a	28住(新)	56住		34住	61住		33住	3	
	12b		46住		36住(新)		47住		2	
	後半不明							58住	1	

結線は住居の重複関係

Ⅶ 結 語

本調査で検出された主な遺構は縄文時代中期前半の勝坂式期の住居址22軒、中期中葉から末葉加曾利E式期の住居址12軒、時期不明の住居址1軒、土壙9基である。恋ヶ窪遺跡ではこれまでに48地域で発掘調査を行い竪穴住居跡150軒、土壙193基、集石跡29基などが検出されており、この地域を代表する中期の「大規模集落」として認知されてきた。各時期の出土土器の出土状況を分析した結果、小結で述べられたように遺跡全体から見れば、縄文時代中期前半の勝坂式期から中期中葉から末葉にかけての加曾利E式期まで、ほぼ全期にわたり土器の型式的連続性は認められるものの、個々の細別時期毎に居住場所は時期によって絶えず移動している可能性が指摘されている。つまり「大規模集落」とは単に住居の数が多い集落と言う解釈ではなく、その形成過程において小集団の移動の累積的な結果であると解釈している。今後さらに周辺域の調査が進行することによって時期毎の様相や景観の変遷を再考する必要があるであろう。

今ひとつ重要な発見は土偶等の土製品、および石棒、石剣である。特に土偶を観察すると第210-2は頭部に渦巻状文を表出している。第210図-1・3・6・第211図1-6は類似した形態を呈し、正面・背面より側面にかけて沈線による文様が描かれており脚部が広がる安定した有脚立体土偶である。いずれも胴部上半が欠損している。第210図-4は両手を広げた女性像であろうか。第210図-8の正面は腹部、背面は逆ハート形の臀部を表出している。第210図-5は土偶片で背面は剥落し、乳房がやや隆起し、胴部には細かい刺突文が施される。土偶は主に加曾利E期の住居址から出土しており時期的な特徴を示しているといえよう。

こうした土製品の存在から、集落の変遷と同時にそこで生活した縄文時代人の精神世界を知る上でも貴重な資料を得ることができた。

(団長 坂詰秀一)

参 考 文 献

- 安孫子昭二・秋山道生・中西充 1980「東京・埼玉における縄文中期後半の編年試案」
『神奈川考古10』
- 安孫子昭二 1988「勝坂式土器様式」『縄文土器大観2』 小学館
- 安藤文一 1982「翡翠」『縄文文化の研究』 雄山閣
- 石岡憲雄・戸田哲也・西川博孝 1983「施文原体」『縄文文化の研究』 雄山閣
- 市川健二郎 1949「武蔵国分寺恋ヶ窪敷石遺跡発掘調査報告」『学習院史学会報1』
- 木下亀城・小川留太郎 1967『岩石鉱物』 保育社
- 黒尾和久・小林謙一・中山真治 1995「多摩丘陵・武蔵野台地を中心とした縄文時代中期の時期設定」
『縄文中期集落研究の新地平 発表要旨』
縄文中期集落研究グループ宇津木台地区考古学研究会
- 国分寺市 1986「国分寺市史 上巻」
- 小島俊彰 1983「有孔球状土製品」『縄文文化の研究』 雄山閣
- 滝口 宏 1985「武蔵国分寺跡発掘調査概報Ⅷ」 武蔵国分寺遺跡調査会
- 滝口 宏 1987「恋ヶ窪南遺跡発掘調査概報Ⅰ」 国分寺市遺跡調査会
- 滝口 宏 1988「恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅳ」 国分寺市遺跡調査会
- 永峯光一 1979「恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅰ」 恋ヶ窪遺跡調査会
- 永峯光一 1980「恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅱ」 恋ヶ窪遺跡調査会
- 永峯光一 1982「恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅲ」 恋ヶ窪遺跡調査会
- 広瀬昭弘・秋山道生・砂田佳弘・山崎和巳 1985「縄文時代集落の研究—野川流域の中期を中心として—」 『東京考古3』
- 三輪善之助 1922「武蔵国分寺村発見の土器」『人類学雑誌37-12』
- 山内清男 1979「日本先史土器の縄文」 先史考古学会
- 山本暉久 1976「敷石住居出現のもつ意味」『古代文化28-2・3』
- 山本暉久 1982「敷石住居」『縄文文化の研究』 雄山閣
- 吉田 格 1951「武蔵国分寺町八幡前遺跡概観」『武蔵野33-3・4』
- 吉田 格 1957「東京都国分寺町恋ヶ窪竪穴住居址の土器に就いて」『銅鐸12』
- 吉田 格 1962「東京都国分寺町中期縄文式住居址調査概報」『武蔵野41-3・4』

国分寺市遺跡調査会組織

(平成 20 年 3 月現在)

————— 役員および監事 —————

会 長	坂詰 秀一	国分寺市文化財保護審議会委員長
副 会 長	関口雄基臣	国分寺市文化財保護審議会副委員長
理 事	星野 信夫	国分寺市長
理 事	内田 修	国分寺市教育委員会委員長
理 事	松井 敏夫	国分寺市教育委員会教育長
理 事	星野 亮雅	元国分寺市社会教育委員
理 事	古関 豊	国分寺市文化財保護審議会委員
理 事	北原 進	国分寺市文化財保護審議会委員
理 事	坂本 克治	国分寺市文化財保護審議会委員
理 事	小菅 政治	東京都教育庁生涯学習部計画課長
専務理事	竹内 悟	国分寺市教育委員会教育次長兼教育部長
監 事	榎戸 潔	元国分寺市社会教育委員
監 事	岡崎 完樹	東京都教育庁生涯学習部計画課埋蔵文化財係長

————— 武蔵国分寺跡調査・研究指導委員会 —————

委 員 長	坂詰 秀一	(考古学) 立正大学名誉教授
委 員	藤井 恵介	(建築史) 東京大学大学院工学系研究科准教授
委 員	佐藤 信	(古代史) 東京大学大学院人文社会系研究科教授

————— 事務局 —————

事務局 長	福田 信夫	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課長
事務局 員	豊泉 文夫	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課文化財保護係長
事務局 員	太田 和子	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課文化財普及担当係長
事務局 員	松田亜紀子	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課史跡係員
事務局 員	中舎まり子	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課嘱託係員
事務局 員	稲井 亮	国分寺市遺跡調査会

————— 調査団 —————

団 長	坂詰 秀一	立正大学名誉教授
主任調査員	上敷領 久	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課史跡係長
調 査 員	小野本 敦	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課史跡係員
調 査 員	中道 誠	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課嘱託係員
調 査 員	立川 明子	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課嘱託係員

報告書抄録

ふりがな	こいがくほいせきちょうさほうこく							
書名	恋ヶ窪遺跡調査報告 V							
副書名								
巻次								
編著者名	国分寺市遺跡調査団 (団長 坂詰 秀一) 上敷領 久							
発行機関	国分寺市遺跡調査会							
所在地	〒185-0023 東京都国分寺市西元町1-13-6 国分寺市教育委員会内 TEL042-300-0073							
発行年月日								
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ′ ″	° ′ ″			
こいがくほいせき 恋ヶ窪遺跡	とうきょうと 東京都 こくぶんじし 国分寺市 にしこいがくほ 西恋ヶ窪 1丁目	13-214	No.2	3 5 度 4 2 分 0 8 秒	139 度 2 8 分 1 2 秒	1980.10.22 ～ 1987.2.27	1,739.5m ²	範囲確認調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
恋ヶ窪遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居址	3 5 軒	土器	縄文時代中期の集落に係わる遺構を検出		
			土 壙	9 軒	石器			
			小 穴	多数	土製品 石製品			

恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅴ
(本文編)

発行日 平成20年3月31日
編著者 国分寺市遺跡調査団
© (団長 坂詰 秀一)
発行所 東京都国分寺市教育委員会
〒185-0023
国分寺市西元町1-13-6
TEL 042-300-0073
印刷所 (有)明文社

令和4年(2022)3月9日 デジタル版作成
底本はB5版。